

平成16年度・17年度・18年度 京都市教育委員会指定
みやこ 学校創生事業“みやこステップアップ・スクール”
「指導と評価の一体化」

研究主題

学習評価を踏まえた指導の工夫改善

— 実践を通じた評価活動のあゆみ —

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析 実例集



平成17年11月4日（金）

京都市立衣笠中学校

はしがき

平成14年度から、中学校（小学校）において、「評定」も「観点別学習状況の評価」と同じく「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」（以下、「目標に準拠した評価」）によって行うことになりました。この改訂により、全国の中学校（小学校）に評価規準、判断基準（評価基準）、評価方法等の工夫改善及び評価の客観的な妥当性、信頼性を高める取組が求められてきました。

平成14年2月、国立教育政策研究所教育課程研究センターから「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」が示されました。この参考資料は、学習指導要領と各教科等の解説、指導要録の改善通知に示された評価の観点とその趣旨等を踏まえ、学習指導要領の「目標」「内容」の分析を通して、各観点ごとに構造的に洗い出された「内容のまとめりごとの評価規準とその具体例として示されました。しかし、この参考資料は、教科書（教材）を通しての評価規準でないので、学校で教師が実際に使用できる評価規準を作成する必要があります。そのためには、教科書（教材）の段階で作成されたそれぞれの単元（題材）における共通かつ重点的な評価規準から、その評価規準に適切な評価方法等を選択し、教師が実際の授業を思い浮かべた生徒の学習活動の姿で、実際に活用することができる実用的な評価規準を作成することが必要です。

しかし、「目標に準拠した評価」自体の理解や認識が、相対評価に対しての絶対評価と似た程度ぐらいの理解にとどまっているため、「目標に準拠した評価」とはどのような具体的な手順の評価で行うのかといった論議のないまま評価活動を行っている現状があります。

この実践報告は、まず、評価規準を設定するということの意義を理解することを原点にしています。評価規準の設定は、総括的な評価や総合評定を行うための情報や資料収集だけと考えるのではなく、日常的に行われる実際の授業の中で、生徒に身に付けるべき学力（目標）とその実現のための教育的な営みである授業（指導）、そして、生徒に身に付たかどうかを確かめる吟味・検討（評価）といった評価活動の関係の過程で、授業（指導）の見直しを図り、修正・改善し、すべての生徒に身に付けるべき学力を保障するために活用することです。

本冊子は、本校において、教科書（教材）レベルの段階から、実用的な評価規準を設定するために、実際の授業段階における目標・内容分析を行った一手順の事例です。

冊子の内容は、一つは、単元（題材）において、生徒に身に付けたい学力を生徒の学習活動における実際の姿を思い浮かべ、同時に適切な評価方法、評価場面、評価時期などを考え、簡潔に表現された評価規準を作成したことです。（具体化）二つは、生徒の学習の実現状況を的確に評価するため、洗い出された評価規準の中から重要な評価規準を選び出し、選び出された評価規準をどのような順序で指導に置き換え授業を展開するのかを吟味・検討したことです。（精選化、構造化）

この冊子は、評価活動の一端にすぎない不十分であり、未熟な実践報告ですが、各学校で行われている評価の工夫改善にかかわる多くの課題へのアプローチにお役に立てば幸甚です。また、多くの先生方や実践者、研究者からの忌憚のないご助言、ご教示、ご叱正を賜りたく願っております。

平成17年11月4日

京都市立衣笠中学校
校長 北原 琢也

目 次

国語科	1年生	1
国語科	1年生	8
国語科	2年生	19
国語科	3年生	23
社会科	1年生	27
社会科	2年生	31
社会科	3年生	38
数学科	1年生	44
数学科	2年生	48
数学科	3年生	51
数学科	3年生	55
理科	1年生	61
理科	1年生	65
理科	2年生	69
理科	3年生	74
音楽科	1年生	79
音楽科	2年生	83
美術科	1年生	87
保健体育科	2年生	93
保健体育科	2年生	99
保健体育科	3年生	104
技術・家庭科	1年生	112
技術・家庭科	2年生	117
英語科	1年生	121
英語科	2年生	125
英語科	2年生	130
英語科	3年生	135
英語科	3年生	139
育成学級	数学	143
育成学級	技術・家庭	148

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

1年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 第1学年 学年目標

(1)「A 話すこと・聞くこと」の目標

自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

(2)「B 書くこと」の目標

必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。

(3)「C 読むこと」の目標

様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

3 単元名

単元名：古典と出会う(光村図書1年)

題材名：「竹取物語」

4 単元(題材)目標

古典の文章に親しみ、今と昔のつながりを考える。

5 単元(題材)の評価目標

(1)古典に対する興味や関心をもち、古典に親しむ態度を育てる。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：音読(朗読)テスト】

(2)文章に表れている古人のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。

[読むの能力]

【評価方法：感想文の内容による評価】

(3)歴史的仮名遣いや助詞の省略など古文の表現の特徴をとらえ、音読を通して古文のことばの響きや調子に読み慣れる。

[言語事項]

【評価方法：音読テスト及びペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この教材(題材)での指導内容は「C読むこと」についてであり、対象とする文章は文語文(古典)である。

古典の指導については、学習指導要領「第3章 指導計画の作成と内容の取り扱い (4)「C読むこと」の配慮事項 イ」として、次の事項が挙げられている。

イ 古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。その教材としては、古典に関心をもたせるように書いた文章、易しい文語文や格言・故事成語、親しみやすい古典の文章などを生徒の発達段階に即して適宜用いるようにすること。なお、指導に当たっては、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉の決まりについては、細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。 ※下線部は引用者が付す

また、学習指導要領の解説では、その「教材選定」に関して、次の文言を加えている。

古典に関心をもたせるように書いた文章や易しい文語文、格言・故事成語、詩歌、物語、随筆、能・狂言など様々な親しみやすい古典の文章がある。古典の学習を通して、古典への関心を抱かせるもの、古典の世界が形成し今日にも生き続けている文化や伝統等について考えさせるものなど、古典を理解する基礎を養うことに留意して幅広く教材を選ぶことが大切である。 ※下線部は引用者が付す

さらに、小学校の学習指導要領では「第3節 〔第5学年及び第6学年 〔言語事項エ 文語調の文章に関する事項〕で、

(ア)易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。

が挙げられており、本市が採用する光村図書の教科書では以下の教材が提示されている。

[第5学年]	[第6学年]
<ul style="list-style-type: none">●「晴間」(詩：三木露風)●「海雀」(詩：北原白秋)●「雪」(詩：三好達治)○「急がば回れ」「百聞は一見にしかず」 〔「言の研究レポート」「ちえの言葉、言葉のちえ」〕	<ul style="list-style-type: none">●「石走る…」(短歌：志貴皇子)●「秋来ぬと…」(短歌：藤原敏行)●「五月雨を…」(俳諧：松尾芭蕉)●「菜の花や…」(俳諧：与謝蕪村) <p>他に、与謝野晶子・若山牧水・齋藤茂吉・木下利玄・中村汀女・中村草田男・正岡子規・高浜虚子らの短歌・俳句を提示</p> <ul style="list-style-type: none">○「日本で使う文字」内の「平仮名の起こり」「片仮名の起こり」で「ゐ・ゑ」等を紹介。○「今も昔も」(能「柿山伏」…発展)

このような古典の指導の意図や配慮事項、文語文に対する学習の経過等を踏まえて、本題材における指導内容としては「C読むこと 第1学年 オ[ものの見方や考え方]」を挙げた。そして、その評価目標の具体化を図り、「C読むこと」の指導に関して以下のような評価規準を設定した。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
■ 古典 「竹取物語」 ■ C読むこと [ものの見方や考え方] (オ)	①語り継がれてきた「昔話」について、話のあらましを紹介しようとしている。		②話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の使い方や文の整え方などの知識や技能を、自分の話をわかりやすく伝えるために生かしている。
	③教科書を読み、自分の知っている「竹取物語(かぐや姫のお話)」との相違点を紹介しようとしている。	④現代語訳や解説の文を読み、五人の貴公子がかぐや姫から出された難題を知恵と富によって克服しようとするが、すべて失敗におわったことなど、話のあらましをつかんでいる。	⑤物語成立の時期(平安時代初期)を知り、その生活背景(夜の闇を照らす月明かりを古人はどう見ていたか等)を想像して考える。
	⑥古文を歴史的仮名遣いや間を意識して、音読しようとしている。	⑦くらの皇子の語る話の情景描写をとらえ、絵にできるなど内容をとらえている。	⑧歴史的仮名遣いや助詞の省略など古文の表現の特徴をとらえている。
	⑨古文を暗唱する程までに何度も音読して、リズムをもって朗読しようとしている。	⑩かぐや姫が帝に不死の薬に手紙をそえて残し天に昇っていったあと、帝はその薬をどうしたかを自分の想像で物語が作れるなど、登場人物に感情移入し、想像力を働かせてその心情を理解している。	⑩歴史的仮名遣いや助詞の省略・係り結びなど古文の表現の特徴を「間」やリズムとして、音読に生かしている。
	⑫竹取物語の他の場面を読んだり、「きぬかけのみち(衣笠の地)」にまつわる古典を調べたりするなど、古典に親しもうとしている。	⑬文章に表れている「憧れ」や「悲しみ」などと現代人の考えとを比較して、「なぜ、愛する者を手に入れたり守ったりするために、人は『嘘』をついたり、『命』を懸けられたりできるのか」に対する自分の考えをまとめている。	⑭「いと」や「あやし」など現代では使われなくなっている言葉や意味の異なる言葉について確かめている。

(2)「精選化」

「精選化」とは、基礎的・基本的な学習内容である評価規準の中から、本質的・中心的な学習内容を選び出すことである。本質的・中心的な学習内容は、指導内容が「語句の意味や用法」であるのか「内容把握や要約」であるのか等、年間指導(評価)計画で絞り込んだ指導内容(目標)によって異なることになる。

本教材での本校の指導内容は、「オ ものの見方や考え方」である。それゆえに、中学

校に入ってから最初の古典(文語文)の学習であることを踏まえつつ、「オ ものの見方や考え方」の観点から評価規準の精選化を考えた。

まず第1に考えたのは、古典の学習という視点からである。「解説」の配慮事項を見るまでもなく、古典の指導において重視する「音読」についてである。音読を重視するのは、音読を実際に行う中で、「助詞の省略」や「歴史的仮名遣いでの表記」、「係り結びの存在」や「古語の存在」など、「古典の表現の特徴」が生徒たちに見えてくるからである。この視点から精選化した評価規準は⑨及び⑩⑭である。

つづいて考えたのは、第2の視点である本題材での指導内容(目標)との関連からである。本校が年間指導計画から絞り込んだ指導内容は、「オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。」である。その観点から、精選化を図った評価規準は⑬である。そして、その前段階として「文章に表れているものの見方や考え方を理解し」という点から、④⑩を形成的評価として考えている。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
■ 古典 「竹取物語」■ C読むこと [ものの見方や考え方] (オ)		④現代語訳や解説の文を読み、五人の貴公子がかぐや姫から出された難題を知恵と富によって克服しようとするが、すべて失敗におわったことなど、話のあらましをつかんでいる。	
	⑨古文を暗唱する程までに何度も音読して、リズムをもって朗読しようとしている。	⑩かぐや姫が帝に不死の薬に手紙をそえて残し天に昇っていったあと、帝はその薬をどうしたかを自分の想像で物語が作れるなど、登場人物に感情移入し、想像力を働かせて、その心情を理解している。	⑩歴史的仮名遣いや助詞の省略・係り結びなど古文の表現の特徴を「間」やリズムとして、音読に生かしている。
		⑬文章に表れている「憧れ」や「悲しみ」などと現代人の考えとを比較して、「なぜ、愛する者を手に入れたり守ったりするために、人は『嘘』をついたり、『命』を懸けられたりできるのか」に対する自分の考えをまとめている。	⑭「いと」や「あやし」など現代では使われなくなっている言葉や意味の異なる言葉について確かめている。

(3)「構造化」

「構造化」とは、精選化を通して絞り込み重点化した「目標・内容」を、どのような順序で指導すべきか、また生徒のつまづきに対してどのようなフィードバックすればよいかなどを明確にすることである。

本教材の評価目標は、「文章に表れている古人のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる」(「C 読むこと的能力」)である。「C 読むこと的能力」に関しては次のような段階があると考えている。

①文章を「音」として読む能力

(文字として読める。漢字・歴史的仮名遣い等を意識して音読できる。)

②文章を「ことばのまとまり」として読む能力

(単語や文節という言葉・意味のまとまりとして読める。古語などの意味のわからない言葉などが「ことばのまとまり」としてわかる。古典では、「助詞の省略」や「係り結び」などを意識して、「間」をとりながら音読できる。)

③文章を「内容のまとまり」として読む能力

(話題や場面の变化、事例や意見などを意識して読むことができ、そのおおまかな話の内容…要点・要旨・あらすじなど…を説明するなど内容を再構成して表現することができる。)

④文章(書き手)と対話しながら読む能力

(文章に表れている書き手の考えと自分の考えとを比較して、読むことができる。

そのために、書き手の述べている内容を的確につかむことができる。また、自分の考えを説得性のある表現で表すことができる。自分の考えと書き手の考えとの相違点や共通点を見いだすことができる。書き手の考えに対して問いをもったり、検証しながら読むことができる。読むことで、自分の考えを広げたりすることができる。等)

本教材での評価目標はこの④の段階であり、そのために①②③の段階は生徒たちに達成度を確認しながら授業を展開する必要がある。

そこで、この学習過程を次ページのように構造化した。

単元名(題材名)	単元名：古典と出会う(光村図書1年)		題材名：「竹取物語」
指導目標	<p>(1)古典に対する興味や関心をもち、古典に親しむ態度を育てる。</p> <p>(2)文章に表れている古人のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。</p> <p>(3)歴史的仮名遣いや助詞の省略など古文の表現の特徴をとらえ、音読を通して古文のことばの響きや調子に読み慣れる。</p>		
観点	国語への関心・意欲・態度	読むことのできる能力	言語についての知識・理解・技能
第1時 ～ 第5時	<p>⑨古文を暗唱する程までに何度も音読して、リズムをもって朗読しようとしている。</p>	<p>④現代語訳や解説の文を読み、五人の貴公子がかぐや姫から出された難題を知恵と富によって克服しようとするが、すべて失敗におわったことなど、話のあらましをつかんでいる。</p>	<p>⑩歴史的仮名遣いや助詞の省略・係り結びなど古文の表現の特徴を「間」やリズムとして、音読に生かしている。</p> <p>⑭「いと」や「あやし」など現代では使われなくなっている言葉や意味の異なる言葉について確かめている。</p>
第6時 ～ 第8時		<p>⑩かぐや姫が帝に不死の薬に手紙をそえて残し天に昇っていったあと、帝はその薬をどうしたかを自分の想像で物語が作れるなど、登場人物に感情移入し、想像力を働かせて、その心情を理解している。</p> <p>⑬文章に表れている「憧れ」や「悲しみ」などと現代人の考えとを比較して、「なぜ、愛する者を手に入れたり守ったりするために、人は『嘘』をついたり、『命』を懸けられたりできるのか」に対する自分の考えをまとめている。</p>	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国 語 科

1年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 第1学年 学年目標

(1)「A 話すこと・聞くこと」の目標

自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

(2)「B 書くこと」の目標

必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。

(3)「C 読むこと」の目標

様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

3 単元名

単元名：「暮らしを見つめる」（光村図書 1年）

題材名：第1教材「魚を育てる森」 第2教材「『めぐる輪』の中で生きる」
第3教材「課題について調べよう」

4 単元(題材)目標

文章の要旨をとらえ、見つけた課題について調べたり考えたりして、自分の考えをまとめる。

5 題材の評価目標

【第1教材：「魚を育てる森」】

(1)文章を読み、論の展開を考えながら内容を要約して、話して伝えるための「話しの流れとポイントのわかる」1枚レジュメ(発表メモ・発言資料)を作ろうとしている。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：1枚レジュメの工夫点記述】

(2)文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てる。

[読むの能力：ウ「構成や展開」]

【評価方法：「1枚レジュメ」による作品評価】

(3)接続詞の働きに注意して、事例相互の関係など書き手の論の展開(論の述べ方)の理解に役立てている。

[言語事項：エ「話や文章、文」]

【評価方法：「1枚レジュメ」の構成関係】

【第2教材：「『めぐる輪』の中で生きる」】

(1)要旨をとらえるための「問題提起」(発問)をキーワードを元に作り、内容をまとめようとしている。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：作成した「問題提起」とそのまとめ】

7 ルーブリック

①【評価目標】

文章に表れている古人のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。[読むの能力]

②【評価規準】

文章に表れている「憧れ」や「悲しみ」などと現代人の考えとを比較して、「なぜ、愛する者を手に入れたり守ったりするために、人は『嘘』をついたり、『命』を懸けられたりできるのか」に対する自分の考えをまとめている。[感想文による評価]

③【ルーブリック（評価指標）】…ルーブリック作成のための評価要素の分析し、再構成してルーブリック（評価指標）を作ろうとした。その際、今回の指導内容は「読むこと」の（オ）に関することであるので、その要素のみを分析しようとし、構成・叙述等の「書くこと」に関する要素は含まないようにした。この一つの案を組上に載せ、生徒作品（評価事例）を元に教科内で検討を加えていこうとしている。

	書き手（文章）の意見の把握の的確さ	自分の考えの明確さ・説得性
5 す ば ら い	・文章に表れている書き手の考え（事実）を、人物の行為の背景を考えたり、心情を想像するなど、自分独自の視点や観点も交えて、多様な観点から分析してとらえて、再構成して表現している。	・自分が注目した着眼点や観点を明確にしたり、書き手との考えとの共通点や相違点を明確にして、自分の考えを表現しようとしている。 ・自分の経験を踏まえたり、他の事例を紹介したりしながら、自分の考え（論理）を構築して結論づけようとしている。
4 良 い	・文章に表れている書き手の考え（事実）を、人物の行為に表れている心情等を、学習課題として与えられた視点・観点では分析して、再構成して表現している。	・書き手の考え（事実及び分析）と自分の考えとを比較しながら表現しようとしている。 ・書き手との考えとの共通点や相違点を明確にして、自分の考えを表現しようとしている。
3 普 通	・評価語などとして、文章に直接的に表れている書き手の考えを的確にとらえて、まとめなおして表現している。	・書き手の考えと自分の考え等を表現しようとしているが、十分に整理されていない。 ・自分の考えを「すばらしいことだと思う」「よくあることだと思う」等の一片の形容詞句（評価語）のみで表現している。
2 あ と 一 歩	・評価語などとして、文章に直接的に表れている書き手の考えをそのまま引用する形で表現している。	・書き手の考え（他者）のみが紹介されているのみで、自分の考えが紹介されていない。
1 要 努 力	・書き手の考えを書こうとはしているが、何を書いているのかがよくわからない。	・自分の意見を書こうとしているが、何を書こうとしているのかがよくわからない。

(2)文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりする。

[読むの能力：エ「主題や要旨と意見」]

【評価方法：作成した「問題提起」とそのまとめ】

(3)主述の関係などの文節の係り受けの関係などに注意して、内容の把握に役立っている。

[言語事項：エ「話や文章，文」]

【評価方法：作成した「問題提起」とそのまとめ】

【第3教材：「課題について調べよう」】

(1)必要な情報を集めるために、学校図書館等を活用するなどして、進んで様々な種類の文章から抜き書きしたり要約したりしようとする。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：課題レポートの参考資料記述】

(2)様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付ける。

[読むの能力：カ「情報の活用」]

【評価方法：課題レポートの記述内容】

(3)主述の関係などの文節の係り受けの関係などに注意して、内容の把握に役立っている。

[言語事項：エ「話や文章，文」]

【評価方法：課題レポートの記述内容】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

授業は「目標を達成すること」だといわれる。そして、授業は「生徒の学習状況を変容させること」ともいわれる。そして、この二つに異議を唱える者はない。

そうであるなら、学習指導要領が定める一般化されている「指導内容（指導目標・評価目標）」を教材を元に具体化し、授業を組み立てる必要がある。そして、生徒の学習状況やその変容させる姿を「具体的な姿」でとらえる中で、その手だて（授業）を組む必要がある。「具体化」とは、そうした二つの方向性の作業であろう。

本単元は第3教材で育成を目指す「エ『情報の活用』」を主たるねらいに、二つの教材を用意し、「情報活用」のための「読むこと」の指導を第1教材・第2教材を用いて行おうとするものである。そのため、第1教材では「ウ『構成や展開』」・第2教材では「エ『主題や要旨と意見』」という、異なる「読むこと」の指導内容（指導目標・評価目標）を設定している。

本単元で取り上げる「カ「情報の活用（様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付ける。）」は、学習指導要領では指導時間の削減に伴う指導事項の厳選の中でも、新たに加えられた指導事項である。

「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の具体的な指導事項では、「話す活動」「表現（書く）の活動」の進行過程に沿いながら重点的に配列したと述べているが、「読むこと」の配列については言及はないながら、「カ情報の活用」の挙げる「様々な文章から」「必要な情報を集めるための読み方」とは、カの以前の指導事項が掲げる「ア語句の意味や用法」「イ内容把握や要約」「ウ構成や展開」（2・3年では「ウ表現の仕方」）「エ主題や要旨と意見」「オものの見方や考え方」が前提にあるのはいうまでもないだろう。

その意味では、「必要な情報を集めるための読み方を身に付ける」の目標・内容分析の第一歩は、個々の「読む能力」の要素でもある「構成や展開」や「主題や要旨と意見」等

とも言える。そこで、「構成や展開」や「主題や要旨と意見」に関わる目標・内容分析を以下のように考えた。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
【第1教材：「魚を育てる森」】 〔読むの能力：ウ「構成や展開」〕	①「読めない漢字」にルビを振り、「わからないことば」をピックアップして国語辞典で調べようとしている。	②何について書かれた文章かをつかみ、二つの問題提起とその説明を手がかりに、文章を四つのまとまりとしてとらえ、問題提起1の説明を「森林の伐採」「森林の植林」をキーワードにまとめている。	③漢字の読み、ことばの辞書的な意味を理解している。
	④「わかりやすい説明」を意識して、1枚レジュメを書こうとしている。	⑤問題提起2に対する説明を、理由や項目を関係づけて「話の流れとポイントがわかる」1枚レジュメに再構成できる。	⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語（「足し算型」の接続語）の働きを考えて、文章構成の理解に役立てている。
	⑦他者のレジュメを参考にして、自分の1枚レジュメをよりよいものにしようとしている。	⑧他者のレジュメも参考にして、「わかりやすいレジュメの要件」としてあがる「ラベリング」「ナンバリング」が文章構成に関わることを知り、自分の1枚レジュメを作り直せる。	
※第3教材で集約	⑨他の「森林の自然へ果たす役割」を調べたり、「自然界が微妙なバランスを保ちながら存在している関係を森と海以外」を調べようと、図書館やウェブ検索等を利用して進んで調べようとしている。	⑩第四のまとまりの働き（「事例の一般化」）を説得性のある表現との関わりからとらえている。	⑪図書館の利用の仕方やウェブ検索の方法を知っており活用できる。
【第2教材：『めぐる輪』の中で生きる】 〔読むの能力：エ「主題や要旨と意見」〕	⑫キーワードを探り、概要把握のための問題提起を作ろうとしている。	⑬キーワード（「」で強調されていることば、何度も出てくることば、言い換えて表現されていることば等）を手掛かりに、何について書かれた文章かをつかむための「自分の問題提起」を二つのまとまりごとに作ることができる。	⑭「めぐる輪」「めぐる」の辞書的な意味を理解し、同義語的に言い換えている表現をとらえる。
	⑮第1のまとまりを読み、「めぐる輪」とはどのようなことかをもとめようとしている。	⑯「めぐる輪」とは、どのようなことかについての説明をまとめられる。	⑰主述の関係、修飾の関係などを意識して、わかりやすい表現にいかしている。

	⑮ 自分の考えをわかりやすいようにまとめようとしている。	⑯ 『『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組み』とナンバリングしながら、「どのどのような取り組み」の観点で他者に伝えられるようにまとめ、その事実に基づく筆者の意見をラベリングしながらまとめている。	⑳ 並立の接続詞「また」や副助詞「こそ」、副詞「なす」などに注意して、書き手の論の展開の把握に生かしている。
※ 第3教材で集約	21 他の『『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組みの事例』を調べようと、図書館やウェブ検索等を利用して進んで調べようとしている。	22 事例の複数の紹介が筆者の13段落の主張を説得性のあるものに行っていること（事例が一般化される中での主張の妥当性）をとらえている。	23 図書館の利用の仕方やウェブ検索の方法を知っており活用できる。
第3教材「課題について調べよう」	24 新聞や本など情報媒体に興味を持ち、読もうとしている。	25 書物の表題や目次を読んで必要である情報があるかを判断したり、必要な事項を書き写したり、切り抜いたりして、情報を様々な角度から情報を集めている。	26 文字を正確に速く書き写したりしている。
	27 新聞・雑誌に目を通したり、図書館やウェブ検索を利用して、目的に応じた必要な情報を集め、情報を整理してまとめようとしている。	28 新聞・解説書など様々な種類の文章から、「森が切られることによる自然界への影響」や『『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組みの事例』など、必要な情報を集め、他者に伝えるためにまとめている。	29 情報内容を要約するために、辞書などを活用して注釈をつけたり、解説を付けるなど、わかりやすい表現をしている。

(2)「精選化」

「精選化」とは、基礎的・基本的な学習内容である評価規準の中から、本質的・中心的な学習内容を選び出すことである。

本単元の構成は、単元目標そのものを扱う第3教材「課題について調べよう」と、その達成のために必要な個々の「読むこと」の能力を培おうとする第1教材・第2教材から構成している。また、第1教材・第2教材で培おうとする能力自体も学習指導要領が掲げる「学習内容」でもある。

その意味で、本単元では、第1・第2教材では個々の「読むこと」の能力の視点からの「本質的・中心的な学習内容」を絞り込み、第3教材の「本質的・中心的な学習内容」は本単元全体の「本質的・中心的な学習内容」とも重なり合わさるものである。

また、国立教育政策研究所 教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）-評価規準、評価方法等の研究開発（報告）-」が【「C読むこと」の評価規準】として挙げる「学校図書館等を活用するなど、様々な種類の文章に応じた読み方をして内容を的確に理解しようとする」とともに、進んで読書に親しみもの

の見方や考え方を広げようとしている。」は、さまざまな文章を読む学習機会を設定する中ではじめて成立する指導と評価であるので、それについては第3教材として設定した。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
【第1教材：「魚を育てる森」】 〔読むの能力：ウ「構成や展開」〕		⑧他者のレジユメも参考にして、「わかりやすいレジユメの要件」としてあがる「ラベリング」「ナンバリング」が文章構成に関わることを知り、自分の1枚レジユメを作り直せる。	⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語（「足し算型」の接続語）の働きを考えて、文章構成の理解に役立てている。
【第2教材：『めぐる輪』の中で生きる】		⑬キーワード（「」で強調されていることば、何度も出てくることば、言い換えて表現されていることば等）を手掛かりに、何について書かれた文章かをつかむための「自分の問題提起」を二つのまとまりごとに作ることができる。	⑭「めぐる輪」「めぐる」の辞書的な意味を理解し、同義語的に言い換えている表現をとらえる。
		⑰『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組みとナンバリングしながら、「どこのどのような取り組み」の観点で他者に伝えられるようにまとめ、その事実に基づく筆者の意見をラベリングしながらまとめている。	⑱並立の接続詞「また」や副助詞「こそ」、副詞「なず」などに注意して、書き手の論の展開の把握に生かしている。
第3教材 「課題について調べよう」	27 新聞・雑誌に目を通したり、図書館やウェブ検索を利用して、目的に応じた必要な情報を集め、情報を整理してまとめようとしている。	28 新聞・解説書など様々な種類の文章から、「森が切られることによる自然界への影響」や『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組みの事例など、必要な情報を集め、他者に伝えるためにまとめている。	29 情報内容を要約するために、辞書などを活用して注釈をつけたり、解説を付けるなど、わかりやすい表現をしている。

(3)「構造化」

「構造化」とは、精選化を通して絞り込み重点化した「目標・内容」を、どのような順序で指導すべきか、また生徒のつまずきに対してどのようなフィードバックすればよいかなどを明確にすることである。

本単元の目標は「文章の要旨をとらえ、見つけた課題について調べたり考えたりして、自分の考えをまとめる。」である。つまり、情報に接して、その情報を的確にとらえ、その情報の中から課題を見つけて、書き手の意見などを参考に検討を加えながら、その課題に対する自分の意見を持つことである。本単元では、その集約的な学習課題が、第3教材「課題について調べよう」であり、読むことに関する評価目標が「様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付ける」である。

「必要な情報を集めるための読み方」には、次のような段階があると考えている。

① 文章を「音」として読む能力

(文字として読める。漢字を含めて音読できる。)

② 文章を「ことばのまとまり」として読む能力

(単語や文節という言葉・意味のまとまりとして読める。)

③ 文章を「内容のまとまり」として読む能力

(話題や場面の変化、事例や意見などを意識して読むことができ、そのおおまかな話の内容…要点・要旨・あらすじなど…を説明するなど内容を再構成して表現することができる。)

④ 文章(書き手)と対話しながら読む能力

(文章に表れている書き手の考えと自分の考えとを比較して、読むことができる。そのために、書き手の述べている内容を的確につかむことができる。また、自分の考えを説得性のある表現で表すことができる。自分の考えと書き手の考えとの相違点や共通点を見いだすことができる。書き手の考えに対して問いをもったり、検証しながら読むことができる。読むことで、自分の考えを広げたりすることができる。等)

殊に、「必要な情報を集めるための読み方」においては、③の「内容のまとまりとして読む能力」を具体的な力として培う必要がある。そのためには次のような点が考えられよう。

a [話題]	①中心になっている話題(「何についての話か」)を読んでとらえている。
b [立場・意図]	②書き手の意図(「なぜこの話をするのか」「何を伝えたかったのか」)や書き手の考えの立場を読んでとらえる。
c [要点]	③話の要点(話題になった項目)を聞いて列挙できる。
d [構成・論理] (小説等の文学作品では[場面と心理])	④話の要点(話題になった項目)を「事実と意見」「行為と背景・状況」などグループ分けして読める。(読んでグループ分けできる) ⑤グルーピングした要点を関係づけて読める。(読んで関係づけられる)
e [態度]	⑥書き手の表現に対して反応をもつ。 ⑦自分の経験や考えと比較して読み、相違点や共通点を整理できる。(整理して読める) ⑧読んで理解するための手助けとするために、線を引いたり覚え書き(メモ)を書く。

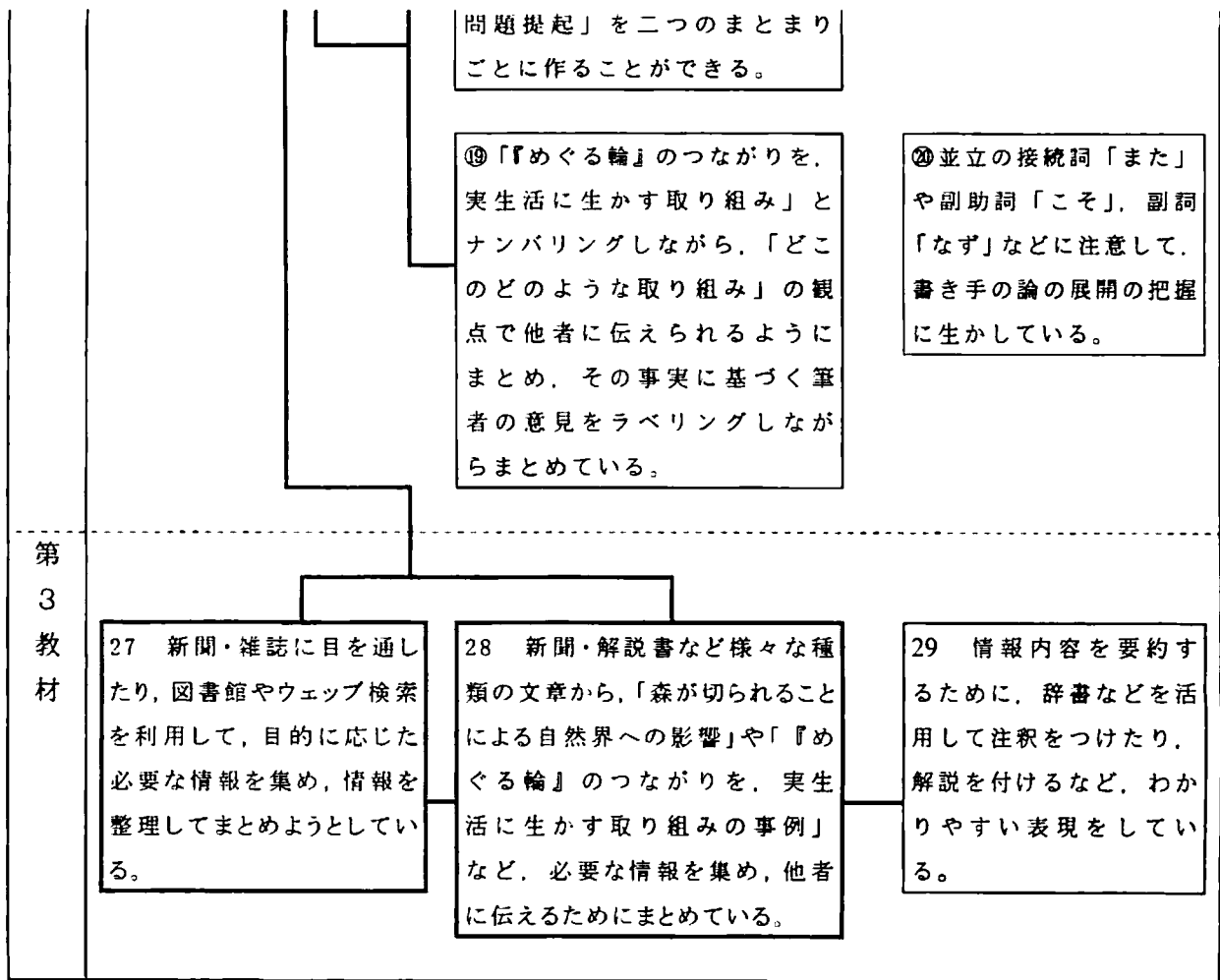
さらに、「読んで、自分の考えを持つ」という視点からは次の点が上げられよう。

f [反応]	⑨書き手の話に対して「発見」「共感」「同意」「疑問」「反対」「混迷」等の反応をもつ。 ⑩自分の反応を基に、書き手と意見交流をしようとする。
--------	--

そこで、本単元では、a [話題]～[構成・論理]を培う目的で、第1教材・第2教材を位置づけている。第1教材では「問題提起」と呼ばれる「話題提示」を明確にした文章での読み方を、第2教材では「問題提起」が明確ではない文章で、「キーワード（キーワードの定義については別ページ参照）」を手掛かりに自らが問題提起を作る中で「話題」をとらえ、読み進めていく方法を培おうとした。

そこで、本単元の学習過程を次のように構造化した。

単元名(題材名)	単元名：「暮らしを見つめる」 第1教材：「魚を育てる森」 第2教材：『「めぐる輪」の中で生きる』 第3教材：「課題について調べよう」		
各教材における主たる指導目標	(1)文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てる。 【第1教材：読む能力 ウ】 (2)文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりする。 【第2教材：読む能力 エ】 (3)必要な情報を集めるために、学校図書館等を活用するなどして、進んで様々な種類の文章から抜き書きしたり要約したりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】 ※近年、「国語への関心・意欲・態度」については、「学習状況をどのように看取るか」の視点とともに、「どのように指導するのか」の視点が論議されている。第3教材は、そうした視点に立つものである。		
観点	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
第1教材	⑧他者のレジюмеも参考にして、「わかりやすいレジюмеの要件」としてあがる「ラベリング」「ナンバリング」が文章構成に関わることを知り、自分の1枚レジюмеを作り直せる。		⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語(「足し算型」の接続語)の働きを考えて、文章構成の理解に役立てている。
第2教材	⑬キーワード(「」で強調されていることば、何度も出てくることば、言い換えて表現されていることば等)を手掛かりに、何について書かれた文章かをつかむための「自分の		



7 ルーブリック

第1教材での「1枚レジュメ」と、第3教材での「レポート」とについてのルーブリックを記載する。従来から「内容の理解(把握)」に関しては、

- ①書かれている内容を話すことで伝える。
- ②話して伝えるための「1枚レジュメ」を作る。
- ③読んだ内容をもとにパネルディスカッションをする。
- ④読んだ内容をもとにクイズを作る。
- ⑤確からしさを増す他の事例を挙げる。(パロディを作る)

等の「読み」を再構成させる課題を設定することで評価しようとしてきた。こうした「読み」を再構成させる課題を設定すれば、生徒達は内容を要約したり構造化してとらえようとし、それが「1枚レジュメ」やパロディーという形で表れるだろうと考えたからである。

今回の「1枚レジュメ」もそうした位置づけの「内容を再構成する課題」の一つである。

なお、本第1教材では、「1枚レジュメ」を作る機会を二度設けている。一度めは【診断的評価】として用いる⑤の時であり、もう一度は指導を経た後の【総括的評価】としての⑧の時である。個々のレジュメの交流を通して、「わかりやすさの要素」を確認して、説明を構造的にとらえることが図れればと考えている。評価材料は「1枚レジュメ」であり、その構造化の質で判断する。それがルーブリックである。

また、第3教材の「レポート」についても、その「他者に伝える」という課題の中で、どのように目的に適した資料を探し、問題点を明確にしながら、どのようにまとめ、自分

の意見を持つのかの質を問うループリックを掲げておく。なお、このレポートについては、第2教材の学習後、2ヶ月間で書き上げる課題としている。こうした評価には長いスパンの学習活動が必要であると考えている。

① 第1教材「魚を育てる森」

① 【評価目標】

文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てる。 [読むの能力：ウ「構成や展開」]

② 【評価規準】

⑧ 他者のレジュメも参考にして、「わかりやすいレジュメの要件」としてあがる「ラベリング」「ナンバリング」が文章構成に関わることを知り、自分の1枚レジュメを作り直せる。 [「1枚レジュメ」による作品評価]

③ 【ループリック（評価指標）】…ループリック作成のための評価要素の分析し、再構成してループリック（評価指標）を作ろうとした。今回の課題は「書かれている内容を、話すことで伝えるための『1枚レジュメ』を作れ」である。“①書かれている内容を話すことで伝える”“②話して伝えるための「1枚レジュメ」を作る”をタスクとして用いる。「話すこと」や「1枚レジュメの作成」は目的ではなく、手段である。

「話すことで伝える1枚レジュメを作れ」という課題の中で、生徒たちは次のことを求められる。「話すことで伝えるレジュメ」とは、「読む資料」ではなく「見る資料」（要約された資料）を作ることの意味する。

⑦ 文章を「構造的に」読むこと。

（並立や累加、例示や根拠と主張等を区別して読むこと）

① 読んだ内容を「構成・構造」に基づいて再構成すること。

② 再構成の際には、「要約」と「構造化」すること。

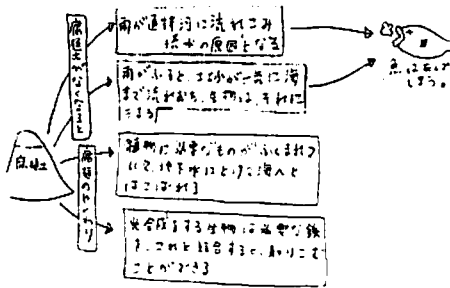
その意味で、ループリックを作成する際の「要素」として、「文章を構造的に再現できているか（構造的に読んで再現できているか）」と「引用ではなく要約する形で表現できているか」を挙げた。

	A 文章を構造的に再現できているか	B 要約する形で表現できているか
5	①「森の存在」と「腐植土」の関連を説明している。	① 文章の引用ではなく、「」のことはをキーワードにまとめられた表現になっている。
ば	②「腐植土（森の存在）」の有無と「魚を守る」「魚を育てる」関係との説明をしている。	② 右の「」のことはナンバリングされて関係づけられていたり、表の中で分岐点が明確に示されていたりしている。
い	③「魚を守る」視点の説明を「渇水」「洪水」の観点に分けて説明している。 ④「魚を育てる」視点の説明を「有機物質（窒素・リン・ケイ素）」と「鉄分の結合」の観点に分けて説明している。	③ 右の「」のことは色づけされていたり、下線が付されていたり、ゴシックで書かれていたりキーワードであることが明確に示されている。 ④ 因果関係（理由と結果）を矢印で示すなど、「見る資料」としての工夫がある。
	※すべてを含み、段階を整理して説明している。	※①～④のすべてを含むレジュメ。

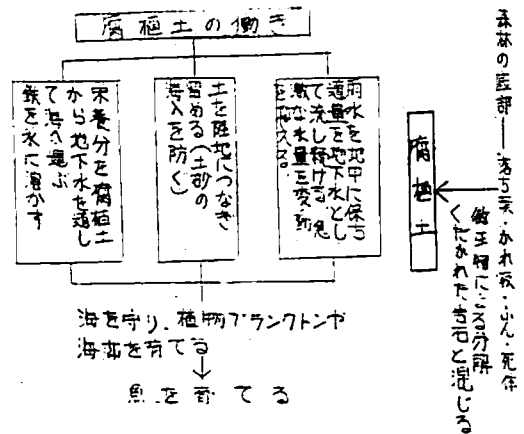
4	上記の①～④を段階を整理して説明するも、抜けている説明がある。	①をクリアーし、②～④の内二つの工夫が見られるレジュメ。
3	※上記の①②を段階を整理して説明している。 ※他の③④については抜けていたり、混乱が見られる。	①をクリアーし、②～④の内二つの工夫が見られるレジュメ。
2	※上記の①②及び③④について説明をあとしているものの、事項の羅列であったり、段階の整理が見られない。	①をクリアーするものの、②～④の工夫が見られないレジュメ。
1	※事項の羅列のみであり、構造的に整理できていない。(項目ごとの関連づけがみられない。)	文をそのまま引用するなど、要約しようとする意図が見られないレジュメ。

◆評価事例

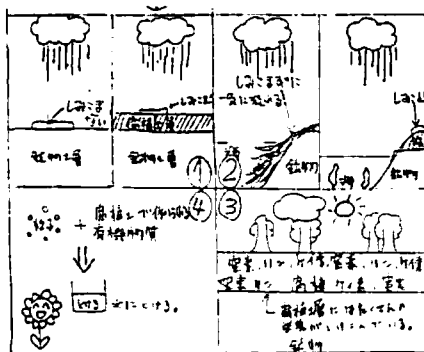
5



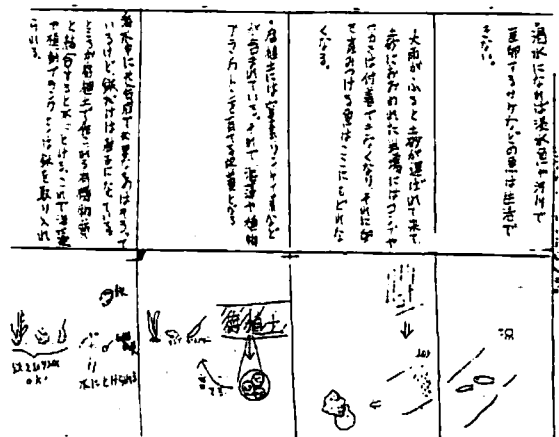
4



3



2



① 第3教材 「課題について調べよう」

①【評価目標】

様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付ける。

エ「主題や要旨と意見」

②【評価規準】

28 新聞・解説書など様々な種類の文章から、「森が切られることによる自然界への影響」や「『めぐる輪』のつながりを、実生活に生かす取り組みの事例」など、必要な情報を集め、他者に伝えるためにまとめている。 [課題レポートの記述内容]

③【ループリック（評価指標）】

	A 情報の収集	B 情報の加工
5	①複数の情報源から情報を得て、情報の確からしさを確保しようとしている。 ②異なる観点からの情報を得て、多様な視点から情報を得ようとしている。 ③情報源が明確である情報を元にして いる。 (④立場が異なる主張などの情報である場合は、異なる立場からの情報を得て、客観性を確保しようとしている。) ※[今回の課題は該当せず]	①情報をそのまま写すのではなく、要点をまとめて紹介している。 ②引用と要約とは区別して記述している。 ③複数の事例を紹介し、その共通点や相違点から自分の意見を書いている。 ④「自然界の妙なバランス」や「『めぐる輪』のつながり」など、情報収集の目的に沿って情報がまとめられている。 ⑤一文の短さ、主述関係や修飾関係の明確さなど、わかりやすい文章となっている。
4	※上記①②③の内、 <u>二つ</u> をクリアーしている。	※上記①～⑤の内、 <u>三つ以上</u> をクリアーしている。
3	※上記①②③の内、 <u>一つ</u> をクリアーしている。	※上記①～⑤の内、 <u>二つは</u> クリアーしている。
2	※上記①②③をクリアーしない中での情報が元になっている。	※上記①～⑤の内、 <u>一つは</u> クリアーしている。
1	※課題に適さない情報を元にして いる。	※上記①～⑤の内、クリアーするもの が一つもない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

2年

1 教科目標

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 学年目標

(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

(A 話すこと・聞くこと)

(2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

(B 書くこと)

(3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

(C 読むこと)

3 単元名 2年 「単元4 古典を楽しむ」
題材名 『扇の的』（「平家物語」から） 光村図書

4 題材目標

那須与一がとった行動について物語の台詞を参考に考え、自分の意見・考えを表現できる。

5 評価目標

(1) 古典の文章の特徴をとらえ、それぞれの場面・心情をつかみ、古典に親しむ態度を育てる。

(国語への関心・意欲・態度)

(評価方法：群読観察)

(2) 古典の文章を読んで、人間、社会、について考え、自分の意見を持つ。

(読むこと-エ)

(評価方法：ワークシート)

(3) 歴史的仮名遣い・語形・助詞の省略・対句・七五調など、古典の文章の特徴に親しむ。

(言語事項)

(評価方法：群読観察・暗唱テスト)

6 【具体化】【精選化】【構造化】

(1) 【具体化】

本題材の評価目標は、「古典の文章を読んで、人間、社会、について考え、自分の意見を持つ」ということである。その、人間や社会について、那須与一が平家の老武者を射倒したことに對する「あ、射たり」「情けなし」と言ったそれぞれの武士の考えから考えさせたい。

その目標を達成するためには、まず古典の文章を読み込まなくてはならない。歴史的仮名遣いや、語形、助詞の省略、対句表現などを確認し、現代語だけでなく、古文を読み親しむ機会にする。平家物語は語り物語であるので、七五調のリズム感溢れる特有の文章を体感させるために、声に出して読んでいきたい。さらに、グループで群読をすることで、七五調・対句表現などの効果を感じさせたい。

こうした、音読・群読を通して、先人の考え方・感じ方を考える学習につなげたい。その考えと現代の自分の考えを比較して、実際の生活の中に役立てさせる。

以上のことをふまえ、評価基準を具体化したものが、(表1)である。

(表1) 【教科書及び実際の授業を想定した目標・内容分析の「評価規準」】

学習内容	国語への関心 意欲・態度	読むこと	言語事項
四 古典を楽しむ 『扇の的』 C 読むこと 〔主題や要旨と意見〕 (エ)	①「平家物語」の冒頭文を読み、暗唱し、作品全体に現れる「無常観」を感じ取ろうとしている。	②口語訳・注釈を参考に、状況や場面のあらましをつかみ、情景・場面を想像し、絵にできるなど再構成できる。	③物語の成立時期(平安時代末期)を知り、その生活背景を想像して考えている。
	④歴史的仮名遣いや、間を意識して、音読しようとしている。	⑤場面と状況をもとに、与一の心情を想像し、文章化できる。	⑥歴史的仮名遣い・語形・助詞の省略・対句・七五調など、古典の文章の特徴を理解している。
	⑦古典の文章の特徴をとらえ、CDの群読を参考に自分たちの群読を工夫している。(強弱・分担)	⑧与一の行動に対して「あ、射たり」「情けなし」と言った武士の考えを理解し、与一の行動に対し、自分の考えをもっている。	⑨語形・対句・七五調など、「平家物語」の文章のリズムを音読に生かしている。
	⑩作品を読み、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めようとしている。	⑪自分の考えと、古人の考えを比較し、人について考えを深めている。	

【精選化】

次に、具体化された「評価基準」の中から、この単元目標をふまえて、実現状況を的確に評価できる実用的な「評価規準」へと精選化した物ものが次の（表2）である。実際の授業では（表1）の「評価規準」①～⑩に沿って授業を展開していくが、総括的な評価は（表2）をもとに行う。⑥⑦⑩を総括的な評価とし、それ以外は形成的評価にとどめ、⑥⑦⑩の評価項目で総括的に評価する。

（表2）【精選化された「評価規準」】

学習内容	国語への関心 意欲・態度	読むこと	言語事項
四 古典を楽しむ 『扇の的』 C 読むこと 【主題や要旨と意見】 (エ)	①	②	③
	④	⑤	⑥
	⑦ 古典の文章の特徴をとらえ、CDの群読を参考に自分たちの群読を工夫している。(強弱・分担)	⑧	⑨ 語形・対句・七五調など、「平家物語」の文章のリズムを音読に生かしている。
	⑩	⑩ 「あ、射たり」「情けなし」と言った武士の考えを理解し、自分の意見とともに表現できる。	⑫

【構造化】

精選化された評価規準を、実際の授業のどの段階で活用できるかを考え、もっとも効果的な時期に評価できるように並び替えてみると、次の（表3）になる。

授業は全5時間で行うこととした。指導の流れは次の通りである。

- 教科書の挿絵などを通し、古典の世界に生きた人々の暮らしや思いを想像する。
- 教材を概観し、学習方法・順序などの見通しを立てる。
- 「平家物語」について知っていることを発表しあう。→「冒頭文」暗唱
- 「扇の的」の現代文を読み、あらすじ・感想・疑問をまとめ、発表する。
- 群読のCDを聞き、古文の特徴（仮名遣い・語形・七五調など）の部分を指摘する。
- グループに分かれ、役割分担し、群読の練習をし、発表する。
- 与一が平家の老武者を射倒したことについて、「あ、射たり」「情けなし」について自分の考えを書いて発表する。

【構造化された「評価規準」】

単元名	古典を楽しむ		
指導目標	主人公がとった行動について物語の台詞を参考に考え、自分の意見・考えを表現できる。		
観点	国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
第1時			語形・対句・七五調など、「平家物語」の文章のリズムを音読に生かしている。
第2～4時	古典の文章の特徴をとらえ、CDの群読を参考に自分たちの群読を工夫している。（強弱・分担）		
第5時			「あ、射たり」「情けなし」と言った武士の考えを理解し、自分の意見とともに表現できる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国 語 科

3年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 学年目標（第2学年及び第3学年）

- (1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
- (2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

3 題材名 3年「四 状況に生きる」『故郷』（魯迅）（光村図書「国語3」）

4 題材目標

*作品に描かれた当時の中国の社会状況やその中での人々の生きざまを、〈わたし〉の視点を通して豊かに読み取り、作品の主題である〈境遇・立場を越えた人間どうしの友情・連帯とは何か〉に対して自己の意見をもつ。（関連:C「読むこと」ウ、エ）

5 単元（題材）の評価目標

- ①作品に描かれた情景を、〈わたし〉の視点から自分なりに再構成して捉えようとする。
(関心・意欲・態度)
- ②話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉える。
(読むこと)
- ③情景描写を特徴づける表現（擬人法など）に注目し、場面にふさわしく意味を理解する。
(言語事項)

6 授業づくりにむけて

(1) 「評価規準」の具体化

まず、実際の授業を想定しながら、生徒に身につけてほしい内容を「評価規準」の形に具体化してまとめてみたのが、次ページの（表1）である。

今回の単元目標は「読むこと」を中心に掲げているため、評価規準についても「読むこと」を中心に設定した。「読むこと」の指導（評価）の流れは、次の通りである。

（第1段階）…通読し、おおまかな話の流れを、場面のつながりで捉えている。

（第2段階）…話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉える。

（第3段階）…作品の主題〈境遇・立場を越えた人間どうしの友情・連帯とは何か〉に対して自己の意見をもつ。

この三段階は、最初の通読から、物語のおおまかな構造を読み取り、次に描かれている場面を生き生きとしたイメージ（形象）を伴って読み取り、最終的に物語の主題を読み取るというように、生徒の読解が深まっていく過程に対応している。

（表1）教材および実際の授業を想定して具体化された「評価規準」

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
四 状況に 生きる 「故郷」	①作品に描かれた情景を、〈わたし〉の視点から自分なりに再構成して捉えようとしている。	②通読し、おおまかな話の流れを、場面のつながりで捉えられる。	③「寂寥の感」などの抽象的概念を表す語句について理解している。 ・擬人法、比喩表現などについて、文脈に即して意味をつかんでいる。
	④登場人物の人間像を、場面に即して捉えようとしている。	⑤話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉えられる。	
	⑥作品を読んで、自分のものの見方や考え方を深めようとしている。	⑦作品の主題〈境遇・立場を越えた人間どうしの友情・連帯とは何か〉に対して自己の意見をもつことができる。	

（2）「評価規準」の精選化

次に、（1）で具体化された「評価規準」の中から、この単元の目標（生徒に身につけさせたい学力）をふまえて、その実現状況を的確に評価できる実用的な「評価規準」へと精選したものが、次ページの（表2）である。

実際の授業のなかでは（表1）に掲げた①～⑦の「評価規準」に沿った指導を展開していくが、すべての項目について総括的な評価を行うわけではない。例えば、「読むこと」

の②「通読し、おおまかな話の流れを、場面のつながりで捉えられる」は、授業の初期の段階で生徒たちの様子を観察しながら確認はするが、それは最終の評価に反映するものではなく、あくまでも授業の次のステップにすすむための中間的な評価である。そこで「評価規準」の精選化の段階では、②の内容は評価から省いている。また、「国語への関心・意欲・態度」が3つから1つにしぼられているのは、④、⑥については形成的評価であり、「読むこと」の評価とともに授業観察の中で行なうからである。

(表2) 精選化された「評価規準」

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
四 状況に生きる 「故郷」	①作品に描かれた情景を、〈わたし〉の視点から自分なりに再構成して捉えようとしている。	②	③「寂寥の感」などの抽象的概念を表す語句について理解している。 ・擬人法、比喩表現などについて、文脈に即して意味をつかんでいる。
	④	⑤話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉えられる。	
	⑥	⑦作品の主題〈境遇・立場を越えた人間どうしの友情・連帯とは何か〉に対して自己の意見をもつことができる。	

(3) 「評価規準」の構造化

さらに、実際の授業として指導計画を立てていくと、(2)で精選化された「評価規準」が指導のどの段階で、どんな順序で活用されるのか、という構造化が必要になってくる。その作業は、それぞれの目標・内容の系統性、連続性などをふまえながら、実際の授業場面で生徒たちの学習する姿を想像して、指導の成果が観取れるためのいっそう実用的な「評価規準」づくりとなる。これをまとめたものが次ページの(表3)である。

具体的には、この単元を全9時間の授業で構成することにした。すると、第1時では、作品・作者についての簡単な説明のあと、全文通読による大まかな読み取りが学習の中心となる。その際、情景のイメージ画を描かせるというパフォーマンス課題によって「関心・意欲・態度」の「作品に描かれた情景を、〈わたし〉の視点から自分なりに再構成して捉えようとしている。」の評価を行う。

また、「言語についての知識・理解・技能」（いわゆる言語事項）の「評価規準」の内

容は、初期の通読の段階から場面ごとの精読の段階まで、数時間にわたって、系統的に指導していく必要がある。ここでの理解は「読むこと」における「話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉えられる」という第2時～第8時までの土台なり前提となるものである。

そして、まとめの段階である第9時では、ここまでの読み取りをふまえて、作品の主題に迫っていく。最終的には、授業で確認したり気づいたりした内容をもとに、各自が「立場や境遇を越えた友情は成立するのか？また成立するための環境・条件は？」というテーマでの課題レポートに取り組み、作品評価によって、「自己の意見を持っているか」について、具体的に観取っていく。

（表3）構造化された「評価規準」

単元名	四 状況に生きる 「故郷」		
指導目標	時代状況に生きる人々の姿や心情を捉え、作品の主題から、人間・社会について自分の考えを深める。		
観点	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
第1時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 作品に描かれた情景を、〈わたし〉の視点から自分なりに再構成して捉えようとしている。 </div>		
第2～8時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 話者（語り手）の視点や登場人物どうしの関係、作品内の「対比」などを手がかりに、登場人物の心情を捉えられる。 </div>		
第9時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 作品の主題〈境遇・立場を越えた人間どうしの友情・連帯とは何か〉に対して自己の意見をもつことができる。 </div>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

1年

1 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。

2 単元名 大阪書籍「中学社会地理的分野」

第3章 「世界の国について調べてみよう」

1 中華人民共和国(中国)を調べる。

3 単元目標

- ・ 世界の国々について調べ、人口、農業、工業などその国の特色について考察することができる。
- ・ 資料を活用しながら、自ら調べるテーマを決定したり、追求したり、調べた結果をまとめることができる。

4 単元(題材)の評価目標

(1) 世界の国々についての特色を調べようとする。

[社会的事象への関心・意欲・態度]

【評価方法：ノート】

(2) 調べる課題を設定し、人口や農業、工業などの特色について考察している。

[社会的な思考・判断]

【評価方法：ノート】

(3) 資料などをもとに、調べた過程や結果について、まとめ発表することができる。

[資源活用の技巧・表現]

【評価方法：ノート】

(4) 調べた国の特色について理解し、知識を身につけている。

[社会的事象についての知識・理解]

【評価方法：テスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元では、世界の国々に対して関心を高め、調べ追求し、地理的特色をとらえる視点や方法を考察することが大切である。

「中国を調べる」単元では、中国の概要、農業・工業のようすや発展、日本との結びつきを考えさせ、発表させ、より興味・関心を持たせ、自ら調べ、発表させる力を育てたいと考え、以上のような評価基準を設定した。

学習内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能 ・表現	社会的事象についての 知識・理解
中国を 調べる	中国について知っていることを追求しようとしている。	中国の人口数を調べ、その構成民族を考察している。	国別資料を使い、調べた結果や気づいたことを発表することができる。	人口や面積・気候など、地域的な特色を理解し、身に付けている。
世界一の人口を支える 農業	農業の様子を自然と関連させ、農業の特色をとらえようとしている。	世界一の人口を支えるための農業の工夫や制度について考察している。	日本と中国の農業を比べ、似ているところや違いについてまとめることができる。	変化する農業のしくみについて理解し、農業の特色を身に付けている。
発展する 工業	工業の発展について、中国製品の普及などからとらえようとしている。	工業を発展させるための工夫や制度について考察している。	鉱産資源の種類や量について他国と比較し、まとめた結果を発表することができる。	工業の近代化がどのように進められているのか理解し、その特色を身に付けている。
これからの 中国	都市の人々の暮らしについてとらえようとしている。	都市の様子から、現在の中国の特色を考察しようとしている。	中国の貿易相手国のグラフから、日本との関係を発表することができる。	日本と中国との関係について理解し、今後深まっていく結びつきを身に付けている。

(2) 「精選化」

中国の特色の一つが世界一の人口である。この人口を支える農業が現在どのように行われているのか考えさせることが、大切だと考えることが大切だと考える。また、資源と工業を結びつけ工業化を目指す中国の様子についても考え、日本と中国との交流にもふれ、今後ますます関係が深まる中国について深めることができると考える。

楽章内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・ 表現	社会的な事象について の知識・理解
中国を 調べる		①中国の人口数を調べ、その構成民族を考察している。		②人口や面積・気候など、地域的な特色を理解し、身に付けている。
世界一の人口を支える 農業	③農業の様子を自然と関連させ、農業の特色をとらえようとしている。			
発展する 工業		④工業を発展させるための工夫や制度について考察している。		
これからの 中国			⑤中国の貿易相手国のグラフから、日本との関係を発表することができる。	

(3) 「構造化」

指導目標	現在の中国を理解し、農業や工業のしくみやこれからの中国について考えることができる			
観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象に ついての知識・理解
第1時		①中国の人口数を調べ、その構成民族を考察している。		②人口や面積・気候など、地域的な特色を理解し、身に付けている。
第2時	③農業の様子を自然と関連させ、農業の特色をとらえようとしている。			
第3時		④工業を発展させるための工夫や制度について考察している。		
第4時				⑤中国の貿易相手国のグラフから、日本との関係を発表することができる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

2年

1 社会科の教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を深め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

歴史的分野の目標

(1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通じて我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

(3) 歴史に見られる交際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2 単元名 (教科書 東京書籍 新しい社会 歴史)

第6章 2度の世界大戦と日本

第1節 第1次世界大戦とアジア・日本

3 単元目標

歴史的分野 第6章の内容は次のように考える。

(1) 人類を惨禍に巻き込んだ第一次世界大戦の原因を国際情勢のあらましを通じて理解させるとともに、大戦後の国際的な平和を築くための努力、植民支配に抵抗する民族運動、また我が国国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。

(2) 昭和初期から第二次世界大戦の終結までの経済の混乱と社会問題の発生を国際情勢のあらましを通じて理解させるとともに、我が国の政治・外交の動き、軍部の台頭、中国などアジア諸国との関係を整理する。また戦時下の国民の生活に着目させる。

4 単元の評価目標

(1) 世界大戦が引き起こす被害の悲惨さと戦争を回避するための様々な試みについて意欲的に知ろうとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)

【評価方法 ワークシート】

(2) 世界大戦の原因を多面的・多角的に考察することができる。(社会的な思考・判断)

【評価方法 ワークシート ペーパーテスト】

(3) 世界大戦における日本の対応とその影響を地図・統計・グラフなどを適切に活用して考察することができる。
(資料活用の技能・表現)

【評価方法 ワークシート ペーパーテスト】

(4) 世界大戦の原因とその影響として国民の政治的自覚の高まりに気づきその知識を身につけている。

(社会的事情についての知識・関心)

【評価方法 ワークシート ペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

第6章は主に20世紀前半を取り扱い、その主軸となるのは2度にわたる未曾有の世界大戦である。2度にわたる世界大戦は、まず、その規模の点において、今までの戦争が局地戦争であったのに対し、世界の人々を巻き込んだ総力戦という新しい形をとった。さらに、戦場は、その都度開発された新しい大量殺戮兵器の実験場と化しひいては人類全体の存続に関わる事態を生み出した。しかし、同時に近代社会は、自由・平等・人権思想などの考え方を生み発達させてきたことも事実である。その考えのもとに戦争を阻止する動きも明確になってくる。そこで、第6章を学ぶにあたって、戦争の世紀であった20世紀を終え、21世紀にむけて何を学ばよいか大切になってくる。生徒自身が自分たちの世代の問題として考えるようにしたい。

なお、本単元(第1節)は、上記の内容の〈ア〉に相当し、第一次世界大戦の前後の国際関係と日本の動きが中心である。

学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解 【重要語句】
第6章 二度の世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦とアジア・日本	①第一次大戦の原因と現在まで続く民族問題について関心を高め、意欲的に追求しようとする。	②第一次大戦の背景や戦後の国際協調の動きを帝国主義と民族自決の動きに注目し、考察することができる。	③第一次大戦前後の国際情勢のあらましを植民地状況・民族自決に関する地図・統計・グラフなどの資料を適切に選択し活用することができる。	④第一次大戦の原因とその結果と影響を整理することができる。 【バルカン半島・同盟国・連合国・ロシア革命・ベルサイユ条約・民族自決】
		⑤日本の第一次世界大戦への対応についてアジアを中心に考察することができる。	⑥第一次大戦における日本のアジアを中心にした対応と結果を地図・統計・グラフなどの資料を適切に選択し活用することができる。	⑦第一次世界大戦における日本の対応を整理することができる。 【日英同盟・シベリア出兵・米騒動】
		⑧国内における政党政治の発展や社会運動の展開について考察することができる。	⑨第一次大戦後の日本国民の政治的自覚の高まりと護憲運動や労働運動などを有権者の統計などの資料を適切に選択し活用することができる。	⑩戦後の民主主義運動の高まりを整理することができる。 【護憲運動・政党内閣・普通選挙法・治安維持法・労働運動・小作争議】
	⑪世界全体を巻き込む大戦争が人類に多大な被害を与えた現実に関心をもち、その反省の上で戦争を回避する様々な試みを追求しようとする。	⑫世界大戦が人類全体に及ぼした惨禍の状況を公正に判断している。	⑬第一次大戦における新兵器についての資料を写真など適切に選択し活用することができる。また、戦争回避に向けた取り組みを整理することができる。	⑭戦争回避にむけた取り組みを整理することができる。 【国際連盟】
	⑮現在の国際関係とわりわけアジアにおける我が国の対応について歴史的認識にかかわって関心をもち、考えようとする。	⑯第一次大戦を通じて日本がアジアへの侵略をすすめるとともにそれに対する民族自決の動きを多面的に考察することができる。		⑰アジアにおける民族独立の動きについて整理することができる。 【21カ条の要求・五・四運動・三・一独立運動】

(2) 精選化

「戦争の世紀」であった 20 世紀を振り返り、21 世紀を平和で希望あふれる社会にするためには、まず戦争の悲惨さを正確に把握することから始める必要がある。20 世紀の歴史は一面では新兵器が開発されるとそれに対抗するための新兵器の開発競争であった。そこで、⑩の世界大戦が人類全体に与えた被害を実情に即して的確に提起し関心を持たせることから始めたい。その上で、なぜこうした戦争が起きたのかを考えさせることとする。ただし、第一次世界大戦の主な戦場はヨーロッパであるが、現在の生徒は世界地理を網羅的に学習していないため、ヨーロッパの状況を地図や資料などを用いて十分に整理することが必要と思われる。したがって、とりわけ③の第一次大戦前後の国際情勢の中で、大戦前の背景を地図・統計・グラフなどの活用によりしっかりと理解させることが重要である。その後、第一次大戦の流れをヨーロッパ中心に展開する。その一方で、⑥⑨の大戦を契機とした日本のかかわりや戦後の民主的な運動を整理する。以上の確認の上で⑬の戦争回避の動きについての取り組みを整理する。

学習 内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象について の知識・理解 【重要語句】
第6章 二度の 世界大 戦と日 本 第1節 第一次 世界大 戦とア ジア・ 日本			③第一次大戦前後の 国際情勢のあらまし を植民地状況・民族自 決に関する地図・統 計・グラフなどの資料 を適切に選択し活用 することができる。	④第一次大戦の原因 とその結果と影響を 整理することができる。 【バルカン半島・同盟 国・連合国・ロシア革 命・ベルサイユ条約・ 民族自決】
			⑥第一次大戦におけ る日本のアジアを中 心にした対応と結果 を地図・統計・グラフ などの資料を適切に 選択し活用すること ができる。	⑦第一次世界大戦に おける日本の対応を 整理することができる。 【日英同盟・シベリア 出兵・米騒動】
			⑨第一次大戦後の日 本国民の政治的自覚 の高まりと護憲運動 や労働運動などを統 計などの資料を適切 に選択し活用するこ とができる。	⑩戦後の民主主義運 動の高まりを整理す ることができる。 【護憲運動・政党内 閣・普通選挙法・治安 維持法・労働運動・小 作争議】
⑪世界全体を巻き込 む大戦争が人類に多 大な被害を与えた現 実に関心を持ち、その 反省の上で戦争を回 避する様々な試みを 追求しようとする。	⑫世界大戦が人類全 体に及ぼした惨禍の 状況を公正に判断し ている。	⑬第一次大戦におけ る新兵器についての 資料を写真など適切 に選択し活用するこ とができる。また、戦 争回避に向けた取り 組みを整理すること ができる。	⑭戦争回避にむけた とり組みを整理する ことができる。 【国際連盟】	
⑮現在の国際関係と りわけアジアにおけ る我が国の対応につ いて歴史的認識にか かわって関心を持っ て考えようとする。	⑯第一次大戦を通じ て日本がアジアへの 侵略をすすめるのと もにそれに対する民 族自決の動きを多面 的に考察することが できる。		⑰アジアにおける民 族独立の動きについ て整理することがで きる。 【21ヵ条の要求・五・ 四運動・三・一独立運 動】	

(3) 構造化

本単元の指導目標は以下の通りである。本単元は 20 世紀前半の約 30 年間を取り扱っており、**<社会的事象に関する知識・理解>**についての【重要語句】に示した内容はどの項目も割愛できないと思われる。その上、この単元には、第二次世界大戦の前段階として多くの総括（世界大戦がなぜおきたのか。結果はどうか。なぜ再び世界大戦に突入していったのか）など重要な課題を含んでいる。この点に関して資料を活用して生徒に考えさせることが必要である。さらに、そうした分析の中での我が国の対外政策とりわけ日中戦争へと続く、正確な認識が生まれると思われる。

学習 内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解 【重要語句】
第6章 二度の 世界大 戦と日 本 第1章 第一次 世界大 戦とア ジア・ 日本	<p>⑪世界全体を巻き込む大戦争が人類に多大な被害を与えた現実に関心を持ち、その反省の上で戦争を回避する様々な試みを追求しようとする。</p> <p>⑫世界大戦が人類全体に及ぼした惨禍の状況を公正に判断している。</p> <p>⑬第一次大戦を通じて日本がアジアへの侵略をすすめるとともにそれに対する民族自決の動きを多面的に考察することができる。</p> <p>⑭現在の国際関係とりわけアジアにおける我が国の対応について歴史的認識にかかわって関心を持って考えようとする。</p>	<p>③第一次大戦前後の国際情勢のあらましを植民地状況・民族自決に関する地図・統計・グラフなどの資料を適切に選択し活用することができる。</p> <p>④第一次大戦における日本のアジアを中心にした対応と結果を地図・統計・グラフなどの資料を適切に選択し活用することができる。</p> <p>⑤第一次大戦後の日本国民の政治的自覚の高まりと護憲運動や労働運動などを統計などの資料を適切に選択し活用することができる。</p> <p>⑥第一次大戦における新兵器についての資料を写真など適切に選択し活用することができる。また、戦争回避に向けた取り組みを整理することができる。</p>	<p>⑦第一次大戦の原因とその結果と影響を整理することができる。【バルカン半島、同盟国、連合国、ロシア革命、ベルサイユ条約、民族自決】</p> <p>⑧第一次世界大戦における日本の対応を整理することができる。【日英同盟・シベリア出兵・米騒動】</p> <p>⑨戦後の民主主義運動の高まりを整理することができる。【護憲運動、政党内閣、普通選挙法、治安維持法、労働運動、小作争議】</p> <p>⑩戦争回避にむけた取り組みを整理することができる。【国際連盟】</p> <p>⑪アジアにおける民族独立運動の動きについて整理することができる。【21カ条の要求、五・四運動、三・一独立運動】</p>	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

3年

1 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

[公民的分野の目標]

- (1)個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- (2)民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- (3)国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- (4)現代の社会事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2 単元名

3年（公民的分野）第3編「わたしたちの生活と経済」 第2章「生産のしくみ」
（大阪書籍 「中学社会 公民的分野」）

3 単元目標

生産の要素やしくみを把握させながら企業のはたらきを理解させ、現代の日本企業がもつ問題点と課題について考えさせて、その解決策などを説明させる。そのうえで、社会における企業の役割と社会的責任について考える力を養う。また、金融のしくみやはたらきと経済活動の関連性を把握させながら、日本銀行の役割に着目してその政策を理解させ、それらが及ぼす影響や課題を考えながら説明する力を培う。

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務・労働組合・労働基本法などに関連づけて多面的・多角的に考える力を育てる。

4 単元の評価目標

- (1)企業の生産活動や働くことに対する関心を高め、経済活動や労働について考えようとしている。
[社会的事象への関心・意欲・態度]
【評価方法：ノート点検・学習プリント】
- (2)企業の役割や生産の集中における問題点、金融のはたらきと経済活動の関連性及び日本銀行の役割と政策、職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考え、企業の経済活動のあり方について公正に判断し、説明できる。
[社会的な思考・判断]
【評価方法：ワークシート・期末テスト】
- (3)企業の経済活動や労働に関する諸問題について資料をもとに追究し、考察した過程や結果をまとめて、説明できる。
[資料活用の技能・表現]
【評価方法：ワークシート・期末テスト】
- (4)生産のしくみやあらまし、金融のはたらき、労働の役割や意義と課題について理解し、その知識を身につけている。
[社会的事象についての知識・理解]
【評価方法：期末テスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

この単元の場合、生産のしくみと要素に関心をもたせて把握させながら、企業のしくみとはたらきを考え、理解させることが重要である。

現在、われわれが便利で快適な生活を送ることができるのは、企業の生産活動に起因している。このことに着目させながら、企業の活動とわれわれの生活の関連性を見つけるとともに、現代の日本企業の役割や問題点、今後の課題についても考え、まとめ、発表する力を養う必要がある。また、金融のしくみやはたらきが、企業やわれわれの生活と関連しながら支えていることにも気づかせながら、理解させたい。また、これに基づいて日本銀行の役割にも着目させながら、理解させ考えさせることも必要である。

職業の意義と役割や今日の職場や女性と労働については、日本国憲法と関連させ、グラフなどの資料を用いながらそれらの問題点を考える姿勢が必要である。その上で、将来における身近な事象としてこれらを捉え、一人ひとりがこれらの課題や解決策を考察でき、発表できる力を培って行きたい。

【「生産のしくみ」の評価規準の具体化】

学習内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能表現	社会的事象についての 知識・理解
第3編 わたしたちの 生活と経済 第2章 生産のしくみ I. 生産と企業	④企業の生産活動に必要なものに基づいて、関心を高めている。また、株式会社のしくみや生産が集中している商品について関心をもち、寡占や独占の問題を意欲的に考えている。	②資本主義社会の中心となる株式会社のしくみや問題点を多面的・多角的に説明できる。また、生産の集中がおこる要因と問題点を系統的にとらえ、日常生活への影響を関連させて説明し、解決策を考えている。	③生産活動について図をもとに把握しながら、株式会社のしくみを図式化して説明できる。また、生産の集中の問題点や中小企業のようにについても、グラフをもとにして理解している。	④生活に役立つ商品の生産は企業が中心であることや生産の要素について把握している。また、生活と企業の関連性や株式会社のしくみ、中小企業の役割と課題について理解し、その知識を身につけている。
II. 金融と お金の価値	⑤金融のしくみを日常生活と関連させて関心をもち、日本銀行の役割について意欲的に考えている。	⑥日本銀行のしごとを理解しながら、その役割や政策に着目して説明できる。そのうえで現代の日本経済との関わりやその課題を考えている。	⑦金融機関と家計や企業との関係を図式化し、そのしくみを理解している。 グラフや図をもとに、金融機関のはたらきを把握している。	⑧家計の貯蓄などを企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環させるため、金融機関が仲立ちしていることを理解し、その知識を身につけている。
III. 働く人を めぐる問題	⑨働くことの意味を理解しながら、労働について関心を高めている。 職場や労働者に関する問題に気づき、それらを意欲的に考えている。	⑩職業の意義と役割(個性を生かす・社会への貢献・社会生活を支える)について、多面的・多角的に考察している。また、就業構造が変化する中で、雇用と労働条件の改善や女性の職場進出と男女共生社会の意義に着目し、課題を見つけながら解決策を考え、説明できる。	⑪労働に関する諸問題についてグラフをもとに気づき、追究している。また、それらを諸外国と比較する中で、現代の日本社会の課題をとらえ、その解決策について考え、説明できる。	⑫職業の意義と役割(個性を生かす・社会への貢献・社会生活を支える)を理解し、その知識を身につけている。また、就業構造が変化する中で、雇用と労働条件の改善が進んだことや女性の職場進出と男女共生社会の意義について理解し、その知識を身につけている。

(2)「精選化」

観点「社会的事象への関心・意欲・態度」では、①の企業や労働・株式会社などの関心を窓口として、生産のしくみと要素について関心をもたせながら、この単元の全体像をつかませることができる。そのため、⑤の金融のしくみについては、⑧で金融機関と生活や企業との関連性を理解させた上で、関心をもたせることができる。これをふまえながら、⑥で金融のしくみやはたらき・日本銀行の役割について考え、追究させる。また、⑨の労働や職業については、⑩で労働の諸問題に着目させ、職業について考えさせる。

観点「社会的な思考・判断」では、この単元において中核をなすものであるため、Ⅰ～Ⅲの項目すべてで取り上げ、各項目ともに課題や解決策を見つけながら考察して、説明できる力を培いたい。特に、②では企業のしくみをおさえながら、株式会社のしくみや課題と生産の集中に焦点をあてる。⑥では金融と生活や企業の関連性、日本銀行の役割に関心をもたせながらこれらに焦点をあて、⑩では職業の意義と役割を考察しながら、雇用と労働条件、男女共生社会について考えさせる。

観点「資料活用の技能表現」では、③の企業や労働などに関する資料をもとに、②で企業の生産活動を考察し、説明させるきっかけとしておさえる。また、⑦の資料を活用しながら、⑧で金融と生活・企業の関連性を考え、把握させることができる。その上で、⑥で金融と生活・企業の関連性をふまえながら、日本銀行の役割についても着目して考察する力を培っていく。

観点「社会的事象についての知識・理解」では、⑫の職業の意義や役割として、⑪で企業や労働に関する諸問題を資料をもとに考察させ、それに基づいて、⑩で職業や労働などの課題を見つけさせ、解決策を考えさせて行きたい。

【精選化された「生産のしくみ」の評価規準】

学習内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能表現	社会的事象についての 知識・理解
第3編 わたしたちの 生活と経済 第2章 生産のしくみ 1. 生産と企業	①企業の生産活動に必要なものに気づいて、関心を高めている。また、株式会社のしくみや生産が集中している商品について関心をもち、寡占や独占の問題を意欲的に考えている。	②資本主義社会の中心となる株式会社のしくみや問題点を多面的・多角的に説明できる。また、生産の集中がおこる要因と問題点を系統的にとらえ、日常生活への影響を関連させて説明し、解決策を考えている。		④生活に役立つ商品の生産は企業が中心であることや生産の要素について把握している。また、生活と企業の関連性や株式会社のしくみ、中小企業の役割と課題について理解し、その知識を身につけている。
1. 金融と お金の価値		⑥日本銀行のしごとを理解しながら、その役割や政策に着目して説明できる。そのうえで現代の日本経済との関わりやその課題を考えている。		⑧家計の貯蓄などを企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環させるため、金融機関が仲立ちしていることを理解し、その知識を身につけている。
1. 働く人を めぐる問題		⑩職業の意義と役割(個性を対し・社会への貢献・社会を支える)について、多面的・多角的に考察している。また、就業構造が変化する中で、雇用と労働条件の改善や女性の職場進出と男女共生社会の意義に着目し、課題を見つけながら解決策を考え、説明できる。	⑪労働に関する諸問題についてグラフをもとに気づき、追究している。また、それらを諸外国と比較する中で、現代の日本社会の課題をとらえ、その解決策について考え、説明できる。	

(3)「構造化」

この単元の構造化として、①で企業や労働、株式会社のしくみや意義を把握させながら、生産や企業のしくみやその活動、また労働についても関心を高めさせる。そして、これらを窓口としてこの単元の全体像をつかませながら、Ⅰ～Ⅲの項目における学習意欲の向上をはかって行きたい。

Ⅰ. 生産と企業では、①に対する関心をもとに、④で生産のようすや企業の役割について理解させる。また、②で企業の役割や株式会社のしくみや生産の集中について、資料を用いて生活と関連させながら考察させることができる。

特に、資本主義経済を代表する企業である株式会社のしくみを理解させるとともに、その課題と生産の集中の意義や問題点とわれわれの生活との関連について考察し、意見交換をさせながら、課題を追究して説明できる力を育てる必要がある。

また、企業の役割をおさえるとともに、中小企業の役割や課題を、資料を用いながら把握させ、その解決策について考察する力もつけて行く。

Ⅱ. 金融とお金の価値では、④での生活と企業の関連性の理解をもとに、⑧で金融機関の役割について、資料を用いながら理解させる。その際に、金融機関がわれわれの生活とどう関わっているかに関心をもたせながら考えさせ、その事象を把握させることができる。

⑧で培った理解をもとに、⑥では金融と生活や企業の関連性をふまえながら、日本銀行の役割を考察させ、その意義と課題を説明できる力を養いたい。また、日本銀行の役割をもとにして、現代の日本経済との関わりやその課題についても展望できる視野を培いたい。

Ⅲ. 働く人をめぐる問題では、⑩の企業や労働に関する諸問題について、資料をもとに課題や解決策を探って行くことができる。また、日本国憲法の保障する権利との関係についても考えさせる必要がある。それらをもとにしながら、⑩の職業の意義と役割を多面的・多角的に考察させる態度を培いながら、社会的事象についての視野を広げさせることができる。また、時代の変遷に伴う就業構造の変化に気づかせながら、雇用と労働条件の改善について課題を見つけて解決策を考え、説明できる力に結びつけたい。

女性の職場進出についてもいくつかの資料を用いながら、諸外国との比較や日本におけるその問題点を見つけさせ、課題や解決策を考え、説明できる力を培いたい。その際にも、世界に視野を広げさせて考察させることが必要である。また、この事象でも憲法の保障する権利との関係をふまえて考えさせ、男女共生社会の構築の重要性を認識させながら、一人ひとりが関心をもって「自分は何をすべきか・何ができるのか」という態度を培い、課題を考え、取り組む姿勢を育てて行きたい。

【構造化された「生産のしくみ」の評価規準】

単元名	第3編「わたしたちの暮らしと経済」 第2章「生産のしくみ」			
指導目標	生産の要素やしくみを把握しながら、企業のはたらきを理解し、現代の日本企業がもつ問題点と課題を説明できるようにする。また、金融のしくみやはたらきと経済活動の関連性を考えさせると共に、職業の意義や役割を理解し、今日の労働問題やその課題を追究させる。			
観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能表現	社会的事象についての 知識・理解
第1時 ～ 4時	I. 生産と企業			
	①企業の生産活動に必要なものに気づいて、関心を高めている。また、株式会社のしくみや生産が集中している商品について関心をもち、寡占や独占の問題を意欲的に考えている。	②資本主義社会の中心となる株式会社のしくみや問題点を多面的・多角的に説明できる。また、生産の集中がおこる要因と問題点を系統的にとらえ、日常生活への影響を関連させて説明し、解決策を考えている。		④生活に役立つ商品の生産は企業が中心であることや生産の要素について把握している。また、生活と企業の関連性や株式会社のしくみ、中小企業の役割と課題について理解し、その知識を身につけている。
第5時 ～ 6時	II. 金融とお金の価値			
		⑥日本銀行のしごとを理解しながら、その役割や政策に着目して説明できる。そのうえで現代の日本経済との関わりやその課題を考えている。		⑧家計の貯蓄などを企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環させるため、金融機関が仲立ちしていることを理解し、その知識を身につけている。
第7時 ～ 8時	III. 働く人をめぐる問題			
		⑩職業の意義と役割(個性を生かす・社会への貢献・社会生活を支える)について、多面的・多角的に考察している。また、就業構造が変化する中で、雇用と労働条件の改善や女性の職場進出と男女共生社会の意義に着目し、課題を見つけながら解決策を考え、説明できる。	⑪労働に関する諸問題についてグラフをもとに気づき、追究している。また、それらを諸外国と比較する中で、現代の日本社会の課題をとらえ、その解決策について考え、説明できる。	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

1年

1 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2 学年目標

(1) …… 〈省略〉 ……

(2) …… 〈省略〉 ……

(3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を培う。

3 単元名

1年 単元4 比例と反比例 (啓林館 「数学1年」)

4 単元目標

具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して、比例や反比例に対する理解を深め、それを利用できるようにする。

5 単元の評価目標

単元の指導目標に対して、単元全体の評価目標の趣旨と評価方法は、次のようなものになる。

(1) 比例と反比例の変化や対応のようすに関心をもって、身のまわりにある事象を、比例や反比例について学習したことを使って考察しようとする。〈**数学への関心・意欲・態度**〉

[評価方法] ……発表、ワークシート、(課題レポート)

(2) さまざまな事象における比例や反比例の関係をとらえることができる。そして、表、式、グラフに表して、考察することができる。〈**数学的な見方や考え方**〉

[評価方法] ……ワークシート、定期テスト、(課題レポート)

(3) 比例や反比例の関係を表、式、グラフに表すことができ、また逆に、式、表、グラフから比例・反比例の関係を指摘することができる。〈**数学的な表現・処理**〉

[評価方法] ……定期テスト、図表作成

(4) 比例や反比例に関する用語や記号について説明できるとともに、それらの特徴についても説明できる。〈**数量、図形などについての知識・理解**〉

[評価方法] ……定期テスト

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(6-1) 具体化

目標の分析や内容の分析をし評価規準を作成するためには、上記1の学習指導要領レベルの目標・内容分析から、教科書(教材)レベルの目標・内容分析をして、さらに実際の授業での子どもの学習活動の姿を思い浮かべながら、上記4での評価方法までの目標・内容分析という、3段階(プロセス)の中で、「具体化」「精選化」「構造化」を同時進行で行うことである。

そこで、単元の指導目標から、評価目標として各観点ごとに生徒に身に付けたい力を具体化するとともに、実際の授業を想定しながら、評価の内容や評価方法からも評価規準の具体化をも同時に考えた。

	学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などに ついての 知識・理解
1 比例 と 反 比例 16 H	§ 1. 比例 ・式から変数や定数の意味を理解し、比例の関係を知る。 ・比例の関係は商が一定であることなど、比例の性質を理解する。	関① つるまきばねに、重りを吊して、バネの伸びとの2つの数量間に、実験を通して、比例の関係をみつけて言おうとしている。	考① 重りとバネの伸びとの間の変化や対応の仕方を調べて、それを基に、他に比例の関係になるものに気づくことができる。	表① 重りとバネの伸びとの間の比例の関係を、文字使った式で表すことができる。また、文字を変数とみて、扱うことができる。	知① 重りとバネの伸びとの間の比例の関係を理解し、また、数直線を利用して変数と変域の意味を理解している。
	§ 2. 比例のグラフ ・座標の概念を理解し、点を座標平面に表す。 ・比例のグラフの意味 ・比例のグラフのかき方 ・ $y = a x$ のグラフの比例定数 a の意味	関② $y = 2 x$ の関係や $y = -2 x$ の比較などに関心をもち、表、式、グラフなどを使って、比例の特徴を調べ述べようとしている。	考② 比例 $y = 2 x$ の関係や $y = -2 x$ の特徴を、表、式、グラフなど用いて考察したり、説明したりできる。	表② 表、式、グラフなどを使って、比例の関係を数学的に表現したり、その特徴をよくとったりすることができる。	知② 座標をグラフ上に知表したり、点の座標を読み取ったり座標のよさを理解している。 知③ 比例 $y = 2 x$ や $y = -2 x$ の式やグラフの様子から、比例定数 a の意味を理解している。
	§ 3. 反比例 ・具体的な事象から反比例の特徴を見つける。 ・反比例の関係を式に表す。 ・反比例の関係は、積が一定であることなど、反比例の性質を理解する。	関③ 比例で学習したことをもとに、花だんの横の長さとの2つの数量の間の関係を調べて、反比例の関係をみだし、それを考察し、言おうとする。	考③ 花だんの横の長さとの2つの数量の間の関係に着目し、反比例の関係をのきまりをとらえ、見通しをもって、筋道をたてて考えることができる。	表③ 花だんの横の長さとの面積などの2つの数量の間の関係をもとに、2つの数量の関係を、反比例の式で表すことができる。	知④ 反比例の定義や、 $y = 6 / x$ をもとにして、比例定数 a の意味などを理解している。
	§ 4. 反比例のグラフ ・ $y = a / x$ のグラフの意味 ・反比例のグラフのかき方 ・ $y = a / x$ のグラフの a の正負によるちがい	関④ 面積 6 cm^2 の三角形の底辺 $x \text{ cm}$ と高さ $y \text{ cm}$ に反比例の関係をみだし、表、式、グラフなどを使って考察し、比例の特徴を調べ説明しようとしている。	考④ 比例での学習をもとに、面積 6 cm^2 の三角形の底辺 $x \text{ cm}$ と高さ $y \text{ cm}$ の x 、 y の反比例の関係を表、式、グラフを使って考察し、その特徴をみだすことができる。	表④ $y = 6 / x$ と $y = -6 / x$ の x と y の変化を、反比例の関係としてとらえ、表、式、グラフで表現することができる。	知⑤ $y = 6 / x$ と $y = -6 / x$ など、反比例の関係を表す表、式、グラフの特徴を理解している。またそれぞれの式の相互関係も理解している。
	§ 5. 比例、反比例の利用 ・考察してきた比例や反比例を、もう一度身のまわりのことに当てはめる	関⑤ 厚さが一定の銅板から切り取った図形の重さと面積では比例の関係が、また、2枚の歯車をかみ合わせた時の歯数と回転数との反比例の関係、また消費税など日常の中に、比例、反比例が深くかかわっていることに気づき、その見方や考え方を、問題解決に活用し、書こうとしている。	考⑤ 銅板からできた図形の重さと面積では比例の関係が考察し、また、歯車の歯数と回転数では反比例の関係を考察したりして、生活の中に、比例、反比例の見方や考え方を活かして、消費税などを調べ、その結果における活用を考えることができる。	表⑤ 銅板で作った図形の重さと面積や、2つの歯車の歯数と回転数など、比例、反比例の表、式、グラフを通してとらえ、表現したり、処理したりすることができる。	知⑥ 銅板で作った図形の重さと面積や、2つの歯車の歯数と回転数などで、比例、反比例を用いることができるか理解し、事象を考察したり、予想したりする方法を理解している。

(6-2) 精選化

単元「比例と反比例」での、生徒の学習の実現状況をできる限りの確に評価するため、(表3)での具体化された評価規準より、形成的な評価とするものと、単元「比例と反比例」の評価・評定へとつながる込んでみた。

そして、生徒がこれからも数学での数量関係の学習内容を、将来にわたって、自ら学び続けられるようにするために、これらの評価規準の中から、総括的な評価規準を絞り、本校で使用している教科書を考慮して、学習活動における評価規準の精選化を策定してみた。

	学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の 知識・理解
1 比例と 反比例	§ 1. 比例 ・式から変数や定数の意味を理解し、比例の関係を知る。 ・比例の関係は商が一定であることなど、比例の性質を理解する。	関①	考①	表①	知①重りとバネの伸びとの間の比例の関係から、比例の意味を理解し、また、数直線を利用して変数と変域の意味を理解している。
	§ 2. 比例のグラフ ・座標の概念を理解し、点を座標平面に表す。 ・比例のグラフの意味 ・比例のグラフのかき方 ・ $y = ax$ のグラフの比例定数aの意味	関②	考②	表②表、式、グラフなどを使って、比例の関係を数学的に表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。	知②座標をグラフ上に表したり、点の座標を読み取ったり座標のよさを理解している。 知③
	§ 3. 反比例 ・具体的な事象から反比例の特徴を見つける。 ・反比例の関係を式に表す。 ・反比例の関係は積が一定であることなど、反比例の性質を理解する。	関③	考③	表③	知④反比例の定義や、 $y = 6/x$ をもとにして、の比例定数aの意味などを理解している。
	§ 4. 反比例のグラフ ・ $y = a/x$ のグラフの意味 ・反比例のグラフのかき方 ・ $y = a/x$ のグラフのaの正負によるちがい	関④	考④	表④ $y = 6/x$ とか $y = -6/x$ のxとyの変化を、反比例の関係としてとらえ、表、式、グラフで表現することができる。	知⑤
	§ 5. 比例、反比例の利用 ・考察してきた比例や反比例を、もう一度身のまわりのことに当てはめる	関⑤銅板から切り取った図形の重さと面積では比例の関係が、また、2枚の歯車をかみ合わせた時の歯数と回転数との反比例の関係、また消費税など日常の中に、比例、反比例が深くかかわっていることに気づき、その見方や考え方を、問題解決に活用し、書こうとしている。	考⑤銅板からできた図形の重さと面積では比例の関係を、また、歯車の歯数と回転数では反比例の関係を考察し、広く生活の中に、比例、反比例の見方や考え方を活かして、消費税などを調べ、その活用を考えることができる。	表⑤	知⑥

(6-3) 構造化

選び出された評価規準をどのような順序で指導に置き換え授業を展開するのかを考えてみた。

単元名		単元4 比例と反比例			
指導目標		具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して、比例や反比例に対する理解を深め、それを利用できるようにする。			
指導 時数	数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての 知識・理解	
第1時 ～ 第4時				知①重りとバネの伸びとの間の比例の関係から、比例の意味を理解し、また、数直線を利用して変数と変域の意味を理解している。	
第5時 ～ 第8時			表②表、式、グラフなどを使って、比例の関係を数学的に表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。	知②座標をグラフ上に表したり、点の座標を読み取ったり座標のよさを理解している。	
第9時 ～ 第11時				知④反比例の定義や $y = 6/x$ をもとにして、の比例定数 a の意味などを理解している。	
第12時 ～ 第13時			表④ $y = 6/x$ とか $y = 6/x$ の x と y の変化を、反比例の関係としてとらえ、表、式、グラフで表現することができる		
第14時 ～ 第16時	関⑤厚さが一定の銅板から切り取った図形の重さと面積では比例の関係が、また、2枚の歯車をかみ合わせた時の歯数と回転数との反比例の関係、また消費税など日常の中に、比例、反比例が深くかかわっていることに気づき、その見方や考え方を問題解決に活用しようとする。	考⑤銅板からできた図形の重さと面積では比例の関係が考察し、また、歯車の歯数と回転数では反比例の関係を考察したりして、生活の中に、比例、反比例の見方や考え方を活かして、消費税を調べ、その結果における活用を考察することができる。			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

2年

教科目標 : 数量, 図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め, 数学的な表現や処理の仕方を習得し, 事象を数理的に考察する能力を高めるとともに, 数学的活動の楽しさ, 数学的な見方や考え方のよさを知り, それらを進んで活用する態度を育てる。

学年目標 : 基本的な平面図形の性質について, 観察, 操作や実験を通して理解を深めるとともに, 図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し, 推論の過程を的確に表現する能力を養う。

単元名 : 2年 図形の調べ方 (啓林館)

単元目標 : 図形の性質を調べる上で, 基礎となる見方・考え方や基本的性質を明らかにし論証の意義と推論の進め方について理解する。そのために, 観察, 操作や実験を通して, 対頂角の性質, 平行線と角の関係について調べる。

評価目標 :

- ① 図形の性質を調べる際の論証の意義と推論の進め方に関心をもつ。
(関心・意欲・態度)
[評価方法 ノート・ワークシート]
- ② 問題に合った図をかき, それを証明に結びつけることができる。(表現・処理)
[評価方法 ワークシート・テスト]
- ③ 確かな根拠にもとづいて, 論理的に推論することができる。(見方・考え方)
[評価方法 ワークシート・テスト]
- ④ 図形の基本的な性質や証明に関する用語・記号について説明することができる。
(知識・理解)
[評価方法 テスト]

1. 具体化

今回、評価規準の作成にあたり、数学の各観点別の間の構成・関連を以下のように理解することをもとに作成にかかった。

観点別の内容を

第1段階・・・基本的な用語や定義、公理等を知識として備え、その内容を理解している。(知識、理解)

第2段階・・・第1段階で会得した内容を用いて数値や式、図などを計算したり、変形したりすることが出来る。(数学的処理)

第3段階・・・第2段階で習得した技能を道具として用いて、数式や図形やその他日常の現象(科学的事象)を数学的に解明、説明できる。(数学的思考)

第4段階・・・第3段階までに学んだ論理的思考力を様々な場面（社会的事象も含む）の中で応用しようとする。（数学的態度）

として捉え、以下のように具体化を行った。

その為、特に『表現・処理』については大単元の性格上、『表現力』を『証明を読み解く力』としては捉えることはせず、『処理』についてのみ評価の対象とするものとした。また、単元の性格上、証明済みの命題は次の命題の証明において、既知の事項として扱うことが出来るため、『数学的見方・考え方』も各小単元内において、そうした定理や性質の証明が終了した後に複雑な図形の証明の場面で評価するものとした。

学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形についての知識・理解
図形の調べ方 (4H)	<p>【平行線と角】</p> <p>・「対頂角は等しい」事を理論的に説明することが出来ることの素晴らしさに気付く。</p> <p>・観察、操作や実験を通して平行線や角の性質を見だし、確かめようとする。</p> <p>・「三角形の内角の和が180°である」ことがすべての三角形で成り立つかどうかに関心を持ち、そのことを利用して簡単な図形の角度を求めようとする。</p>	<p>・「対頂角は等しい」ことを帰納的な推論や類推を用いて予想できる。</p> <p>・平行線の性質について予想したことの一般性を保証するときに演繹的な推論を用いて考察することができる。</p> <p>・平行線の性質を使って三角形の内角の和が180°であることを説明できる。</p>	<p>・対頂角、平行線の同位角や錯角の性質を用いて角の大きさを求めることができる。</p> <p>・平行線の性質を同位角や錯角を用いて説明することができる。</p> <p>・三角形の内角の和が180°であることを用いて簡単な図形の角度を求めることが出来る。</p>	<p>・対頂角、同位角、錯角の位置関係を理解している。</p> <p>・平行線の性質を理解している。</p> <p>・「いかなる三角形の内角の和も180°である」ことを理解している。</p>

2. 精選化

精選化にあたっては、教科の性格上、知識理解についてはどれをとっても、他のものにおいて代用の効くものでもなく、総合的に知識を活用しなければならないと考える。また、他の観点についても観点を段階的に捉えている関係上、以下の方針で精選化を行った。

- ①『知識理解』の特に『知識』面については、敢えて精選しない。文言上『理解する』とある部分については、内容的には『知識としてもっている』と考える。
- ②『表現処理』については『処理』面において、『見方、考え方』につながる角度や長さを算出できるようになることに集約する。
- ③『見方、考え方』は敢えて、複雑な図形を提示する中でその図形を基本図形に分解し、考察することを想定して精選した。
- ④『関心・意欲・態度』については上記の経験を踏まえて、論理的思考を行おうとする姿勢を評価する。

学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形などについての知識・理解
図形の調べ方	【平行線と角】 ・「三角形の内角の和が180°である」ことがすべての三角形で成り立つかどうかに関心をもち、そのことを利用して簡単な図形の角度を求めようとする。	・平行線の性質を使って三角形の内角の和が180°であることを説明できる。	・三角形の内角の和が180°であることを用いて簡単な図形の角度を求めることができる。	・対頂角、同位角、錯角の位置関係を理解している。 ・平行線の性質を理解している。 ・「いかなる三角形の内角の和も180°である」ことを理解している。

3. 構造化

今回、この作業を行うにあたって、3つの観点をあらかじめ大雑把に構造化することから作業に入っている。従って構造化にあたっては前述の方針に従い、構成した。

学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形などについての知識・理解
図形の調べ方	【平行線と角】 ・「三角形の内角の和が180°である」ことがすべての三角形で成り立つかどうかに関心をもち、そのことを利用して簡単な図形の角度を求めようとする。	・平行線の性質を使って三角形の内角の和が180°であることを説明できる。	・三角形の内角の和が180°であることを用いて簡単な図形の角度を求めることができる。	・対頂角、同位角、錯角の位置関係を理解している。 ・平行線の性質を理解している。 ・「いかなる三角形の内角の和も180°である」ことを理解している。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

3年

1. 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的な活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2. 学年目標

数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層のぼすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。

3. 単元名

3年 3. 二次方程式 (啓林館 数学3年)

4. 単元目標

簡単な二次方程式やその解法を理解し、二次方程式を用いて実際の数量関係の問題を解決できるようにする。

5. 単元の評価目標

- (1) 二次方程式やその解を求めることに関心を持ち、数量関係の問題を解決するのに、進んで二次方程式を利用しようとする。

【関心・意欲・態度】 (評価方法：ワークシート・レポート)

- (2) 平方根を求める方法や因数分解を利用して、二次方程式を解くときの考え方がわかり、数量関係の問題解決の場面で、二次方程式を用いることができる。

【数学的な見方や考え方】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

- (3) 方程式の考えを用いたり、因数分解を利用して二次方程式を解くことができ、二次方程式を使って数量関係の問題を解決することができる。

【表現・処理】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

- (4) 二次方程式とその解の意味、二次方程式を解くことの意味を理解し、二次方程式を使って数量関係の問題を解決する手順を理解している。

【知識・理解】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

6. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

学習指導要領では解の公式は取り扱わないとなっているが、ここでは発展的な内容として解の公式について触れることにする。それは、①二次方程式を解くときの因数分解で解けないものについては完全平方の形に直すには時間がかかりすぎる。②現実に二次方程式を実社会で活用することを考えると(特に総合的な学習の時間等で)因数分解ができるものは少なくまた、指導要領で扱うことになっている $ax^2+bx+c=0$ の x の係数(b)が偶数になるとは限らないからである。

学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の知識・理解
§ 1. 二次方程式とその解き方 ・二次方程式とその解の意味を理解し、平方根を求める方法で二次方程式を解く。	①花だんの面積を例に挙げ一次方程式では解けない場面に気づき、二次方程式およびその解に関心をもち、調べようとする。	②平方根の意味にもとづいて、 $(x+1)^2=36$ について二次方程式を解く手順を見いだすことができる。	③平方根の考えを利用して、二次方程式 $(x+1)^2=36$ を解くことができる。	④ $ax^2=b$ の形の二次方程式は、 $x^2=k$ の形にすれば、 $x^2+6x-1=0$ を解くことができることを理解している。 解の公式があることを知る。
§ 2. 二次方程式と因数分解 ・因数分解を利用して二次方程式を解くことができる	⑤因数分解を利用することで、二次方程式を一次方程式の解き方を利用できることに気づき、その解き方に関心をもち、二次方程式を解こうとする。	⑥ $ab=0$ ならば $a=0$ または $b=0$ であることを利用して二次方程式 $x^2-x-6=0$ を解くことができることに気づく。	⑦因数分解を利用して、二次方程式 $x^2-x-6=0$ を解くことができる。	⑧因数分解を利用して、二次方程式 $x^2-x-6=0$ を解く手順を理解している。
§ 3. 二次方程式の利用 ・二次方程式を問題解決に利用することができる。	⑨畑の面積などの問題の中の数量関係を捉え、二次方程式に表そうとする。	⑩二次方程式を利用した問題を解き、題意を解し、解を吟味することができる	⑪連続する3つの整数についての問題について、1つの整数を x で表し、二次方程式を作り、問題を解決することができる。	⑫二次方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。

(2)「精選化」

二次方程式の単元では「§ 1. 二次方程式とその解き方」では完全平方の形に式を変形することにより二次方程式の解を求めることをおこなうが、必ず解が導ける反面、時間がかかることが多い、それに対して、「§ 2. 二次方程式と因数分解」では、二次方程式を因数分解することで二次方程式を解くので因数分解ができる場合は早く解ける反面、因数分解ができないときは解くことができない方法であり、「§ 1. 」と「§ 2. 」のどちらを使うかの見極めが大切である。また、「§ 1. 」の中で解の公式を発展的な内容として扱うが、式が複雑なことと、平方根の計算を扱うため、生徒の中でも上位に位置する生徒しか使いこなせないのが現実である。そのため、公式の存在を知っていれば使いこなせなくても十分満足であるとした。

学 習 内 容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の知識・理解
§ 1. 二次方程式とその解き方 ・二次方程式とその解の意味を理解し、平方根を求める方法で二次方程式を解く。			③平方根の考えを利用して、二次方程式 $(x+1)^2=36$ を解くことができる。	④ $ax^2=b$ の形の二次方程式は、 $x^2=k$ の形にすれば、 $x^2+6x-1=0$ を解くことができることを理解している。解の公式があることを知る。
§ 2. 二次方程式と因数分解 ・因数分解を利用して二次方程式を解くことができる			⑦因数分解を利用して、二次方程式 $x^2-x-6=0$ を解くことができる。	
§ 3. 二次方程式の利用 ・二次方程式を問題解決に利用することができる。	⑨畑の面積などの問題の中の数量関係を捉え、二次方程式に表そうとする。	⑩二次方程式を利用した問題を解き、題意を解し、解を吟味することができる	⑪連続する3つの整数についての問題について、1つの整数を x で表し、二次方程式を作り、問題を解決することができる。	

(3)「構造化」

精選化された評価規準の構造化を行った。

単元名	3年 3. 二次方程式			
単元目標	簡単な二次方程式やその解法を理解し、二次方程式を用いて実際の問題を解決できるようにする。			
指導時数	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の知識・理解
第1 ～ 4 時			③平方根の考えを利用して、二次方程式 $(x+1)^2=36$ を解くことができる。	④ $ax^2=b$ の形の二次方程式は、 $x^2=k$ の形にすれば、 $x^2+6x-1=0$ を解くことができることを理解している。 解の公式があることを知る。
第5 ～ 7 時			⑦因数分解を利用し、 二次方程式 $x^2-x-6=0$ を解くことができる。	
第8 ～ 11 時	⑨畑の面積などの問題の中の数量関係を捉え、二次方程式に表そうとする。	⑩二次方程式を利用した問題を解き、題意を解し、解を吟味することができる	⑪連続する3つの整数についての問題について、1つの整数を x で表し、二次方程式を作り、問題を解決することができる。	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

3年

1 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2 学年目標

具体的な事象を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。

3 単元名

3年 関数 $y = ax^2$ (啓林館 数学3年)

4 単元目標

具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、その特徴から既習の関数及び $y = ax^2$ をみいだすことができる。

5 単元(題材)の評価目標

(1) 事象の中には、 $y = ax^2$ で表せる関数関係があることに関心をもち、関数 $y = ax^2$ と既習関数の特徴の違いから、それぞれの関数関係を見いだそうとする。

「数学への関心・意欲・態度」

【評価方法：ワークシート・レポート】

(2) いろいろな事象を関数 $y = ax^2$ としてとらえ、変化や対応のようすを考察することができる。また変化の割合について、一次関数との違いをグラフと関連させて考察することができる。

「数学的な見方や考え方」

【評価方法：定期テスト・ワークシート】

(3) 関数 $y = ax^2$ を表やグラフに表すことができる。また関数 $y = ax^2$ について、変化の割合を求めることができる。

「数学的な表現・処理」

【評価方法：定期テスト・ワークシート】

(4) 関数 $y = ax^2$ に関する用語について説明することができる。また関数 $y = ax^2$ やそのグラフの特徴について説明することができる。

「数量図形などについての知識・理解」

【評価方法：定期テスト・ワークシート】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

今回、評価規準の作成にあたり、国立教育政策研究所の3年【「C数量関係」の評価規準の具体例】を参考にしているが採用されている教科書の小単元の配列・内容のまとまりに違いがあるため、実際の授業を想定したもの（小単元）に変更している。

また、以前教科会で共通理解を図った数学の各観点別の間の構成・関連を以下のように理解することをもとに作成にかかった。

観点別の内容を

第1段階・・・基本的な用語や特徴などを知識として備え、その内容を理解している。（知識、理解）

第2段階・・・第1段階で会得した内容を用いて表やグラフに表したり、変化の割合を求めることができる。（表現・処理）

第3段階・・・第2段階で習得した技能を道具として用いて、日常を含め様々な事象を関数としてとらえ、変化や対応のようすを考察することができる。また、変化の割合について既習の関数との違いをグラフと関連させて考察できる。（見方や考え方）

第4段階・・・第3段階までに学んだ、事象を数理的にとらえ、見通しをもち論理的に考察できる力を使い、 $y=ax^2$ で表せる関数関係があることに関心を持ち、既習関数との違いに興味を持って活用しようとする。（関心・意欲・態度）

としてとらえ、具体化を行った。

学習 内容	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な表現・処理	数量図形などに ついての知識・理解
4 . 関数 $y = ax^2$	<p>【関数 $y = ax^2$】</p> <p>①急降下するジェットコースターの急降下し始めてからの伴って変わる2つの数量を見つけ出そうとしている。</p>	<p>② $y = 3x^2$ を例として変数 x, y の対応表を作ったり, x, y の関係を式で表したりすることができる。</p>	<p>③ $y = 3x^2$ の関係について, y は x の2乗に比例するということをまとめることができる。</p>	<p>④ $y = 3x^2$ の関係について, y は x の2乗に比例するということを理解している。</p>
	<p>【関数 $y = ax^2$ のグラフ】</p> <p>⑤関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてグラフに書き, その特徴を調べようとしている。</p>	<p>⑥関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフから, その特徴を見つけ出すことができる。</p>	<p>⑦関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフをもとにした, 関数 $y = ax^2$ のグラフの書き方を自分なりにまとめることができる。</p>	<p>⑧関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフの特徴を捉え, 放物線, 放物線の軸, 放物線の頂点について理解している。</p>
	<p>【関数 $y = ax^2$ の値の変化】</p> <p>⑨変化の割合が一定でないことなどの特徴を使い, 関数 $y = ax^2$ や既習関数を身近なものから見つけだそうとする。</p>	<p>⑩関数 $y = x^2$ についての変化の割合は, グラフ上の2点を結ぶ直線の傾きを表すことができる。</p>	<p>⑪対応する変域を求めたり, 変域を持つ関数 $y = 2x^2$ についてのグラフを書くことができる。</p> <p>⑫関数 $y = 2x^2$ についての変化の割合や平均の速さがわかる。</p>	<p>⑬関数 $y = 2x^2$ についての変化の割合や平均の速さがわかる。</p>

(2) 「精選化」

単元4の目標である「具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べ、関数 $y = ax^2$ として捉えられるものがあることを知り、その特徴を調べ、問題解決に利用することができるようにする」ことを踏まえて、「数量図形などについての知識・理解」(④⑧)・「数学的な表現・処理」(⑦)・「数学的な見方や考え方」(⑩)・「数学への関心・意欲・態度」(⑨)の5つの評価規準を選び出すことにした。

観点「数量図形などについての知識・理解」における④の評価規準である「 $y = 3x^2$ の関係について、 y は x の2乗に比例するということを理解している」は、この単元を学習していくにあたって、全ての生徒が理解しなくてはならない本単元の基本部分である。急斜面を下る乗り物や斜面を転がるボールの運動を調べ、その中の2変数を定式化することで「ア.身のまわりの事象の中に関数 $y = ax^2$ として捉えられるものがあることを知る」という目標の評価になると考えた。

また⑧の「関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフの特徴を捉え、放物線、放物線の軸、放物線の頂点について理解している」は、関数 $y = ax^2$ のグラフを、 a がいろいろな値をとる場合についてかき、その観察の中から関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴を表現するために、その特徴を正しく表している用語を理解していることが大切であると考えた。

次に観点「数学的な表現・処理」における⑦の「関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフをもとにした、関数 $y = ax^2$ のグラフの書き方を自分なりにまとめることができる」は、「イ.関数 $y = ax^2$ について、そのグラフの特徴を理解する」という目標の集約とするとともに、学習したことを自分なりに正しい用語で述べたり・書いたりなどの力は表現の能力を高めるために大切な力であると考えたため、今後の授業でも機会を設けておこなっていききたい。

観点「数学的な見方や考え方」における⑩「関数 $y = x^2$ についての変化の割合は、グラフ上の2点を結ぶ直線の傾きを表すことができる」は、関数 $y = ax^2$ の変化の割合と一次関数のそれとの相違を考察し、関数 $y = ax^2$ の変化の割合の実際の例(平均の速さ)を日常生活中に求め、そのよさについて学ぶことで「関数 $y = ax^2$ のとり値の変化の割合を調べ、一次関数との違いを明らかにする」という目標が達成されたと考えた。

最後に観点「数学への関心・意欲・態度」における⑨「変化の割合が一定でないことなどの特徴を使い、関数 $y = ax^2$ や既習関数を身近なものから見つけだそうとする」は上記の経験を踏まえて、論理的思考をおこなおうとする姿勢を評価したい。

学習 内容	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な表現・処理	数量図形などに ついての知識・理解
4. 関数 $y = ax^2$	【関数 $y = ax^2$ 】 ①	②	③	④ $y = 3x^2$ の関係 について、 y は x の 2 乗に比例するとい うことを理解してい る。
	【関数 $y = ax^2$ の グラフ】 ⑤	⑥	⑦ 関数 $y = ax^2$ の 関係について a の値 が 1, 2, $1/2$, -1 の各場合につい てのグラフをもとに した、関数 $y = ax^2$ のグラフの書き方を 自分なりにまとめる ことができる。	⑧ 関数 $y = ax^2$ の 関係について a の値 が 1, 2, $1/2$, -1 の各場合につい てのグラフの特徴を 捉え、放物線、放物 線の軸、放物線の頂 点について理解して いる。
	【関数 $y = ax^2$ の 値の変化】 ⑨ 変化の割合が一定 でないことなどの特 徴を使い、関数 $y =$ ax^2 や既習関数を 身近なものから見つ けだそうとする。	⑩ 関数 $y = x^2$ につ いての変化の割合は、 グラフ上の 2 点を結 ぶ直線の傾きを表す ことがわかる。	⑪ ⑫	⑬

(3) 「構造化」

今回、構造化するにあって選び出した評価規準をどのような順序で指導に置き換え授業を展開するのかについては、「具体化」で述べているように、数学の各観点別の間の構成・関連の1～4段階として捉えて、具体化・精選化とできる限り同時に考えたものである。

単元名	3年 4. 関数 $y = ax^2$			
単元目標	具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、その特徴から既習の関数及び $y = ax^2$ をみいだすことができる。			
観点	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な表現・処理	数量図形などに ついての知識・理解
第1 ～ 3 時				④ $y = 3x^2$ の関係について、 y は x の2乗に比例するということを理解している。
第4 ～ 7 時			⑦ 関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフをもとに、関数 $y = ax^2$ のグラフの書き方を自分なりにまとめることができる。	⑧ 関数 $y = ax^2$ の関係について a の値が1, 2, $1/2$, -1 の各場合についてのグラフの特徴を捉え、放物線、放物線の軸、放物線の頂点について理解している。
第8 ～ 12 時	⑨ 変化の割合が一定でないことなどの特徴を使い、関数 $y = ax^2$ や既習関数を身近なものから見つけだそうとする。	⑩ 関数 $y = x^2$ についての変化の割合は、グラフ上の2点を結ぶ直線の傾きを表すことがわかる。		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

1年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 単元（題材）名

1分野 2章 物質のすがた 1節 物質の性質（大日本図書 1分野 上）

3 単元目標（1分野の目標）

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見いだし意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 省略
- (3) 化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

4 単元指導目標

ガスバーナーの仕組みを理解し、安全に使って物質を調べることができる。
加熱後の物質の変化に二通りあることを知り、有機物・無機物を理解する。

5 単元評の価目標

- (1) 身のまわりにある有機物・無機物がわかる。 「自然事象への関心・意欲・態度」
評価方法：ワークシート、発表
- (2) 砂糖、食塩を加熱したときの変化の違いがわかる。 「科学的な思考」
評価方法：実験レポート、ペーパーテスト
- (3) ガスバーナーを安全に使い、物質を調べることができる「観察・実験の技能・表現」
評価方法：パフォーマンス評価、実験レポート、ペーパーテスト
- (4) 物質を加熱後の炭素の有無によって有機物・無機物に分けることを理解する。
「自然事象についての知識・理解」
評価方法：ワークシート、ペーパーテスト

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

火を扱うことに大変意欲的に取り組む生徒と、恐怖心を抱き避けようとする生徒に大別される。いずれの生徒に対しても、ガスバーナーの仕組みを正しく理解させ、安全に取り扱うことができるようにする。さらに、燃やしてみるという実験が、物質を見分ける有効な手がかりとなることを理解させることを目標の1つとする。また実験結果が、炭素の有無に大別されることを確認し、身の回りの物質を有機物・無機物に分類できることを理解させる。

学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
物質の加熱 A ガスバーナーの使い方	①身の回りの加熱現象に関心をもつ。	②ガスバーナーの仕組みと火力について考える。	③ガスバーナーの仕組みを理解し、安全に正しく取り扱い、物質を調べることができる。	④ガスバーナーの仕組みと安全な使い方について説明できる。
B 白い粉の加熱	⑤砂糖・塩・小麦粉について意欲的に調べようとする。 ⑨日常生活と関連づけて、身近な有機物を見つけようとする。	⑥白い粉の加熱結果から、炭素を含む物質と含まない物質があることがわかる。 ⑩身近な物質を有機物・無機物に分けることができる。	⑦数種の白い粉の加熱や、石灰水の変化から、炭素の有無が発表できる。	⑧数種の白い粉の変化から有機物・無機物について説明ができる。

(2)「精選化」

小学校での実験経験に違いがある生徒が集まっていることを考慮し、パフォーマンス評価を入れることが、一人一人に確実にガスバーナーの操作を習得させることに有効と考える。身近にある砂糖や塩の加熱実験を通して、炭が残ることから炭素が含まれることに気づかせ、有機物・無機物を理解させる。

学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象につい ての知識・理解
物質の加熱 A ガスバー ナーの使 い方	①身の回りの加熱 現象に関心をも つ。	②	③ガスバーナー の仕組みを理解 し、安全に正し く取り扱い物質 を調べることが できる。	④
B 白い粉の 加熱	⑤ ⑨	⑥白い粉の加熱結 果から、炭素を含 む物質と含まない 物質があることが わかる。 ⑩身近な物質を有 機物・無機物に分 けることがる。	⑦ ⑪	⑧数種の白い粉の 変化から有機物・ 無機物について説 明ができる。 ⑫

(3) 構造化

生徒は、火を扱うことに興味をいだき、ガスバーナーを安全に操作することで意欲的に実験に取り組むようになると考える。次に、身近な砂糖や塩の加熱実験を行い、日常生活と関連づけて考察させ実験レポートにまとめさせる。

単元名	1分野 2章 物質のすがた 1節 物質の性質			
指導目標	ガスバーナーの仕組みを理解し、安全に使って物質を調べることができる。 加熱後の物質の変化に二通りあることを知り、有機物・無機物を理解する。			
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
第1時	<p>①身の回りの加熱現象に関心をもつ。</p>		<p>③ ガスバーナーの仕組みを理解し、安全に正しく取り扱い、物質を調べることができる。</p>	
第4時	<p>⑥白い粉の加熱結果から、炭素を含む物質と含まない物質があることがわかる。</p>		<p>⑧数種の白い粉の変化から有機物・無機物について説明ができる。</p>	
	<p>⑩身近な物質を有機物・無機物に分けることができる。</p>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

1年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目標意識を持って観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

[1分野の目標]

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見いだし意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身近な物理現象、電流とその利用、運動の規則性などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (3) 科学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りのびっしつ、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 物質やエネルギーに関する事物・実験を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

2 単元名 (大日本図書 中学校理科)

1年 1分野 1章 光や音、力でみる世界 2節 音の性質

3 単元目標

音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを知る。

4 単元(題材)の評価目標

- (1) 自ら楽器を作り、身近な音に関しての現象について興味をもって見つけだせる。
[自然事象への関心・意欲・態度]
【評価方法：ワークシート・制作物】
- (2) 音を波形として表したとき、音の高さを振動数、大きさを振幅に着目してそれぞれの規則性を見いだす。
[科学的な思考]
【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト】
- (3) 音の大きさや高さの変化の原因を、楽器を使って調べ、ワークシートに記入する。
[観察実験の技能・表現]
【評価方法：ワークシート】
- (4) 音は音源の振動によって生じることを理解し、知識を身に付ける。
[自然事象についての知識・理解]
【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 音の伝わり方 A音を伝えるもの B音の伝わる速さ	①音がなぜ伝わるのか、音さの振動から興味をもって見つけだせる。	②音の伝わる速さについて、空気中を伝わるおよその速さを、山びこや落雷などにより考察できる。	③色々な道具を使って、音が空気中などを伝えることを調べ、ワークシートに記入できる。	④音は音源の振動で生じることを説明できる。
2. 音の大きさと高さ 【モノづくり】 簡単な楽器づくり *音源の振幅と音の大きさ	⑤身近な音に関する現象について、自ら楽器を作り、興味をもって見つけだせる。	⑥楽器から音の大きさと振幅、音の高さと振動数の関係を見いだすことができる。	⑦自らが作った楽器を用いて、振動と音の大きさや高さの関係を調べ、ワークシートに記入できる。	⑧音の大きさと振幅の関係を説明できる。
*振動数と音の高さ 【コンピュータ】 音の波形を調べる		⑨音の波形から音の高さと振動数、大きさと振幅に着目して規則性を見出すことができる。	⑩コンピュータなどを使って、音の性質と音の波の間に規則性を調べ、ワークシートに記入できる。	⑪音の高さと振動数の関係を説明できる。

(2) 「精選化」

単元目標を達成させるためには、音が音源が振動して発生していることを理解できていないと、音の高さや大きさの変化の原因がつかめないため、定着させてから、楽器（音の変化を生じるもの）を自ら作り、振動の変化を自らの視覚などの感覚器を通して実感させ発見させることにした。しかし、楽器によっては、振動の様子が発見しにくいものがあるため、それぞれの結果、考えをよく似た楽器ごとにまとめたグループで意見交換させて、自分の楽器での振動の様子を認識させていく。また、グループの意見をまとめ発表させて、自分の楽器と照らし合わせることで、音と振動の関係について深めていく。次に、目では見えない音を波形という形に変えることによって、音の高さや大きさの規則性を見いだして、音の特徴を説明できるようにしていく。

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 音の伝わり方 A音を伝えるもの B音の伝わる速さ	①	②	③	④音は音源の振動で生じることを説明できる。
2. 音の大きさと高さ 【モノづくり】 簡単な楽器づくり *音源の振幅と音の大きさ	⑤身近な音に関する現象について、自ら楽器を作り、興味をもって見つけだせる。	⑥	⑦自らが作った楽器を用いて、振動と音の大きさや高さの関係を調べ、ワークシートに記入できる。	⑧
*振動数と音の高さ 【コンピュータ】 音の波形を調べる		⑨音の波形から音の高さと振動数、大きさと振幅に着目して規則性を見出すことができる。	⑩	⑪

(3) 「構造化」

単元名	1分野 1章 光や音、力でみる世界 2節 音の性質		
指導目標	音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを知ること。		
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現 自然事象についての 知識・理解
1時	<pre> graph TD 4[④音は音源の振動で生じることを説明できる。] --- 5[⑤身近な音に関しての現象について、自ら楽器を作り、興味をもって見つけだせる。] 4 --- 7[⑦自らが作った楽器を用いて、振動と音の大きさや高さの関係を調べ、ワークシートに記入できる。] 5 --- 7 7 --- 9[⑨音の波形から音の高さと振動数、大きさと振幅に着目して規則性を見出すことができる。] </pre>		
2時 ～ 5時			
6時			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

2年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 単元目標

化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。

3 単元名（大日本図書）

2年 第1分野 4章 化学変化と分子・原子 1節 物質のなりたち

4 単元の指導目標

化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事象を原子、分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。

5 単元の評価目標

評価目標として、各観点ごとに生徒に身に付けたい力を具体的にするとともに、評価方法をも同時に考えた。

I. 身近な化学変化に興味をもち、分解する現象を通して、分解して生成する物質から元の物質の成分を見い出すことができる。（関心・意欲・態度）

（物質についての認識を深めるにはどうすればよいか？）

〔評価方法〕 実験ワークシート

II. 実験結果をもとに分子モデル・化学式を用いて分解のしくみを科学的に説明することができる。（科学的な思考）

（分解した物質から、元の物質名をどうすれば見いだすことができるか？）

〔評価方法〕 実験ワークシート

III. さまざまな分解の実験を正しく行い、分子モデルや化学式を使って、導きだした結果から、自らの考えを正しく書き表したり発表したりすることができる。（技能・表現）

（物質はどうやったら分解するのか、その結果できた物質名と物質との関係をどのように

結びつけばよいだろうか?)

〔評価方法〕 実験ワークシートのまとめ、ペーパーテスト

IV. 物質が分解する化学変化を理解し分子モデルや化学式を使い正しく説明できる。

(知識・理解)

(物質が原子や分子からできている認識を深め、さらに、原子記号で表せる方法を理解し知識を身につけるにはどうすればよいか?)

〔評価方法〕 小テスト、ペーパーテスト

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元において、生徒に身に付けたい力を生徒の学習活動における実際の姿を想定して、実用できる評価規準を設定したものである。

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 物質を加熱して分解しよう A 酸化銀の分解 【実験1】 酸化銀を加熱したときの変化を調べる 化学変化、分解	①物質を加熱するとどんな物質ができるか関心を持つようにしようとする。	②実験結果より酸化銀を加熱したとき生成した物質の性質から物質名を見いだすことができる	③「酸化銀の熱分解」を安全に正しく実験を行うことができる	④化学変化の分解についての知識を身につけている。
B 炭酸水素ナトリウムの分解 【演示実験又は生徒実験】 ○炭酸水素ナトリウムの分解 ○ホットケーキやカルメラ焼き分解、化合物	⑤別の物質でも分解が起こり、異なる物質が生成することに気づけるか。	⑥元の物質が分解することから元の物質が化合物であることを見いだすことができる。	⑦「炭酸水素ナトリウムの分解」の実験を、安全に正しく行うことができる。	⑧化合物が熱分解して別の物質ができることを日常生活で使われて商品の知識と関連させているか。

<p>2. 物質を電気 で分解しよう</p> <p>【基本操作】 電気分解装置の 使い方</p> <p>【実験2】 水を電気で分解 する。</p> <p>単体、化合物</p> <p>【研究しよう】</p> <p>● 塩化銅の電 気分解</p>	<p>⑨別の物質でも 電気分解が起こ り、異なる物質 が生成すること に気づけるか。</p>	<p>⑩水の電気分解 によって発生し た気体の性質か ら、気体を識別 できる。</p>	<p>⑪物質の性質を 探求する過程を 通して科学的な 方法を身につけ ている。</p>	<p>⑫電気分解装置 を正しく扱うこ とができる。ま た実際に水を電 気分解し、電極 に集まった気体 の性質を調べる ことができる。</p>
<p>3. 物質をつく っているのは何 か(分子・原 子)</p> <p>A 分子 B 原子</p> <p>【演示】 分子の模型やカ ードを使い分子 を表す</p> <p>C 分子・原子 D 原子の大きさ と種類</p> <p>【モデル化】 模型やカードを 使いモデル化し て表す</p>	<p>⑬物質は原子や 分子からできて いることに興味 や関心を示して いるか。</p>	<p>⑭水の状態変化 を集まり方で説 明できる。</p>	<p>⑮水の電気分解 を分子モデルを 使って表すこと ができる。</p>	<p>⑯状態変化から 物質が粒子とし てふるまっている 概念としてと らえられている か。</p>
<p>4. 原子や物質 を記号で表わそ う</p> <p>A 原子の記号 B 化学式</p> <p>化学式で書き表 す</p>	<p>⑰原子・分子を 原子記号を用い て、いろいろな 物質を記号で表 してみようとし る</p>	<p>⑱化学式から分 子を構成する原 子の種類と数を 指摘でき、分解 から元の物質名 を見いだすこと ができる。</p>	<p>⑲原子の記号や 化学式を正しく 書くことができ るか。</p>	<p>⑳原子や物質を 表す記号を理解 し身につけてい るか。</p>

(2) 「精選化」

設定した評価規準の中から重要な評価規準を、単元目標を踏まえながら、4観点の評価規準を選び出すことにした。

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 物質を加熱して分解しよう A 酸化銀の分解 【実験1】 酸化銀を加熱したときの変化を調べる 化学変化、分解		②実験結果より酸化銀を加熱したとき生成した物質の性質から物質名を見いだすことができる	③「酸化銀の熱分解」を安全に正しく実験を行うことができる	
B 炭酸水素ナトリウムの分解 【演示実験又は生徒実験】 ○炭酸水素ナトリウムの分解		⑥元の物質が分解することから元の物質が化合物であることを見いだすことができる。	⑦「炭酸水素ナトリウムの分解」の実験を、安全に正しく行うことができる。	
2. 物質を電気で分解しよう 【基本操作】 電気分解装置の使い方 【実験2】 水を電気で分解する 水の電気分解、単体、化合物		⑩水の電気分解によって発生した気体の性質から、気体を識別できる。		⑫電気分解装置を正しく扱うことができる。また実際に水を電気分解し、電極に集まった気体の性質を調べることができる。
3. 物質をつくっているのは何か(分子・原子) A 分子 B 原子 C 分子・原子 D 原子の大きさと種類	⑬物質は原子や分子からできていることに興味や関心を示しているか。		⑮水の電気分解を分子モデルを使って表すことができる。	

4. 原子や物質を記号で表わそう A 原子の記号 B 化学式 化学式で書き表す	⑭原子・分子を原子記号を用いて、いろいろな物質を記号で表してみようとする	⑮化学式から分子を構成する原子の種類と数を指摘でき、分解から元の物質名を見いだすことができる。		⑯原子や物質を表す記号を理解し身につけているか。
--	--------------------------------------	---	--	--------------------------

(3) 構造化

実用的な「評価規準」として、どのような流れや関連であるのがよいか、適切な順序で授業を展開するのかを考えることである。

単元名	1分野 4章 化学変化と分子・原子 1節 物質のなりたち			
指導目標	化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事象を原子、分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。			
観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
第1～4時	<div data-bbox="502 1072 805 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">⑥元の物質が分解することから元の物質が化合物であることを見いだすことができる。</div> <div data-bbox="837 1028 1141 1205" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">③「酸化銀の熱分解」を安全に正しく実験を行うことができる。</div> <div data-bbox="1173 1161 1412 1625" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; vertical-align: top;">⑫電気分解装置を正しく扱うことができる。また実際に水を電気分解し、電極に集まった気体の性質を調べることができる。</div>			
第5～7時				
第8～9時	<div data-bbox="901 1448 1141 1670" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">⑬水の電気分解を分子モデルを使って表すことができる。</div>			
第10～12時	<div data-bbox="295 1703 534 1968" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">⑭原子・分子を原子記号を用いて、いろいろな物質を記号で表してみようとする</div> <div data-bbox="598 1647 869 1968" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">⑮化学式から分子を構成する原子の種類と数を指摘でき、分解から元の物質名を見いだすことができる。</div>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

3年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 第2分野の目標

- (1) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見だし、意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 生物や生物現象についての観察、実験を行い、・・・(省略)
- (3) 地学的な事物・現象についての観察・実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、大地の変化、天気とその変化、地球と宇宙などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象を調べる実験を行い、自然の調べ方を身に付けるようにするとともに、これらの活動を通して自然環境を保全し、生命を尊重する態度を育て、自然を総合的に見ることができるようになる。

3 単元名

2分野6章 地球と宇宙 1節 天体の1日の動きと地球の運動

4 単元目標

身近な天体の観察を行い、その結果やモデル実験などから天体のみかけの運動が地球の自転による相対的運動であることを見いだす。

5 評価目標

- (1) 天体の動きや地球の自転によって起きる自然事象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとする。 [自然事象への関心・意欲・態度]【実験ワークシート】
- (2) 地球の自転による太陽や星の日周運動を天球上に書くことができる。また、星の見える方向とその時刻を同時に推測し、実際の日周運動の記録について、なぜ、そうなるかを説明することができる。 [科学的な思考]
【ワークシート(パフォーマンス課題含む)ペーパーテスト】
- (3) 太陽の1日の動きを一定の時間ごとに調べ、透明半球上に太陽の位置を記録し、ワークシートにその結果をまとめることができる。[観察・実験の技能・表現]
【実験ワークシート、ペーパーテスト】
- (4) 地球上での4方位や、指定された地点での日の出、日の入り、正午、真夜中などのおおよその時刻がわかる。 [自然事象についての知識・理解]【ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

この単元で扱う内容は天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けてとらえることである。地球が自転していることは既知のこととして扱い、単元のはじめに地球上の位置やおおよその時刻をどうやって決めているかを理解させ、地球の自転方向を理解させる。そして太陽や星が、時間とともに一定の動き方をしていることを観察や写真資料などを使い、確認する。そして、太陽や星の位置などから、おおよその方角や時間を知ることができたりすること、また、日本以外の場所では1日中太陽が沈まない現象が見られることなど我々の生活と天体の動きを結びつけて興味や関心を高めたい。その上で、なぜ、天体の日周運動が見られるかを考え、地球の自転による相対的な運動であることをとらえさせることにつなげたい。そこでは思考を助けるために自分で図を描いて考えたり、モデルを使う演示実験などを行ったりして、より具体的に問題解決をさせたい。

(1) 「具体化」

	学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
2 分 野 6 章 地球と宇宙	1. 地球上の方位の決め方と日の出、日の入り	①地球上を外から見た視点で地球上の方位から太陽光線がどちらの方向からくるかを経験と照らし合わせて考えようとする。	②地球上での方位やおおまかな時刻から地球の自転方向が推測できる。		③地球上での方位の決め方を知り、太陽光線の方角から日の出、日の入り、正午、真夜中などのおおまかな時刻がわかる。また、地球の自転方向を知る。
	2. 太陽は1日の間にどのように動くか。 【観察】透明半球を使って、太陽の1日の動きを調べる	④太陽によっておおよその方角や時刻を知ったり、太陽が沈まない現象などについて自分が知っていることをあげられる。	⑤地球の外に視点をおいて地球の自転とともに太陽がどのように動いて見えるかを推測して天球上に描くことができる。	⑥実際の太陽の日周運動の一部を1時間ごとに透明半球上にサインペンで記録し、結果を観察ワークシートに記入できる。	⑦日本での太陽の1日の動きを天球上に描くことができ、それは地球の自転によることを言える。
	3. 星は1日の間にどのように動くのか。	⑧星の日周運動についても、太陽の動きを考えたことを手がかりにして全天球上の星の動きを考えようとする。	⑨指定された地球上の場所で星がどの方向に見え、地球の自転とともにどのように見える方向が変わるかを指摘することで、星の日周運動を説明できる。		⑩東西南北の各空の星の動きを理解し、星空全体の日周運動を天球上に表せる。

(2)「精選化」

	学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
2 分野 6 章 地球 と 宇宙	1. 地球上の方位 の決め方と日の 出, 日の入り				③地球上での方位 の決め方を知り, 太陽光線の方角か ら日の出, 日の入 り, 正午, 真夜中 などのおおまかな 時刻がわかる。ま た, 地球の自転方 向を知る。
	2. 太陽は1日の 間にどのように 動くか。 【観察】透明半球 を使って, 太陽の 1日の動きを調べ る	④太陽によってお よその方角や時 刻を知ったり, 太 陽が沈まない現象 などについて自分 が知っていること をあげられる。	⑤地球の外に視点 をおいて地球の自 転とともに太陽が どのように動いて 見えるかを推測し て天球上に描くこ とができる。	⑥実際の太陽の日 周運動の一部を1 時間ごとに透明半 球上にサインペン で記録し, 結果を 観察ワークシート に記入できる。	
	3. 星は1日の間 にどのように動 くのか。		⑨指定された地球 上の場所で星がど の方向に見え, 地 球の自転とともに どのように見える 方向が変わるかを 指摘することで, 星の日周運動を説 明できる。		

(3)「構造化」

単元名	2分野 6章 地球と宇宙 1節天体の1日の動きと地球の運動		
単元目標	身近な天体の観察を行い、その結果やモデル実験などから天体のみかけの運動が地球の自転による相対的運動であることを見いだす。		
	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現
第1時 ～ 第2時	<p>③地球上での方位の決め方を知り、太陽光線の方角から日の出、日の入り、正午、真夜中などのおおまかな時刻がわかる。また、地球の自転方向を知る。</p>		
第3時 ～ 第4時	<p>④太陽によっておよその方角や時刻を知ったり、太陽が沈まない現象などについて自分が知っていることをあげられる。</p>	<p>⑤地球の外に視点をおいて地球の自転とともに太陽がどのように動いて見えるかを推測して天球上に描くことができる。</p>	<p>⑥実際の太陽の日周運動の一部を1時間ごとに透明半球上にサインペンで記録し、結果を観察ワークシートに記入できる。</p>
第5時 ～ 第6時	<p>⑨指定された地球上の場所で星がどの方向に見え、地球の自転とともにどのように見える方向が変わるかを指摘することで、星の日周運動を説明できる。</p>		

<パフォーマンス課題におけるルーブリック>

		図の正しさ	ことばによる説明
A	4	全天球上に3つの星が地軸のまわりを同心円状に東から西に動く図が描け、日本における地平線と東西南北を示した天球図にそれを書き直した図も描ける。	地球は西から東に向かって地軸を中心に自転していることを述べ、地球上から見ると星は地軸を中心にその逆に動いて見えることを説明できている。 日本の位置での地平線について述べ、3つの星はその地平線に対しては東から西に傾いてまわって見えることを説明できる。
B	3	全天球上に3つの星が地軸のまわりを同心円状に東から西に動く図が描ける。	地球は西から東に向かって地軸を中心に自転していることを述べ、地球上から見ると星は地軸を中心にその逆に動いて見えることを説明できている。
C	2	全天球上に3つの星が地軸のまわりを同心円状に動く軌跡をだいたい書けるが、向きを正しく示せていない。	地球が自転していることによって星は動いて見えることを述べているが、動く向きや地軸を中心に動いて見えることについては正しく述べられない。
	1	全天球上に3つの星が動く軌跡を正しく描くことができない。	地球の自転が星の動いて見える原因であることが述べられない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

音楽科

1年

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2 学年目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

3 題材名

1年 標題音楽を聴く～「ブルタバ」～ (教育芸術社 中学生の音楽 1)

4 題材の指導目標

オーケストラの響きを味わい、標題と音楽との関わりを想像豊かに鑑賞することができる。

5 題材の評価目標

- (1) オーケストラに使われる各楽器の音色やオーケストラの響きに関心をもち、鑑賞しようとする。

[音楽への関心・意欲・態度]

【評価方法：ワークシート】

- (2) オーケストラに使われる各楽器の音色の特徴と、表現されるさまざまな情景を感じ取ることができる。

[音楽的な感受や表現の工夫]

【評価方法：ワークシート】

- (3) 標題を手がかりに情景の特徴を聴き取ることができる。

[鑑賞の能力]

【評価方法：ワークシート】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この題材における観点は、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽的な感受や表現の工夫」「鑑賞の能力」の3つである。しかし、学習内容の中でそれぞれの力を伸ばすためには、各観点が独立したものではなく、3つの観点が互いに結びつくように考えなければいけない。中でも、「音楽への関心・意欲・態度」は、学習活動の基盤であり、各学習をすすめていく力となる。この力が、最終的には、教科目標にある「愛好する心情」へとつながっている。以上の点を考えたうえで評価規準を設定した。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
標題音楽を聴く	①オーケストラの音色や奏法に関心をもち、意欲的に聴いている。	②各楽器の音色や奏法などの特徴と、表現効果を感じ取り、具体的な楽器名をあげてワークシートに記述できる。	③オーケストラの楽器の音色や奏法などから曲全体の表現される場面を想像することができる。
	④オーケストラにより表現される情景と標題との関わりに関心をもちて聴いている。	⑤各標題を描写する楽器の演奏効果や曲想から標題のイメージを感じ取り、絵や文章で表現できる。	⑥楽曲のリズムや旋律の特徴を感じ取って、全般的な情景を想像豊かに聴くことができる。
		⑦特徴的な拍子やリズムなどから独特の雰囲気を感じ取っている。	⑧標題を手がかりに情景の特徴や雰囲気など曲全体を聴き取り、標題ごとに聴き取ることができる。

(2)「精選化」

この題材の目標を踏まえて、②「音楽的な感受や表現の工夫」④「音楽への関心・意欲・態度」⑨「鑑賞の能力」の3つの「評価規準」を選び出すことにした。

まず、観点「音楽的な感受や表現の工夫」における「評価規準」は、具体化した評価規準②・⑤・⑦から、②「各楽器の音色や奏法などの特徴と、表現効果を感じ取っている」を選んでいる。これは、オーケストラの多彩な響きを感じ取るうえで、必ず必要な力であると考えたからである。この力があることにより、オーケストラの多彩な響きに対しての関心も深まり、また、その力が標題と音楽への関わりを感じ取る力へとつながり、さらには、さまざまな音楽表現への感受につながるからである。授業の中では、この観点と観点「音楽への関心・意欲・態度」における「評価規準」④「オーケストラにより表現される情景と標題との関わりに関心をもちて聴いている」を関連づけながら進めることが必要である。

次に、観点「音楽への関心・意欲・態度」における「評価規準」①・④から④を選んでいる理由は、④の力が深まることにより、生徒自らが、作曲者の思いや、歴史的背景について関心を持つ力に結びつけることができるからである。この題材では、標題と音楽との関わりに重点を置くため、④「オーケストラにより表現される情景と標題との関わりに関心をもちて聴いている」を選ぶこととした。

また、「鑑賞の能力」における「評価規準」は、⑧「標題を手がかりに情景の特徴や雰囲気など曲全体を聴き取り、標題ごとに聴き取ることができる」とした。各楽器の音色や奏法などの特徴を理解したうえで、標題から情景をイメージし、そのイメージを音楽と結びつけて曲全体を聴き取ることができることが大切であるからである。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
標題音楽を聴く		②各楽器の音色や奏法などの特徴と、表現効果を感じ取り、具体的な楽器名をあげてワークシートに記述できる。	
	④オーケストラにより表現される情景と標題との関わりに意欲をもって聴いている。		
			⑧標題を手がかりに情景の特徴や雰囲気など曲全体を聴き取り、標題ごとに聴き取ることができる。

(3)「構造化」

この題材の指導目標には、生徒一人一人が、各楽器の音色や奏法などの特徴を感じ取る力が必要である。そのことが、オーケストラの多彩な響きを感じ取ることにつながるからである。そのために、第1時に、この学習を行うこととなる。それが、②の部分にあたる。1年で、オーケストラでの曲を鑑賞する学習することは、この題材が最初であるので、各楽器の音色や奏法の特徴については、生徒一人一人に十分に感じ取らせておくことが大切である。また、平行して、標題についてイメージを持たせることも大切である。標題から場面を想像することが第2時の学習につながっているからである。

第2時では、音楽の響きからもつイメージと標題から想像したイメージとを関わらせながら鑑賞させていくことがポイントとなる。生徒一人一人が、場面を豊かに想像しながら標題と音楽がどう関わっているかを感じ取らせ、聴き取ることができるかどうかが大変である。授業の中では、場面ごとに鑑賞していき、最終的に曲全体を聴く。そのうえで、ワークシートへの記述により、評価につなげていく。

題材名	標題音楽を聴く		
指導目標	オーケストラの響きを味わい、標題を音楽との関わりを想像豊かに鑑賞することができる。		
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
第1時	<div data-bbox="676 561 1038 749" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②各楽器の音色や奏法などの特徴と、表現効果を感じ取り、具体的な楽器名をあげてワークシートに記述できる。</p> </div>		
第2時	<div data-bbox="325 716 663 900" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④オーケストラにより表現される情景と標題との関わりに意欲をもって聴いている。</p> </div> <div data-bbox="1038 937 1370 1121" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 100px;"> <p>⑧標題を手がかりに情景の特徴や雰囲気など曲全体を聴き取り、標題ごとに聴き取ることができる。</p> </div>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

音楽科

2年

1. 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2. 題材名

第2学年 日本の楽器の響き（箏）

3. 題材の目標

日本の楽器である箏の響きに親しみ、余韻の変化を味わいながら聴くことができる。
箏曲の独特な旋律をあげることができる。

4. 題材の評価目標

(1) 箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感じワークシートに積極的に記入することができる。

[音楽への関心・意欲・態度]

[評価方法：ワークシート・観察]

(2) 箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取り絵や文章で書き表すことができるかまた発表のいずれかによって自分自身の感じた事を表現することができる。

[音楽的な感受や表現の工夫]

[評価方法：ワークシート・観察]

(3) 箏の多様な音色や奏法の組み合わせによる表現効果を聴き取り日本の独特の速さの変化などに気づきワークシートに聴き取ったことを記入することができる箏を実際に演奏してみたいという気持ちができる。

[鑑賞の能力]

[評価方法：ワークシート・観察]

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) この題材の指導目標は、箏の響きに親しみ余韻の変化を味わいながら聴く事ができる。箏曲の独特の旋律を味わうことができること。である。鑑賞の題材ではあるが表現活動の題材へと互いに関連させながら学習を進めていくとが大切である。つまりこの題材が次題材である「箏にチャレンジ」(箏の実技)につながっていくようにしていくように組み立てていかなければならない。鑑賞の授業で感じたことを受け止め、音に関心を持ち雰囲気や特質などを感じ取る力を付けていき、感じた事を絵や文字で表し自分の内面を整理し膨らませ次の表現活動につながっていくようにしていくことができる。

題材も日本の響きである尺八・箏の中より「箏」に焦点を置き以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
箏の響きを聴く	①箏の音色や奏法に関心を持ち、理解しようと意欲的に聴くことができる。	②箏の音色や奏法などの特徴と表現効果を理解して楽曲全体を味わって聴いている。	③箏の多様な音色や奏法の組み合わせによる表現効果を聴き取ることができる。
	④箏の音色に関心を持って聴くことができる。	⑤箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取ることができる。	⑥楽曲のリズムや旋律の特徴を感じ取って箏曲の進行を理解しながら聴くことができる。
	⑦箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感ずることができる。	⑧旋律の美しさを感じ取ることができる。	⑨時代の生活や習慣制度や伝統などの文化や歴史をとらえて聴くことができる。

(2) 精選化

「鑑賞の能力」において箏の奏法や日本の音楽の独特のリズム感は西洋音楽にはない我が国の音楽の特徴である。③「鑑賞の能力」の「箏の多様な音色や奏法の組み合わせ

せによる表現効果を聴き取ることができる。」は重きにおきたい部分である。⑤「音楽的な感受や表現の工夫」の「箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取ることができる。」を③に関連づけながら聴くことが音楽活動「鑑賞」の分野において感受につながっている。感じたことがワークシートなどを使い絵や文章や発表のいずれかによって表現する力が内面から湧き上がってくるようになる。また「音楽への関心・意欲・態度」の⑦「箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感じることができる。」の部分においては音楽の鑑賞活動分野において単に受動的に参加するのではなく能動的に生徒自身が実際に箏にふれて取り組みたいという姿勢が鑑賞活動の理解の幅を広げていくことになる。年間計画次題材の「箏にチャレンジ」につなげていく力となる。鑑賞と表現は表裏一体と思われる。感じた箏を内面に取り込み、それを表現という手段で文章や、言葉や、絵などによって表そうとする力を生み出す。そのことがさらに箏に関心を持ちいろいろな角度から積極的に鑑賞活動に参加し、新たな視点で感受を育て感性を豊かに自身の力で伸ばしていくことにもなると思う。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
箏の響きを聴く			③箏の多様な音色や奏法の組み合わせによる表現効果を聴き取ることができる
		⑤箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取ることができる。	
	⑦箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感じることができる。		

6 構造化

この題材の指導目標に向かうためには、評価規準で考えた流れのままであるが、具体的には箏の演奏をレーザーディスクで鑑賞する、感じたことを自分の意見でまとめ文章や、絵で表現する、次に演奏してみたいという内面の力をふくらませていくということになる。そのことがさらに深く日本の音楽の響きに親しみを持つこととなる。

題材名	日本の音楽		
指導目標	<p>(1) 箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感じることができる。</p> <p>(2) 箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取ることができる。</p> <p>(3) 箏の多様な音色や奏法の組み合わせによる表現効果を聴き取ることができる。</p>		
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
第1時 第2時	<div data-bbox="1066 659 1385 946" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>③箏の多様な音色や奏法の組み合わせによる表現効果を聴き取ることができる。(ワークシートに書きとめられている)</p> </div> <div data-bbox="756 990 1043 1375" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>⑤箏の奏法について理解し、箏の音色の美しさ・余韻の変化の味わいを感じ取ることができる。(気づいたことを発表したかワークシートに書きとめられている。)</p> </div> <div data-bbox="469 1420 756 1632" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>⑦箏の音色や旋律の美しさに触れ、箏に親しみを感じることができる。</p> </div>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

美術科

1年

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

[第1学年] 目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。

2 単元名

1年 色の世界 美術1上 (開隆堂出版)

3 単元目標

A 表現 (デザイン)

- ・形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすることができる。
- ・用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから発想し構想を練り、つくり方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け、造形感覚を働かせ創意工夫してつることができる。

4 単元(題材)の評価目標

3の目標を観点別の評価目標に置きかえるとともに評価方法を考えてみた。

- (1) 生活の中のデザインや美しさ、造形要素、表現方法などに関心をもち、意欲的に美術の基礎能力を身に付けようとし、それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。

[美術への関心・意欲・態度]

【評価方法：ワークシートⅠ】

- (2) ものの見方・感じ方を深め、感性や想像力を働かせて用途や機能、使用する者の気持ちなどを考え、豊かに発想し構想する基礎的能力を身に付け、形や色彩、材料などの構成を工夫し、美しく心豊かな表現を用い構想することができる。

[発想や構想の能力]

【評価方法：ワークシートⅠ・Ⅱ】

- (4) 互いのデザイン作品を鑑賞し、構成や配色の美しさを考え文章で表現したり、相手の述べる意見や感想などを聞き取ることができる。

[鑑賞の能力]

【評価方法：合評感想文 八面体作品】

【1】 「具体化」

この単元の指導目標は、基礎的な色の知識である。最初の授業で映像教材（パワーポイント）を使用し短時間での視覚的理解を引き出した後、「私たちは色の持つ科学的性質によって、色から何かを感じることができる。」という事実を具体例を示しながら段階的に説明する。以下はこの単元で生徒に身に付けさせたい理解と技能を、生徒の提出作品（ワークシートⅠは色鉛筆、Ⅱ・八面体はポスターカラーで彩色）を想定して評価規準を設定したものである。

学習内容	美術への関心 ・意欲・態度	発想・構想 ・独創の能力	技能・表現・創造 の能力	感受・鑑賞 ・審美の能力
導入 色彩について の考察Ⅰ 色の分類 (1H)	①生活の中の色彩について関心を持ち、色彩についての基礎的な用語や性質、感情効果を理解しようとしている。	②色の特性を知り、色の分類が正しくできる。	③色彩の特性を理解し、短時間で分類や塗り分け作業をすることができる。	④色から受けるイメージを言葉で表現できる。
色彩について の考察Ⅱ 色の分類 (1H) 「自分で作る 色相環」(3H)	⑤色相環を理解し、正確に色を分類して、それを塗り分ける作業に取り組むことができる。	⑥混色の仕組みを理解し明度差と彩度差を表現できる。	⑦色の三属性や配色の効果を理解することができる。色の感情効果を理解し彩色することができる。	
色彩について の考察Ⅲ 八面体制作 「思いを色で 伝えよう」 (6H)	⑧色彩の特性を知り、色の分類やそれを塗り分ける作業に取り組むことができる。		⑨色の感情効果を理解し正確に組み立てた立体（八面体）に効果的に配色することができる。絵の具の濃さや筆づかいに留意し、ポスターカラーを美しく発色させることができる。	
八面体制作 「思いを色で 伝えよう」合評会 (1H)				⑩互いの作品を鑑賞し、構成や配色の美しさを考えて文章で表現することができる。⑪自分の意見や考えを、積極的に発表できる。

【2】 「精選化」

ここで目指しているのは、生徒たちが今後様々な課題に取り組んでいく上で不可欠の色の知識理解であり、さらには、デザインがもたらす性質や感情を理解し、つくり方や意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けることである。デザインの配色は個人個人の感

料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けることである。デザインの配色は個人個人の感性や想像力、造形感覚によるものではあるが、基礎知識はなくてはならない。創意工夫し美しく表現するためには、それぞれの色彩の持つ性質、働き、を理解して、効果的に使えるようになることがまず必要である。そこで、色彩のしくみを分かりやすく、視覚的に理解させるためにパワーポイントを使用する。「自分で作る色相環」を最終課題としたワークシートⅠからⅢを用いて、色彩の性質、働きの反復学習による理解が肝要と考え、⑩の評価規準を選んでいる。さらに総合的に色彩を理解するために色相環の制作を通して、⑨の評価規準を選び出している。最終的には学習した事のまとめとして、色彩構成に取り組みさせる。

学習内容	美術への関心 ・意欲・態度	発想・構想 ・独創の能力	技能・表現・創造 の能力	感受・鑑賞 ・審美の能力
導入 色彩についての 考察Ⅰ 色の分類 (1H)	① 生活の中の色彩について関心を持ち、色彩についての基礎的な用語や性質、感情効果を理解しようとしている。	② 色の特性を知り、色の分類が正しくできる。		
色彩についての 考察Ⅱ 色の分類 (1H) 「自分で作る色相環」(3H)		⑥ 混色の仕組みを理解し明度差と彩度差を表現できる。	⑦ 色の三属性や配色の効果を理解することができる。色の感情効果を理解し彩色することができる。	
色彩についての 考察Ⅲ 八面体制作 「思いを色で伝えよう」 (6H)			⑨ 色の感情効果を理解し正確に組み立てた立体(八面体)に効果的に配色することができる。絵の具の濃さや筆づかいに留意し、ポスターカラーを美しく発色させることができる。	
八面体制作 「思いを色で伝えよう」合評会 (1H)				⑩ 互いの作品を鑑賞し、構成や配色の美しさを考えて文章で表現することができる。⑪ 自分の意見や考えを、積極的に発表できる。

【3】 「構造化」

色の知識理解と、デザインの基礎的技能を身に付けることがこの単元を終えての目標なので、授業の流れとしては、短時間で色鉛筆を使用しワークシートⅠを、ワークシートⅡではポスターカラーを使用し具体的な彩色について学習する。色の知識理解ではパワーポイントを使い、ワークシートⅠの作業を確認しながら授業を進める。合評会では、最終段階であるワークシートⅢの作品（色相環を中心に構成）がの対象作品になり、その鑑賞を通してデザインの基礎的技能について再学習する。

単元名	色の世界			
指導目標	色の知識理解と、デザインがもたらす性質や感情を理解し、つくり方や意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。			
観点	美術への関心 ・意欲・態度	発想・構想 ・独創の能力	技能・表現 ・創造の能力	感受・鑑賞・審美の能力
第1時～2時	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①生活の中の色彩について関心を持ち、色彩についての基礎的な用語や性質、感情効果を理解しようとしている。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②色の特性を知り、色の分類が正しくできる。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>⑥混色の仕組みを理解し、色の明度差と彩度差を表現できる。</p> </div> </div>			
第3時～5時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>⑦色の三属性や配色の効果を理解することができる。色の感情効果を理解し彩色することができる。</p> </div>			
第6時～11時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>⑨色の感情効果を理解し、正確に組み立てた立体（八面体）に効果的に配色することができる。絵の具の濃さや筆づかいに留意し、ポスターカラーを美しく発色させることができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 150px; margin-top: 20px;"> <p>⑩互いの作品を鑑賞し、構成や配色の美しさ考えて文章で表現することができる。</p> <p>⑪自分の意見や考えを、積極的に発表できる。</p> </div>			

* ルーブリック

②色の特性を知り、色の分類が正しくできる。

- 4 暖色と寒色、重い感じと軽い感じの色、さらに中性色を表現することができ、自分の感情にあったオリジナル色を二色以上作ることができる。
- 3 暖色と寒色、重い感じと軽い感じの色、さらに中性色を表現することができる。
- 2 暖色と寒色、重い感じと軽い感じの色を表現することができるが、中性色を表現することができない。
- 1 暖色と寒色を除いた全ての分類ができない。

⑥混色の仕組みを理解し、色の明度差と彩度差を表現できる。

- 4 色混色の仕組みを理解し、絵の具をバランスよく混ぜ合わせることができ、紫・橙・緑の三色を作り出すことができる。さらに、赤・青・黄の三色を均等に混色して、灰色を作り出すことができる。指定された色に、段階的に白絵の具を混色して明度差を五段階作ることができる。同じく指定された色に、段階的に黒絵の具を混色してマイナスの明度差を五段階作ることができる。
- 3 色混色の仕組みを理解し、絵の具をバランスよく混ぜ合わせることができ、紫・橙・緑の三色を作り出すことができるが、赤・青・黄の三色を均等に混色して、灰色を作り出すことができない。
- 2 色混色の仕組みを理解することができるが、正しく紫・橙・緑の三色を作り出すことができない。明度差を三段階以上作ることができない。
- 1 混色の仕組みが理解できず、同じ色調になってしまう。

* ルーブリック

⑨色の感情効果を理解し、正確に組み立てた立体（八面体）に効果的に配色することができる。絵の具の濃さや筆づかいに留意し、ポスターカラーを美しく発色させることができる。

4 配色表現では、鑑賞者に対して与えられたテーマを十分に連想させることができる。さらに全ての面（八面）において塗りむら、1ミリ以上のはみ出しがない。6つの角は4面がすべて揃っている。組み立て作業において接合のずれがない。

3 鑑賞者に対して与えられたテーマを連想させる工夫している。彩色作業において塗りむら、2ミリ以上のはみ出しはあるが、8面のうち5面以上正確に塗り込むことができる。組み立て作業において3ミリ以上の接合のずれが殆ど見られない。

2 鑑賞者に対して、与えられたテーマを連想させることができない。八面体において、半数以上の塗り間違いがあり、塗りむらが随所にみられる。組み立て作業において3ミリ以上の接合のずれが数カ所見られる。

1 作品が与えられたテーマと無関係である。八面体において、半数以上の塗り間違いや塗りむらがあり、ポスターカラー本来の使い方を理解していない。組み立て作業において3ミリ以上の接合のずれが随所に見られる。

⑩ 互いの作品を鑑賞し、構成や配色の美しさ考えて文章で表現することができる。

4 他の生徒の表現した八面体の発色を自分の作品と比較することができ、八面体においての効果的な配色や美しい彩色をポイントにして作品を鑑賞し、文章にすることができる。

3 他の生徒の表現した八面体の発色を自分の作品と比較することができるが、八面体においての課題である効果的な配色・彩色には鑑賞が及んでいない。

2 他の生徒の表現した八面体の発色を自分の作品と比較することができず、今後の改善についてふれていない。

1 他の生徒の表現した八面体に対して、理解が欠如しているか、賞賛のみの文章で完結され具体的な表現がなされていない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

2年

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 体育分野の目標

- 1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。
- 2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
- 3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

3 単元(題材)名 2年生 男子 「武道」領域「柔道」 (ワンダフルスポーツ：新学社)

4 「柔道」の目標

柔道を通して自己の能力に適した技を習得するために、適切な課題を設定し、その解決に向けた練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようになるとともに、礼儀作法や安全に留意しながら、互いに相手を尊重した学習活動が協力してできる態度を育てる。

「武道(柔道)」の評価目標

- (1) 自ら柔道をさらに楽しもうとし、礼儀作法や相手を尊重する態度を養うとともに、安全に留意して取り組む姿勢を身につけようとする。
【運動への関心・意欲・態度】
【評価方法：観察】…ルーブリック⑥参照
- (2) 学習カードに、実現可能な目標と、その達成に向けて次時の学習活動での具体的課題を設定でき、学習活動場面で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる。
【運動についての思考・判断】
【評価方法：学習カードの内容と観察】…ルーブリック①③参照
- (3) 柔道の特性に応じた技能を身につけ、相手の動きに応じて、練習や試合ができる。
【運動の技能】
【評価方法：学習カードの内容と観察】…ルーブリック②④参照
- (4) 柔道の特性・技術構造を理解するとともに試合や審判の方法を理解し、知識を身につける。
【運動についての知識・理解】
【評価方法：ペーパーテスト・学習カードの内容と観察】…ルーブリック⑤参照

4 目標・内容分析

(1) 具体化

「柔道」を通して、「運動への関心・意欲・態度」の評価規準として、自ら柔道をさらに楽しもうとする工夫と努力をみるために①を、礼儀作法や相手を尊重する態度を養い、協力する態度を養うために⑥を、安全に留意して取り組む姿勢を身につけようとするために⑨を設定した。

「運動についての思考・判断」では、自己の技能を把握して、数時間後の自分の姿を想定した目標を設定する。そして、その実現に向けて毎時間、次時の課題を具体的に設定できる力をつけるために②を、学習活動での練習の工夫する力を見るために⑦の評価規準を設定した。「運動の技能」では、礼儀作法を意識して、試合や練習ができる。ということで③を、新たな技能習得のために集中して全力を出し切ることができるということで⑤を設定した。「運動についての知識・理解」では、柔道の特性が理解できたかをみるため、④を設定した。

「武道(柔道)」の評価規準の具体例

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
柔道	①自ら柔道をさらに楽しもうと、自分の技能向上のために、工夫と努力をして運動に取り組もうとする。	②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。	③礼儀作法を意識し、試合ができる。	④学習カードの記述内容や学習活動中の言動で、技能や礼儀作法などに関する用語を正しく使ったり、正しい技能の要領や構造を意識して使うことができる。
礼儀作法	⑥礼儀作法や学習の約束(準備・準備運動・後片づけ・整理運動・マナー等)を守り、自分たちで協力しながら教え合ったり、練習しようとする。	⑦自己の技能の把握ができ、学習活動で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる。	⑤新しく取り組む技に集中して全力でできる。	
固め技				
投げ技	⑧事故防止に対し、用具の安全を確かめたり、自分の行動に気を配ろうとする。			

(2) 精選化

評価規準の具体例で、運動への関心・意欲・態度に上がった3項目であるが、ひとつにまとめ、この項目を直接評価するのではなく、他の3つの観点の項目の評価を通して評価する。

「武道(柔道)」の評価規準の精選化

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
柔道	①自ら柔道をさらに楽しもうとし、礼儀作法や相手を尊重する態度を養うとともに、安全に留意して取り組む姿勢を身につけようとする。	②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。	③新しく取り組む技に集中して全力でできる。	④学習カードの記述内容や学習活動中の言動で、技能や礼儀作法などに関する用語を正しく使ったり、正しい技能の要領や構造を意識して使うことができる。
礼儀作法		⑦自己の技能の把握ができ、学習活動で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる。	⑤礼儀作法を意識し、試合ができる。	
固め技				
投げ技				

4. 構造化

単元予定12時間の中を、第1段階1～3時間と第2段階4～6時間と7～9時間と第3段階とまとめの10～12時間目というように分け、各段階での学習のポイントをあげると以下のようになる。なお、運動への関心・意欲・態度の項目は、運動についての思考・判断や運動の技能や運動についての知識・理解の項目を通して最終的に総括評価する。各段階では診断的評価になるが、まとめの時間に「柔道」としての総括的評価を行う。

単元の目標		柔道を通して自己の能力に適した技を習得するために、適切な課題を設定し、その解決に向けた練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようになるとともに、礼儀作法や安全に留意しながら、互いに相手を尊重した学習活動が協力してできる態度を育てる。			
段階	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解	
1					
3		⑦自己の技能の把握ができ、学習活動で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる。			
4					
6		②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。	③新しく取り組む技に集中して全力でできる。		
7					
9			⑤礼儀作法を意識し、試合ができる。		
10	①自ら柔道をさらに楽しもうとし、礼儀作法や相手を尊重する態度を養うとともに、安全に留意して取り組む姿勢を身につけようとする。			④学習カードの記述内容や学習活動中の言動で、技能や礼儀作法などに関する用語を正しく使ったり、正しい技能の要領や構造を意識して使うことができる。	
12					

ループリック①

【自己の技能の把握ができ、学習活動で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる】
ABCの3段階で、評価する。これらは、「運動についての思考・判断を中心として；運動の技能；運動についての知識・理解」の評価に関係する。

【自分の技能の把握】

- ・学習カードの内容で、自己の技能の分析が具体的に書けている。(A)
- ・学習カードの内容で、自己の技能の分析が書けている。(B)
- ・学習カードの内容で、自己の技能の分析が書けていない。(C)

【学習活動場面】

- ・学習活動場面で、練習方法に、「かかり練習」「約束練習」を意識して使い分けながら仲間に呼びかけることができる。(A)
- ・学習活動場面で、練習方法に、「かかり練習」「約束練習」を意識して使い分けられる。(B)
- ・学習活動場面で、練習方法に、「かかり練習」「約束練習」を意識して使い分けられない。(C)

ループリック②

【新しく取り組む技に集中して全力でできる。】

ABCの3段階で、評価する。これらは、「運動の技能を中心に、；運動についての思考・判断；運動についての知識・理解」の評価に関係する。

学習カードの内容

- ・新しく取り組む技の、技能習得への内容が具体的に書ける。(A)
- ・新しく取り組む技の、技能習得について書かれている。(B)
- ・新しく取り組む技の、技能習得について書かれていない。(C)

授業での観察

- ・学習カードの内容を意識した活動で、「かかり練習」や「約束練習」を効果的に取り入れ、ひたむきに何度も繰り返し技能を定着させようと努力している。(A)
- ・学習カードの内容を意識した活動ができる。(B)
- ・学習カードの内容を意識した活動ができない。(C)

ループリック③

【学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。】

ABCの3段階で、評価する。これらは、「運動についての思考・判断を中心に、；運動の技能；運動についての知識・理解」の評価に関係する。

学習カードの内容

- ・学習カードに、実現可能な自分の姿をイメージした目標が書けており、その達成に向けて、次の時間の学習活動の課題が具体的に書けている。(A)
- ・学習カードに、実現可能な自分の姿をイメージした目標が書けており、その達成に向けて、次の時間の学習活動の課題が書けている。(B)
- ・学習カードに、実現可能な自分の姿をイメージした目標が書けているが、その達成に向けて、次の時間の学習活動の課題が書けていない。(C上)
- ・学習カードに、実現可能な自分の姿をイメージした目標が書けていない。(C下)

ルーズブリック④

【礼儀作法を意識し、試合ができる。】

A B Cの3段階で、評価する。これらは、「運動の技能を中心に、; 運動についての思考・判断 ; 運動についての知識・理解」の評価に関係する。

授業での観察

- ・礼儀作法を意識しながら、ルールに従って試合や審判が正確にできる。(A)
- ・礼儀作法を意識しながら、ルールに従って試合や審判ができる。(B)
- ・礼儀作法を意識しながらも、ルールに従って試合や審判ができない。(C上)
- ・礼儀作法が意識できないが、ルールに従って試合や審判ができる。(C下)

ルーズブリック⑤

【学習カードの記述内容や学習活動中の言動で、技能や礼儀作法などに関する用語を正しく使ったり、正しい技能の要領や構造を意識して使うことができる。】

A B Cの3段階で、評価する。これらは、「運動についての知識・理解を中心に、; 運動についての思考・判断 ; 運動の技能」の評価に関係する。

学習カードの内容

- ・技能や礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、正しく・的確に書くことができる。(A)
- ・技能や礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、正しく書くことができる。(B)
- ・技能や礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、正しく書くことができない。(C)

授業での観察

- ・学習活動中の仲間へのアドバイスや呼びかけの中で、意識して礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、常に正しく使うことができる。(A)
- ・学習活動中の仲間へのアドバイスや呼びかけの中で、意識して礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、正しく使うことができる。(B)
- ・学習活動中の仲間へのアドバイスや呼びかけの中で、意識して礼儀作法などに関する用語や技能の要領や構造を、正しく使うことができない。(C)

ループリック⑥

【自ら柔道をさらに楽しもうとし、礼儀作法や相手を尊重する態度を養うとともに、安全に留意して取り組む姿勢を身につけようとする。】

A B Cの3段階で、評価する。これは、「運動への関心・意欲・態度」の評価に関係する。

☆柔道をさらに楽しもうとするは、以下の3つの*で評価する。

*新しい技の習得……新しい技の習得について評価する。(ループリック②参照)

構造については、ペーパーテストでも評価する。

【運動についての思考・判断：運動の技能：運動についての知識・理解】

*試合ができる…… ルールに従って試合・試合の運営（審判）ができるかで評価する。

(ループリック④参照)

ルール・審判法については、ペーパーテストでも評価する。

【運動についての思考・判断：運動の技能：運動についての知識・理解】

*柔道の特性・技術構造を知っている ペーパーテストで評価する。

【運動についての知識・理解】

☆礼儀作法や相手を尊重する態度は、特に授業・練習・試合の始めや終わりの観察で評価する。

(ループリック④参照)

※作法については、ペーパーテストでも評価する。

【運動への関心・意欲・態度：運動についての知識・理解】

☆安全に留意して取り組む姿勢は、学習活動の観察（学習カードの内容・活動中の言動）

（場所の点検状況や準備・準備運動・練習・整理運動・後片づけ）で評価する。

・場所の点検状況や準備・準備運動・練習・整理運動・後片づけ において、常に安全を意識して活動できる。(A)

・場所の点検状況や準備・準備運動・練習・整理運動・後片づけ において、安全を意識して活動できる。(B)

・場所の点検状況や準備・準備運動・練習・整理運動・後片づけ において、安全を意識した活動ができない。(C)

【運動への関心・意欲・態度：運動についての思考・判断】

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

2年

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 体育分野の目標

(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。

(2) 各種の運動を適切に行なうことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。

(3) 運動における競争や共同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

3 単元名

2年 女子 「球技」領域 「バスケットボール」 (ワンダフルスポーツ 新学社)

4 単元目標

基本的技能を身につけ、チームにおける自己の役割を自覚し、作戦を立てたり、工夫して責任を果たせる。互いに協力して練習やゲームが出来るようにするとともに、勝敗に対して公正な態度が取れるようにする。また、健康・安全に留意して活動ができるようにする。

5 単元(題材)の評価目標

(1) バスケットボールに関心をもち、楽しさや喜びを味わい、チームにおける自分の役割を果たし、互いに協力して練習やゲームをしようとする。 [運動への関心・意欲・態度]
【評価方法：観察】

(2) チームの課題や自分の能力の課題の設定ができるとともに、問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦を立てられる。
[運動についての思考・判断]
【評価方法：学習カードの内容・観察】

(3) バスケットボールの特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。
[運動の技能]
【評価方法：学習カードの内容・観察】

(4) 球技の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につける。
[運動についての知識・理解]
【評価方法：ペーパーテスト・学習カードの内容】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

バスケットボールは大きく分けて、Ⅰ技能の習得（個人的な技能、集団的な技能）。ゲームの作戦（相手チームに対応した攻防）。Ⅲ競技の運営と審判の方法。の三つの柱に重点を置いて活動している。バスケットボールの特性を理解し、楽しさや喜びを味わいながらチームの一員として自分の技能を生かしているか、自分の役割を果たしているかを意識させ、チームの課題や自分の能力の課題の設定ができるとともに、問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦を立てられるようにしたい。これらの学習活動を通して、考える力、バスケットボールに必要な知識を身につけると考え、評価規準を具体的に設定した。

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
バスケットボール	①個：特性に興味・関心を持ち進んで運動を楽しもうとする。 個：グループのねらいを持ち練習をしようとする。	②個：自己の能力を知り、学習のねらいを具体的に持つことができる。 集：各自の能力を理解し合いながら目標を決めることができる。	③個：小学校で身につけた技能を復習する。	④個：特性に触れ、運動の学び方、楽しみ方、深め方を理解することができる。 集：個々の能力を活かしたチームの作り方を理解することができる。
	⑤個：安全に留意して意欲的に練習やゲームに挑戦しようとする。	⑥個：より正確なプレーができるように練習を工夫することができる 集：協力して練習や作戦の工夫ができ、資料の活用できる。	⑦個：ボールの正しい持ち方、正確なパス、キャッチ、ドリブルを使い分けることができる。 集：チームで協力し、より多くのシュートチャンスをつくることができる。	⑧個：基本的なルールを理解することができる。 個：運動の合理的な動き方や安全な実践の仕方を理解することができる。
	⑨個：チーム内で声をかけたり、励まし合いながら、練習やゲームを楽しもうとする。 個：協力して、用具の準備や後片付けをしようとする。	⑩個：ルールや約束がゲームに必要なことがわかる。 個：チームで話し合い、やさしいルールを工夫してゲームができる。	⑪個：シュートを積極的に行うことができる 集：集団技能をより多く使ってゲームができる。	⑫個：ゲームの進め方を理解することができる。
	⑬個：公正な態度で、最善をつくし、ゲームをしようとする。 集：お互いに助け合い、励まし合いながら、ゲームを楽しもうとする。	⑭個：毎時の反省をいかすことができる。 集：チーム内でアイデアを出し合い、次回のゲームに生かすことができる。	⑮個：身につけた技能をゲームにいかすことができる。 集：チームの能力を生かした作戦でゲームができる	⑯・チームの能力を生かす作戦の立て方理解することができる。 ・リーグ戦の運営や進め方を理解することができる。

(2)「精選化」

今回は第2学年ということでⅡに対して意識をさせ、ゲームの中で出てきた個人としての課題、チームとしての課題について分析し、改善点を把握し、解決に向けて効果的な練習の仕方や作戦を立て、取り組ませたい。教え合い、励まし合いながら活動する中で、チームとして個々が適切なポジションで、役割が発揮できる工夫ができているか、相手に合わせた作戦が立てられか。に重点を置き取り組ませる。また、ルールを理解し、ゲームを公正、正確にできる力を身に付ける。この考えをもとに精選化を図った。

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
バスケットボール	①個：特性に興味・関心を持ち進んで運動を楽しもうとする。 個：グループのねらいを持ち練習をしようとする。			④個：特性に触れ、運動の学び方、楽しみ方、深め方を理解することができる。 集：個々の能力を活かしたチームの作り方を理解することができる。
		⑥個：より正確なプレーができるように練習を工夫することができる 集：協力して練習や作戦の工夫ができ、資料の活用できる。		
	⑨個：チーム内で声をかけたり、励まし合いながら、練習やゲームを楽しもうとする。 個：協力して、用具の準備や後片付けをしようとする。			⑫個：ゲームの進め方を理解することができる。
		⑭個：毎時の反省をいかすことができる。 集：チーム内でアイデアを出し合い、次回のゲームに生かすことができる。	⑮個：身につけた技能をゲームにいかすことができる。 集：チームの能力を生かした作戦でゲームができる	⑯個：チームの能力を生かす作戦の立て方理解することができる。 個：リーグ戦の運営や進め方を理解することができる。

(3)「構造化」

第2学年での目標がⅡゲームの作戦（相手チームに対応した攻防）なので、個人技能よりも集団としての技能・作戦に重点を置いた流れになる。チーム作り、役割、集団としての技能の活動を通して見えてきた課題について〈話し合い→実践→反省〉取り組ませたい。この考えをもとに構造化を行った。

観点 時間	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
1 }				
2 }				④個：特性に触れ、運動の学び方、楽しみ方、深め方を理解することができる。
3 }	⑨個：チーム内で声をかけたり、励まし合いながら、練習やゲームを楽しもうとする。	⑥個：より正確なプレーができるように練習を工夫することができる 集：協力して練習や作戦の工夫ができ、資料の活用できる。		集：個々の能力を活かしたチームの作り方を理解することができる。
5 }	個：協力して、用具の準備や後片付けをしようとする。			
6 }		⑭個：毎時の反省をいかすことができる。 集：チーム内でアイデアを出し合い、次のゲームに生かすことができる。	⑮個：身につけた技能をゲームにいかすことができる。 集：チームの能力を生かした作戦でゲームができる	
8 }				⑯個：チームの能力を生かす作戦の立て方理解することができる。 個：リーグ戦の運営や進め方を理解することができる。
9 }				
12	①個：特性に興味・関心を持ち進んで運動を楽しもうとする。 個：グループのねらいを持ち、工夫して練習をしようとする。			⑫個：ゲームの進め方を理解することができる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

3年

1 教科目標

心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 体育分野の目標

- (1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。
- (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子をを整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
- (3) 運動における競争や共同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

3 単元(題材名): 領域 陸上競技

内容 ハードル走(副教材:ワンダフルスポーツ)

第3学年 男子

4 陸上競技の目標

自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や競技の仕方を工夫し、技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。

5 陸上競技(ハードル走)の評価目標[評価規準]

- (1) ハードル走の特性を理解し、楽しさや喜びを味わい、競争や記録への挑戦に対して全力で活動し、頑張り通そうとする。

【運動への関心・意欲・態度】

【評価方法:活動観察,学習カード】…ルーブリック参照

- (2) 自己の現在の技能や走力を理解し、その力をより向上させるために、適切な目標と目標達成のための課題を設定できるとともに、問題解決のために効果的な練習の仕方を工夫することができる。

【運動についての思考・判断】

【評価方法:学習カード】…ルーブリック参照

- (3) 自己の技能や走力に応じて、滑らかなハードリングとインターバルのリズミカルな走り方を身につけ、競技したり、記録を高めたりすることができる。

【運動の技能】

【評価方法:活動観察,実技テスト】…ルーブリック参照

7 ルーブリック

⑨チーム内で声をかけたり、励まし合いながら、練習やゲームを楽しもうとする。

(A) 仲間と協力し、自己(チーム)の技能向上を目的として全力で取り組み、本時の活動内容を振り返り、反省や課題を理解し、次時の取り組みや計画を学習カードに記述できる。

(B) 仲間と協力し、自己(チーム)の技能向上を目的として取り組み、本時の活動内容を振り返り反省や次時の取り組みを学習カードに記述できる。

(C) 球技を取り組むことはできるが、学習カードに反省を記述するにとどまり、技能向上させるための振り返りができない。

⑩個：より正確なプレーができるように練習を工夫することができる。

集：協力して練習や作戦の工夫ができ、資料の活用できる。

(A) 自己(チーム)の課題を明確にでき、その解決へ向けて計画的に活動内容や練習を立案・工夫することができ、意見が出せる。それらを実践することができる。

(B) 自己(チーム)の課題を発見し、活動内容や練習を立案することができる。

(C) 活動内容や練習を立案することができるが、自己(チーム)の課題と結びつくことができない。

⑪個：身につけた技能をゲームにいかすことができる。

集：チームの能力を生かした作戦でゲームができる。

(A) 個人技能を身につけ、ゲームに生かせることができる。チーム内での自分の役割を理解し、作戦を立てて動くことができる。チームに指示が出せる。

(B) 個人技能を身につけ、ゲームに生かせることができる。チーム内で動くことができる。

(C) 個人技能を身につけているが、ゲームに生かせることができない。

⑫ゲームの進め方を理解することができる。

⑬リーグ戦の運営や進め方を理解することができる。

(A) 合理的な動き方を理解している。ゲームやリーグ戦の運営や進め方を理解することができる。ルール、審判の方法を正確に理解している。

(B) ゲームやリーグ戦の運営や進め方を概ね理解することができる。ルール、審判の方法を概ね理解している。

(C) ゲームやリーグ戦の運営や進め方の理解が不十分である。ルール、審判の方法の理解が不十分である。

(4)ハードル走の特性、技術の構造、課題解決のための合理的な練習の仕方などを理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につける。

【運動についての知識・理解】

【評価方法：知識テスト、学習カード】…ルーブリック参照

6 陸上競技(ハードル走)評価規準の具体化

陸上競技のハードル走では、『短距離走の速い者が、必ずしもハードル走の記録が高くなるということにはならない』、そのことに生徒が自ら気づくことにより、ハードル走の特性を理解し、楽しさや喜びを味わいながら精一杯活動することができると思う。また、自己の技能や記録を高めていくためには、自己の課題の解決に目を向け、練習の仕方を工夫する必要がある。そうした学習活動を通して、考える力を身につけ、ハードル走について必要な知識を身につけると考え、以下の評価規準を具体的に設定した。

学習内容	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ハードル走	①ハードル走の特性を理解し、自己の記録や技能の向上を目標に活動し、ハードル走の楽しさを味わうことができる。	②自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。	③特定の距離に置かれたハードルを素早く走り越しながら、より速く走ることができる。	④ハードル走の特性を理解し、スムーズでリズムカルなハードリングに必要な知識を身に付ける。
	⑤仲間と協力しながら練習や競技を行うことができる。	⑥自己の課題を抽出し分析し改善すべき点を見つけ出すことができる。	⑦自己の能力に適したハードル走の設定において、記録を上げていくことができる。	⑧自己の能力に応じた課題設定の仕方や練習の仕方が理解できる。
	⑨競争や記録への挑戦に対して全力で取り組み、最後まで努力し続けることができる。	⑩目標記録の向上や課題解決に向けて効果的な練習の仕方を考えることができる。	⑪自己の能力に適したハードルの高さやインターバル、歩数において技能のポイントを身につける。	
	⑫記録の価値を認め、勝敗の結果を受け入れ、仲間の記録の向上や勝利に賞賛を贈ることができる。	⑬活動の中から新たに抽出される課題を分析し、練習や競技の仕方を工夫することができる。	⑭特定の距離の記録が短距離走の記録に近づくように、スタートから踏み切り、踏み切り位置、角度、空中バ	⑮短距離走やハードル走、取り組みのデータを用いて改善すべき点を理解できる。

	⑩体の調子に気を配ることや、競技場の安全を確かめることなど、活動する上で健康や安全に留意して取り組むことができる。		ランス、リズムカルでスムーズなハードリング、着地などの技能のポイントを身に付け、疾走スピードを落とさずに走ることができる。	⑪競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を理解できる。
--	---	--	---	-------------------------------

7 陸上競技(ハードル走)評価規準の精選化

第1学年より自己に応じた課題設定で取り組んできた成果があり、競争意識よりも個々に目標を設定し、記録を向上させていくことに重点を置いて活動している。そのため、今回は全力で記録の向上に取り組むこと、その中で抽出される課題を分析し、改善点を把握し、次の活動の立案をし、解決に向けて取り組む。教え合い、励まし合いながら活動する中で、技能のポイントやルールを理解し、競技を公正、正確にできる力を身に付けていく。単元の中でこのような流れを繰り返す『サイクル』を大切にしたい。この考えをベースに精選化を図った。

学習内容	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ハードル走	①ハードル走の特性を理解し、自己の記録や技能の向上を目標に活動し、ハードル走の楽しさを味わうことができる。	②自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。		④ハードル走の特性を理解し、スムーズでリズムカルなハードリングに必要な知識を身に付ける。
		⑥自己の課題を抽出し分析し改善すべき点を見つけ出すことができる。		
	⑨競争や記録への挑戦に対して全力で取り組み、最後まで努力し続けることができる。		⑩自己の能力に適したハードルの高さやインターバル、歩数において技能のポイントを身につける。	
			⑭特定の距離の記録が短距離走の記録に	

			近づくように、スタートから踏み切り、踏み切り位置、角度、空中バランス、リズムカルでスムーズなハードリング、着地などの技能のポイントを身に付け、疾走スピードを落とさずに走ることができる。	⑩競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を理解できる。
--	--	--	--	-------------------------------

8 陸上競技(ハードル走)評価規準の構造化

興味や関心は、種目の特性を理解し自己の取組に展望が見いだせた時に活動をする態度として表れてくる。技能向上に取り組む活動の中で、課題の抽出→分析→改善点の把握→活動の立案→課題解決の活動、という流れを通して【考える】という深い学習効果が得られる。この流れの中で4観点の学習活動を進めたいと考える。『意欲的な活動→課題の抽出→分析→改善点の把握→活動の立案→課題解決の活動→課題の抽出』、このサイクルを授業の1時間で行い、繰り返していく。単元の全8時間の中でどの時間にどの力を重点としてとらえ、技能の習熟の度合いから効果的に身につけられる力は何かを考えて単元の評価規準の構造化を行った。

観点	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
第1時	①ハードル走の特性を理解し、自己の記録や技能の向上を目標に活動し、ハードル走の楽しさを味わうことができる。			
第2時	⑨競争や記録への挑戦に対して全力で取り組み、最後まで努力し続けることができる。			

第 3 時		②自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。	⑪自己の能力に適したハードルの高さやインターバル、歩数において技能のポイントを身につける。
	第 4 時	⑥自己の課題を抽出し分析し改善すべき点を見つけ出すことができる。	
第 7 時			⑭特定の距離の記録が短距離走の記録に近づくように、スタートから踏み切り、踏み切り位置、角度、空中バランス、リズムカルでスムーズなハードリング、着地などの技能のポイントを身に付け、疾走スピードを落とさずに走ることができる。
	第 8 時	①ハードル走の特性を理解し、自己の記録や技能の向上を目標に活動し、ハードル走の楽しさを味わうことができる。	④ハードル走の特性を理解し、スムーズでリズムカルなハードリングに必要な知識を身に付ける。
			⑰競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を理解できる。

◇ルーブリック

観点1

- 仲間との競争や技能向上を目的に全力で取り組み、次の取り組みに活かせるように活動内容や本時の成果と課題を学習カードに明確に記述できる。 … A 評価
- 仲間との競争や技能向上を目的に取り組み、活動内容や本時の成果などが学習カードに記述できる。 … B 評価
- 陸上競技に取り組むことはできるが、学習カードに活動内容の記述をすることどまり、技能などを向上させるために本時の成果を振り返ることができない。 … C 評価

【学習活動の観察において診断的・形成的に評価し、
学習カードの形成的な評価を重ねて総括的に評価する】

観点2

- 活動を通して自己の現在の技能や力量を理解し、記録や技能の向上を目的として適切な目標記録の設定と段階的な練習を含めた活動内容の立案ができる。 … A 評価
- 自己の技能や力量に応じて目標記録を設定し、練習を取り入れた活動内容の立案ができる。 … B 評価
- 目標記録を設定することはできるが、自己の技能や力量から算出したものでなく、活動内容の立案も記録の計測や競うことにのみに終始し、練習の取り組みを計画することができない。 … C 評価

- 技能や記録の向上を目標に、自己の課題を抽出し、自分なりに分析を行い課題解決を目的として効果的な練習を具体的に学習カードに記述することができる。 … A 評価
- 技能や記録の向上を目標に、自己の課題を抽出し、課題解決を目的として自分の取り組むことを具体的に学習カードに記述することができる。 … B 評価
- 自己の課題を抽出することはできるが、技能や記録の課題を解決をするための取り組みに結びつかないものであり、次時の取り組みを具体的に学習カードに記述することができない。 … C 評価

観点3

- ◆スピードを落とさずにハードルヘアプローチし、低い軌道でまたぎ越すハードリングができる。ハードリングの空中姿勢で振り上げ足を伸ばし、抜き足を胸に引きつけ、上体を前傾し、両手を使いバランスをとることができる。着地において、振り上げ足を素早く振り下ろし、身体の前傾を保ち、次の1歩目を効果的に踏み出すことができる。ハードル間をリズムカルに3歩ないし5歩で走り抜け、次のハードルヘアプローチできる。

○上記の技能を概ね習得し、定められた距離を疾走スピードを失わずにリズムカルにハードルを越えていくことができる。 … A 評価

○上記の技能を部分的に習得し、ハードルに対してスピードを落とさずにアプローチをすることができ、ハードリングからの着地における失速が、次に踏み出す1歩に影響を与えることなく（後傾になり、走るという力学的要素を失うことなく）定められた距離を走りきることができる。 … B 評価

○上記の技能の一部は習得しているが、ハードルへのアプローチにおいて失速し、ハードリングから着地において、走る方向への推進力を失い、走るという要素を維持することができない。 … C 評価

【学習活動の練習や記録の計測を観察し、診断的・形成的に評価し、

全時間を通して形成的な評価を積み重ねて総括的に評価する】

観点4

○ハードルを越えるという動作より、技術的な要素に着眼し、技術の構造

- ・スピードを落とさずにハードルへアプローチし低い軌道でまたぎ越すためには、ハードルに対して、なるべく遠くから踏み切る必要がある。
- ・ハードリングの空中姿勢で振り上げ足を伸ばし、抜き足を胸に引きつけ、上体を前傾させ、両手で進行方向へのバランスをとることで、空中での走方向への推進力を保つことができる。
- ・着地において振り上げ足を素早く振り下ろすことで、着地時の前傾を保ち、次の1歩を強く踏み出すための体軸を作ることができる。
- ・スムーズにハードルを越えれば、ハードル間のインターバルをリズムカルに行い歩幅を工夫することにより次のハードルへのアプローチが有効になる。

を正確に理解し、技能の向上ための取り組みや課題解決のための練習計画において工夫をし、技能向上のための合理的な練習計画を学習カードに具体的に記述することができる。

また、知識テストにおいて上記の事柄や競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を正確に理解し、解答することができる。 … A 評価

○ハードルを越えるという動作より、技術的な要素に着眼し、技術の構造

- ・スピードを落とさずにハードルへアプローチし低い軌道でまたぎ越すためには、ハードルに対して、なるべく遠くから踏み切る必要がある。
- ・ハードリングの空中姿勢で振り上げ足を伸ばし、抜き足を胸に引きつけ、上体を前傾させ、両手で進行方向へのバランスをとることで、空中での走方向への推進力を保つことができる。
- ・着地において振り上げ足を素早く振り下ろすことで、着地時の前傾を保ち、次の1歩を強く踏み出すための体軸を作ることができる。

・スムーズにハードルを越えれば、ハードル間のインターバルをリズムカルに行い歩幅を工夫することにより次のハードルへのアプローチが有効になる。

を部分的に理解し、技能の向上ための取り組み計画を学習カードに記述することができる。また、知識テストにおいて上記の事柄や競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を概ね理解し、解答することができる。 … B 評価

○ハードルの技術的な要素に着眼することができず、技術の構造

・スピードを落とさずにハードルへアプローチし低い軌道でまたぎ越すためには、ハードルに対して、なるべく遠くから踏み切る必要がある。
・ハードリングの空中姿勢で振り上げ足を伸ばし、抜き足を胸に引きつけ、上体を前傾させ、両手で進行方向へのバランスをとることで、空中での走方向への推進力を保つことができる。
・着地において振り上げ足を素早く振り下ろすことで、着地時の前傾を保ち、次の1歩を強く踏み出すための体軸を作ることができる。
・スムーズにハードルを越えれば、ハードル間のインターバルをリズムカルに行い歩幅を工夫することにより次のハードルへのアプローチが有効になる。

の理解が不十分であるため、技能に即した自己の課題の抽出ができない。そのため学習カードへの記述が現象的なことにとどまり、合理的な練習計画が立案できない。また、知識テストにおいて上記の事柄や競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方に対する理解が不十分で、活動に必要な知識を解答することができない。 … C 評価

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

技術・家庭科

1年

1 教科目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

2 家庭分野目標

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

3 題材名

1年 これでも衣服名人 (A(3)衣服の選択と手入れ)

上手な服の扱いをマスターしよう(A(3)イ計画的な活用を考え、適切な選択ができる)
(東京書籍, 新しい技術・家庭 家庭分野)

4 題材目標

衣服を適切に購入するために、品質表示や縫製などの品質を確かめるとよいことがわかる。
手持ちの衣服の計画的な活用についての意見交流を通して、実生活で実践できるような工夫が考えられる。

5 題材の評価目標

(1) 自分の衣服を計画的に活用するための方法を考えようとしている。

[生活や技術への関心・意欲・態度]

【評価方法：観察, 学習プリント】

(2) 手持ちの衣服の有効活用について自分にできる工夫を考える。

[生活を工夫し創造する力]

【評価方法：学習プリント】

(3) 既製服の表示を読み取り、衣服選択のポイントがまとめられる。

[生活の技能]

【評価方法：学習プリント, ペーパーテスト】

(4) 衣服の選択, 購入, 活用, 廃棄について基礎的な知識を身に付けている。

[生活や技術についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

内容のまとめり（A生活の自立と衣食住）項目で、題材（3）衣服の選択と手入れにおいて日常の衣服を整えることができるようにするためには、衣服の選択・着用・手入れに関して基礎的な知識を踏まえた上で、技術の習得が目指されなくてはならない。

今回、A(3)イ「計画的な活用を考え、適切な選択ができる」の評価規準を考えるにあたり、具体的な活動を取り入れた学習を進める中で、生徒が自分の生活で実践できるようになり、自分の生活に対する関心を深めたり生活の自立を図るといった教科目標に到達できると考える。

また、(B(4)家庭生活と消費)項目との関連を図った題材を設定することにより、より身近なとらえ方ができると思われる。消費者としての自分の衣生活を考え、商品情報の活用のしかたや消費生活での環境への配慮に目を向けさせたい。

そして、自分の生活に生かす力が身に付いたかどうかを判断するために、「衣服の効果的な活用について考えた内容を伝えたり、また他の人のよいところを見つけたりできるかどうか」で確認しようと考えた。

学習内容	生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し 創造する力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
(A(3)イ・ B(4)アイ 衣服の活用) 上手な 服の扱 いをマ スタ ーし よう	①自分の生活を振り返り、TPOや好み以外に動きやすさ、洗濯のしやすさなどを考えて自分の衣服を活用しようとしている。		②サイズ、着心地、手入れなどの品質面や販売方法による特徴など衣服選びや購入についての必要な情報を収集整理できる。	③衣服の選択、購入にあたって、店舗販売などのさまざまな販売方法の特徴を知る。 ・既製服の表示の意味がわかり、縫製の良否や手入れのしやすさなどの留意事項についても理解している。
	⑤自分の衣生活を振り返り、洗濯洗剤や無駄のない着回しなど環境とのかかわりに関心を持っている。	⑥手持ちの衣服を点検し、選択、購入、活用、廃棄などさまざまな点から環境に配慮した衣生活について工夫を述べている。	④既製服の表示を読み取り、品質を確かめるための衣服選択のポイントがまとめられる。	・衣服の選択、購入、活用、廃棄に関する基礎的な知識を身につけている。
	⑦手持ちの衣服との調和や小物の利用など、衣服の計画的な活用に関心を持って班活動に取り組んでいる。	⑧手持ちの衣服の組み合わせや再利用など衣服を無駄なく活用するために収納整理再利用の面での工夫を考えている。	⑨発表を聞いて、TPOや季節に合わせた衣服の活用、上手な収納や整理などについて相互評価・意見交流ができる。	

(2)「精選化」

衣服の活用については、内容のアやウとの関連を図る。TPOや自分らしい着方の学習を振り返ったり、自分の衣服の洗濯のしやすさをイメージしたり、具体的な生活の場面を想定して考えさせるようにする。具体的に考えることで自分の衣生活をよりよくしようという意欲を引き出していけると考え、①を選ぶことにした。

そして、衣服の活用に必要なさまざまな知識をベースにして生活をよりよくしていくことができると考え、③を選んだ。また、生徒が普段着用する衣服は既製服がほとんどを占めていることでもあり、品質表示を読み取る力をつけるために④を生活の技能の観点で選び出した。

しかし、学習後の生徒たちは知識や技能として持っている事柄を自分の生活には生かさず、相変わらず家族任せの様子がうかがえる。そこで、生徒が身近な課題としてとらえ、実生活ですぐに実践できることが大切であるので、衣服整理の部分について考え、話し合い、伝え合う活動を取り入れた。このように、衣服の効果的な活用について自分の生活で実践していくための工夫を考えることに重点を置きたいので、⑧の評価規準「手持ちの衣服の組み合わせや再利用など衣服を無駄なく活用するために収納整理の面での工夫を考える」を選んだ。

学習内容	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
(A(3)イ・B(4)アイ 衣服の活用) 上手な服の扱いをマスターしよう	①自分の生活を振り返り、TPOや好み以外に動きやすさ、洗濯のしやすさなどを考えて自分の衣服を活用しようとしている。		②	③衣服の選択、購入にあたって、店舗販売などのさまざまな販売方法の特徴を知る。 ・既製服の表示の意味がわかり、縫製の良否や手入れのしやすさなどの留意事項についても理解している。 ・衣服の選択、購入、活用、廃棄に関する基礎的な知識を身につけている。
	⑤	⑥	④既製服の表示を読み取り、品質を確認するための衣服選択のポイントがまとめられる。	
	⑦	⑧手持ちの衣服の組み合わせや再利用など衣服を無駄なく活用するために収納整理再利用の面での工夫を考えている。	⑨	

(3) 構造化

この題材の目標である「日常着の計画的な活用を考え、適切な選択ができること」は2つの要素から成り立つと考えられる。つまり、「日常着の計画的な活用を考える」「適切な選択ができる」である。

計画的な活用とは、幅広い内容を含み、例えば手持ちの衣服の組み合わせ、必要性を考えた購入、衣服選択、適切な手入れなどA(3)ア、ウの内容やB(4)ア、イの内容をも包括的にとらえることができる。効果的な衣服活用の学習は、基礎的な知識がもととなり実生活へ広がっていくと考えられるので、前半は「適切な選択ができること」を目標として③の部分を中心に授業が組み立てられる。それらの知識や技能の上に、後半部分である「日常着の計画的な活用を考える」を目標に授業を進める。生徒たちが自分の衣生活に対する関心を常に頭に置きながら⑧である「考え、話し合い、伝え、まとめる」活動を通し、工夫する力を確認していく。このように衣生活における実践を目指した組み立てを考えて評価規準の構造化を行った。

題材名	上手な服の扱いをマスターしよう (A(3)衣服の選択と手入れ イ)			
指導目標	衣服を適切に購入するために、衣服の品質表示や縫製などの品質を確かめるとよいことがわかる。 手持ちの衣服の計画的な活用についての意見交流を通して、実生活で実践できる工夫が考えられる。			
観点	生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し 創造する力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
第1時 ～ 2時	①自分の生活を振り返り、TPOや好み以外に動きやすさ、洗濯のしやすさなどを考えて自分の衣服を活用しようとしている。		④既製服の表示を読み取り、品質を確かめるための衣服選択のポイントがまとめられる。	③衣服の選択、購入にあたって、店舗販売などのさまざまな販売方法の特徴を知る。 ・既製服の表示の意味がわかり、縫製の良否や手入れのしやすさなどの留意事項についても理解している。 ・衣服の選択、購入、活用、廃棄に関する基礎的な知識を身につけている。
第3時 ～ 5時		⑧手持ちの衣服の組み合わせや再利用など衣服を無駄なく活用するために収納整理再利用の面での工夫を考えている。		

7 ルーブリック

	<p>⑧手持ちの衣服の有効活用について自分にできる工夫を考える。 「生活を工夫し創造する力」</p>	
	衣服の選択	収納整理のしかた
A	<p>今自分に必要な衣服を考えるだけでなく、自分に必要な衣服の有無について必要な理由をはっきり記入し、選択するときのポイントをB以上の項目をあげている。</p>	<p>手持ちの衣服を分類するしかたについて引き出しの工夫だけでなく、収納場所全体の工夫が書け、無駄のない着回しや死蔵衣類の活用にも具体的な工夫の理由を記入している。</p>
B	<p>手持ちの衣服を点検し、今自分に必要な衣服は何かを考え、その衣服を選択するポイント（手持ちの衣服の組み合わせ・着心地・手入れのしやすさ）を述べている。</p>	<p>手持ちの衣服を季節ごと、上衣・下衣ごと、種類ごとに分類し、取り出しやすく収納する工夫について具体的に記入している。</p>
C	<p>手持ちの衣服の点検が不十分で、自分が衣服を選択するポイントが具体的でない。</p>	<p>自分の今までの収納のよい点や工夫の必要な点について、他の人から出た内容を記入するにとどまる。</p>

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

技術・家庭科

2年

1 教科目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

技術分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

2 単元（題材）名

2年〔「A 技術とものづくり」 「(2) 製作品の設計ア・イウ」〕

東京書籍 新しい技術・家庭 技術分野

3 単元目標

ア 使用目的や使用条件に即した製作品の機能と構造について考えること。

イ 製作品に用いる材料の特徴と利用方法を知ること。

ウ 製作品の構想の表示方法を知り、製作に必要な図をかくことができる。

4 単元（題材）の評価目標

(1) 身に回りの製品の機能や構造の違いを調べようとしている。

〔生活や技術への関心・意欲・態度〕

【評価方法； 授業中の発表・学習プリント】

(2) 材料の特徴を生かして、製作品に用いるために工夫している。

〔生活を工夫し創造する能力〕

【評価方法； 授業中の発表・学習プリント】

(3) 立体を、等角図またはキャビネット図によって表示することができる。

〔生活の技能〕

【評価方法； 机間巡視及び作品】

(4) 製作品の設計に必要な手順に関する知識を身に付けている。

〔生活や技術についての知識・理解〕

【評価方法； 学習プリント・ペーパーテスト】

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

〔具体化〕

店へ行けば売っている、あるいはインターネット上で購入できる、というような現代社会の中で、生徒達も自分でものを作るといった経験がめっきり減少したように思われる。教科でも情報教育が進む中、ものづくりの学習時間が減り、3年間を通して半分以下になっている。

本単元の「技術とものづくり」では、ものをつくるだけではなく、ものと生活との関わり、ものをつくるための道具、その道具に関わる工夫など、先人の知恵にもふれさせ、学んだ技術や知識を生活に役立てられるように指導したい。

本題材の「製作品の設計」では、身の回りの製品の機能・構造・材料について焦点を当てて学習する。

その製品は何のために使うのか、じょうぶにできているか、また、なぜその材料で作られているのか等を知ること、自分の作りたい物を設計するときの参考になるのではと考える。そして立体をを図で表す方法を知ること、より具体的形を持った製作設計につなげていきたい。よって評価規準を具体的に設定する。

学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
「A 技術とものづ くり(2)」 「製作品の設計」	①身に回りの製品の機能や構造の違いを調べようとしている。	②製作品の使用目的にあわせて機能を工夫している。		③製作品の使用目的と機能について理解している。
	④身に回りの製品に使われている材料の特徴を調べようとしている。	⑤製作品の使用目的にあわせて構造を工夫している。	⑥製作品の使用目的に適した材料を選択することができる。	⑦製作品の構造をじょうぶにする方法と接合方法に関する知識を身に付けている。
	⑧製作したいものを意欲的に考え目的とするものの機能や構造を工夫しようとしている。	⑨材料の特徴を生かして製作品に用いるために工夫している。		⑩製作品に用いる材料の特徴と利用方法に関する知識を身に付けている。
		⑪自ら構想したものの形を図で表すために工夫している。	⑫立体を等角図またはキャビネット図によって表示することができる。	⑬製作品の設計に必要な手順に関する知識を身に付けている。

〔精選化〕

ものづくりの基本は、使用目的や使用条件（どこで・誰が・何のために使うか）を考えて、設計していくのが大切なことである。そこで、自分が製作していく上で目的が達成できる作品を完成させるために、機能・構造・材料の工夫や特徴を考え、図で表すことで立体的に物事を考える力を養い、製作品の設計に必要な手順を理解させるため、次のように評価規準の精選化を計った。

学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
「A 技術とものづ くり（２）」 「製作品の設計」	①身に回りの製品 の機能や構造の 違いを調べよう としている。			
		⑨材料の特徴を生 かして製作品に 用いるために工 夫している		
			⑫立体を等角図ま たはキャビネット 図によって表示す ることができる。	⑬製作品の設計に必 要な手順に関する 知識を身に付けて いる。

〔構造化〕

ものづくりでは、まず何を製作するかを明確にしなければならない。それはどこで、誰が、何のために使用するのかをはっきりし、そのために使いやすさ、丈夫さなどを工夫し、それに合った材料を選択することである。よって①、⑨の部分をもまず学習し、具体的な形に表すために⑫に進みむ。そしてもう一度①、⑨に戻り目的としたものに適しているか確認する。

最終的には製作へと向かうわけであるが、この単元では⑬の製作品の設計に必要な手順に関する知識を身に付けることにある。

単元名	「A 技術とものづくり（２）」 「製作品の設計」			
指導目標	ア 使用目的や使用条件に即した製作品の機能と構造について考えること。 イ 製作品に用いる材料の特徴と利用方法を知ること。 ウ 製作品の構想の表示方法を知り、製作に必要な図をかくことができる。			
観点	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
第 1 時 ～ 4 時	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>①身に回りの製品の機能や構造の違いを調べようとしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>⑨材料の特徴を生かして製作品に用いるために工夫している</p> </div> </div>			
第 5 時 ～ 8 時	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>⑫立体を等角図またはキャビネット図によって表示することができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>⑬製作品の設計に必要な手順に関する知識を身に付けている。</p> </div> </div>			

6 ルーブリック

- 1 身の回りの製品について特徴を考えることができる。
- 2 身の回りの製品について特徴を考え、発表することができる。
- 3 身の回りの製品について特徴を理解し、また、形を図で表すことができる。
- 4 身の回りの製品について特徴を理解し、自分が製作しようとするものを図に表し、製作に向かうことができる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英語科

1年

1. 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 単元名

1年 Unit6 南半球からのメール (東京書籍 New Horizon)

3. 単元目標

三人称単数現在形を理解し、主語が三人称のときの肯定文、疑問文とその応答、否定文を運用できるようにする。

4. 単元の評価目標

- (1) 友達や家族のすること、しないことについて、積極的に話したり、級友の話を知ろうとする。また、関連したことを英語で質問しようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：人物紹介スピーチ、スピーチ記録表、ペーパーテスト】

- (2) 友達や家族について、紹介する文を書くことができ、みんなの前で発表できる。また、関連したことを英語で質問することができる。

[表現の能力]

【評価方法：人物紹介スピーチ、スピーチ原稿、ペーパーテスト】

- (3) ある人物について紹介された文を、聞いたり読んだりして、その内容を理解できる。

[理解の能力]

【評価方法：スピーチ記録表、ペーパーテスト】

- (4) 三人称単数現在形を理解し、使って文を作れる。

[言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標は、三人称単数現在形の用法を理解することである。日本語に、人称によって動詞の形が変化するという現象がないことから、生徒にとっては、英語理解の壁となりうる場所である。一人称、二人称との違いを意識させながら、三人称という概念に慣れさせ、正しく使い分けて、他己紹介ができ、ほかの人の他己紹介の内容を理解し、また、質問ができるようにすることを目標にしたいと考え、以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
三人称単数現在形の用法	①友達や家族についての話を、たとえわからない部分があっても、わかろうと努力しながら、積極的に聞き取ろうとする。		②友達や家族についての話を聞いて、その内容が理解できる。	③三人称単数現在形を理解して、相手の述べる他己紹介を聞き取れる。
	④友達や家族のすることやしないことについて、間違うことを恐れず積極的に話そうとする。 ・友達や家族について、関心を持って質問しようとする。	⑤友達や家族のすることやしないことについて、英語で話すことができる。 ・友達や家族のすることやしないことについて、英語で尋ねることができる。 ・友達や家族のすることやしないことについて、尋ねられたことに、正しく答えることができる。		⑥三人称単数現在形を理解して、第三者のことについて、正しく述べられる。 ・三人称単数現在形を理解して、相手に尋ねたり、答えたりできる。
	⑦友達や家族について書かれた文を積極的に読み取ろうとする。	⑧友達や家族について書かれた文を、正しい発音、イントネーションで読むことができる。	⑨友達や家族について書かれた文の内容を読み取ることができる。	⑩三人称単数現在形を理解して、友達や家族について書かれた文を読める。
	⑪友達や家族の紹介を、間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫友達や家族の紹介を、英語で書くことができる。		⑬三人称単数現在形を理解して、友達や家族の紹介を書くことができる。

(2)「精選化」

ここで目指しているのは、第三者（家族や、友達）について、まとめて発表できるようになることである。そのためには、三人称単数現在形を理解して、正しく運用できるようになることが必要である。単元目標の、「三人称単数現在形を理解し、主語が三人称のときの肯定文、疑問文とその応答、否定文を運用できるようにする。」を踏まえて、②「理解の能力」③⑥⑩⑬「言語や文化についての知識・理解」④「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」⑤⑫「表現の能力」の8つの「評価規準」を取り上げることにする。

観点「言語や文化についての知識・理解」における③⑥⑩⑬の4つの評価規準は、情報を表現したり、正しく受け取るために必要な基本の形であるため、全ての生徒に身につけさせる力で

あり、生徒一人ひとりが、目標とするべきものとする。

実際の生活の場面においては、自分と相手以外の「誰がどうする」のかを正しく聞いて理解すること、また、その情報を第三者に正しく伝える力が、日常のコミュニケーションの基礎となると考える。

そこで、観点「理解の能力」の②の評価規準である「友達や家族についての話を聞いて、その内容が理解できる」と観点「表現の能力」の⑫の「友達や家族の紹介を、英語で書くことができる」、⑤の3つのうちのひとつ、「友達や家族のすることやしないことについて、英語で話すことができる」ことを念頭において、授業を組み立てる必要があると考える。⑫では、観点「言語や文化についての知識・理解」の評価規準の実現状況を確認することもできる。

第三者のことが話題にできることで、飛躍的に情報の中身が増えるこの単元をとおして、伝えようとする意欲を育てることに重点をおきたいと考えるので、観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の④を選択した。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
三人称単数現在形の用法	①		②友達や家族についての話を聞いて、その内容が理解できる。	③三人称単数現在形を理解して、相手の述べる他己紹介を聞き取れる。
	④友達や家族のすることやしないことについて、間違えることを恐れず積極的に話そうとする。 ・友達や家族について、関心を持って質問しようとする。	⑤友達や家族のすることやしないことについて、英語で話すことができる。		⑥三人称単数現在形を理解して、第三者のことについて、正しく述べられる。 ・三人称単数現在形を理解して、相手に尋ねたり、答えたりできる。
	⑦	⑧	⑨	⑩三人称単数現在形を理解して、友達や家族について書かれた文を読める。
	⑪	⑫友達や家族の紹介を、英語で書くことができる。		⑬三人称単数現在形を理解して、友達や家族の紹介を書くことができる。

(3) 「構造化」

単元目標から考えて、三単元の 's' を理解することが、最初の段階であることから、数時間は、このルールを理解することに力を注ぐべきと考える。理解が進んでくれば、「運用すること」に授業の重点を移していく。新しく学習したことを使って、自分の表現したいことを、書いたり話したりする学習活動に進んでいく。最終的には、書いた原稿を、発表する、また、旧友の発表を聞いて理解する、という形で、三人称単数現在形を正しく理解しているかを、確認する。

単元名	1年 Unit6 南半球からのメール			
指導目標	三人称単数現在形を理解し、主語が三人称のときの肯定文、疑問文とその応答否定文を運用できるようにする。			
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
第1時～4時			②友達や家族についての話を聞いて、その内容が理解できる。	③三人称単数現在形を理解して、相手の述べる他己紹介を聞き取れる。 ⑥三人称単数現在形を理解して、第三者のことについて、正しく述べられる。 ・三人称単数現在形を理解して、相手に尋ねたり、答えたりできる。
第5時～10時	④友達や家族のすることやしないことについて、間違うことを恐れず積極的に話そうとする。 ・友達や家族について、関心を持って質問しようとする。	⑤友達や家族のすることやしないことについて、英語で話すことができる。	⑦友達や家族の紹介を、英語で書くことができる。	⑩三人称単数現在形を理解して、友達や家族について書かれた文を読める。 ⑬三人称単数現在形を理解して、友達や家族の紹介を書くことができる。

6. ルーブリック

⑫⑬三人称単数現在形を理解して、友達や家族の紹介を書くことができる。	
A	自分の友達や家族について、まとまりのある内容が、学習した文型や動詞、表現などを使って、15文以上、書くことができる。
B	自分の友達や家族について、まとまりのある内容が、学習した文型や動詞、表現などを使って、8文以上、書くことができる。
C	自分の友達や家族について、教科書のp50の本文にならって、書こうとしている。
D	自分の友達や家族について、1～2文しか書けない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

2年

1 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2 単元名

2年 Unit 5 A Park or a Parking Area? (東京書籍 NEW HORIZON)

3 単元目標

if節, that節, when節, because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
あるトピックスに対して、賛成か反対かなど自分の考えや意見を理由もふくめて発表できる。

4 単元(題材)の評価目標

(1) 学習した接続詞を使って自分の考えや意見を深めようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：My Opinionの発表, コメントカード】

(2) 自分の考えや意見を学習した接続詞を使いながら、発表できる。 [表現の能力]

【評価方法：My Opinionの発表】

(3) 人の考えや意見を聞いたり、読んだりしてその内容を理解する。 [理解の能力]

【評価方法：聞きとりテスト, コメントカード】

(4) if, that, when, becauseの意味と使い方を知る。 [言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標は、接続詞 (if, that, when, because.) の用法を理解することである。しかし、これらの接続詞の持つ意味や用法そのものは生徒にとってそれほど難しいものではない。むしろ大切なことは、これらの接続詞を実際に使うことによって、表現活動に広がりが出るということであると考えられる。つまり、理由を述べたり、否定をしたり、文をつなげる工夫をしたり、関連した事柄を表現し、話題を発展させたりすることができるということである。そして、自分の意見や考えを論理的に述べるのが可能になってくる。

題材も、町の身近な話題をまとめた新聞記事とそれに対する意見を読むというものなので、このタイミングで自分の考え、意見をきちんとまとめて英語で表現する力を育てることをもう一つの目標にしたいと考え、以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
接続詞 (if, that, when, because,)	①相手の述べる意見や感想などをしっかりと聞き取ろうとしている。		②相手の述べる意見や感想などを聞いて、その内容が理解できる。	③接続詞の意味や用法を理解して、相手の述べる意見や感想などを聞き取れる。
	④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。	⑤自分の意見や考えをまとめて英語で述べることができる。		⑥接続詞の意味や用法を理解して、自分の意見や感想、考えを正しく述べられる。
	⑦他人の意見や新聞記事の内容などを積極的に読みとろうとしている。	⑧他人の意見や新聞記事の内容を考えながら、正しい発音、適したイントネーションで読むことができる。	⑨他人の意見や新聞記事などの内容を読み、ポイントを読みとることができる。(教科書の本文の内容を理解できる。)	⑩接続詞の意味や用法を理解して、他人の意見や新聞記事の内容などを文の構成などにも気をつけて読める。
	⑪自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に書こうとしている。	⑫自分の意見や考えをまとめて英語で書くことができる。		⑬接続詞の意味や用法を理解して、自分の意見や感想などを書くことができる。

(2) 「精選化」

ここで目指しているのは、あるテーマに対して自分の意見（賛成、反対）を理由を付けてきちんとまとめて発表できるようになることである。そのためには、それぞれの接続詞の持つ意味、働き、用法などを理解して、正しい文脈で使えるようになることがまず必要である。そこで、接続詞を使って、身近な、短い文を自分で作ることによって使い方に慣れていくことが肝要と考え、⑬の評価規準を選んでいる。

さらに自分の考えをまとめるためには、ある程度その見本となる意見文を実際に読むことを通して、内容とともに、文の組立など、具体的に学ぶ必要があると考え、⑨の評価規準を選び出している。

そして、「自分の意見をまとめて発表できる」という目標のことを考えると、評価規準の①④⑤については実際には一つの力と判断しても良いと考えている。なぜなら、自分の意見を述べて自分のことを理解してもらうためには、相手のことを理解し、意見をしっかり聞く態度を養うことも大切なことであり、またそうでないと、本当の意味での実践的なコミュニケーションの能力が身に付いたと言えないと思うからである。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
接続詞（if, that, when, because,）	①相手の述べる意見や感想などをしっかりと聞き取ろうとしている。			
	④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。	⑤自分の意見や考えをまとめて英語で述べることができる。		
			⑨他人の意見や新聞記事などの内容を読み、ポイントを読みとることができる。（教科書の本文の内容を理解できる。）	
				⑬接続詞の意味や用法を理解して、自分の意見や感想などを書くことができる。

(3) 「構造化」

自己表現の力が伸びていることがこの単元を終えての目標なので、授業の大きな流れは評価規準の精選化の段階で考えたことがそのまま実際の流れになる。

具体的には、接続詞について学習する、教科書の本文を読みとる、その本文で学んだ意見文のスタイルをベースに、トピックスにしたがって自分の意見をまとめ、発表する、ということになる。

単元名	Unit 5 A Park or a Parking Area?			
指導目標	if 節, that 節, when 節, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 あるトピックスに対して、賛成か反対かその理由をまとめて発表できる。			
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
第1時 ～ 第5時				⑬接続詞の意味や用法を理解して、自分の意見や感想などを書くことができる。
				⑩他人の意見や新聞記事などの内容を読み、ポイントを読みとることができる。(教科書の本文の内容を理解できる。)
第6時 ～ 第9時	④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。「話す」(関心・意欲・態度) ⑤自分の意見や考えをまとめて英語で述べることができる。「話す」(表現の能力) ①相手の述べる意見や感想などをしっかりと聞き取ろうとしている。「聞く」(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)			

6 ルーブリック

④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。「話す」(関心・意欲・態度)	
⑤自分の意見や考えをまとめて英語で述べるができる。「話す」(表現の能力)	
4	トピックスに対する自分の考えを複数の理由を具体例を挙げながら論理的にまとめて意見を述べている。
3	トピックスに対する自分の考えを具体例をあげながらその理由を述べている。
2	トピックスに対して賛成か反対かを述べ、その理由を1文を付け加えて述べている。
1	トピックスに対して賛成か、反対かなど自分の感想や考え、意見を一言で述べている。

①相手の述べる意見や感想などをしっかりと聞き取ろうとしている。「聞く」(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	
3	スピーチに対して日本語をまじえながらも自分の意見が書ける。
2	スピーチに対して Yes, No.程度の反応が書ける。
1	全く何もコメントが書けない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英語科

2年

1・教科目標：外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション力の基礎を養う。

2・単元名：2年 Unit4 Homestay in the United States (東京書籍 NEW HORIZON)

3・単元目標：① have to~,will,must を用いた文の形・意味を理解し、表現できる
②身の回りで禁止されている事項、許可されている事項を英語にして発表できる。(日本で生活する上で)
③自分の生活習慣などを簡単な英文にして表現できる。

4・単元の評価目標

(1)学習した助動詞などを使って、生活上のルールやを伝えようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：スピーチ】

(2)生活上のルールや習慣などを、学習した事項を使いながら発表できる。

[表現の能力]

【評価方法：スピーチ】

(3)人の発表を聞いてその内容を理解する。

[理解の能力]

【評価方法：聞き取りテスト、ペーパーテスト】

(4)have to~,will,must の意味と使い方を知る。 [言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5・「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

この単元の指導目標は、許可・禁止の表現と未来の助動詞の用法を理解することである。許可・禁止については学校生活や家庭で日常的に生徒に対して行われているものであり、なじみやすい表現である。未来も1学期に be going to~を学んでおり、理解しやすいものであると思われる。これらの表現を実際を使って、コミュニケーション活動に広がりを持たせるのが重要であり、許可・禁止の表現であれば社会生活上のルールやマナーについての表現に発展させたり、未来の表現であれば自分の未来像にまで思いをはせるところまで発展させることが可能である。

教科書における場面設定は、日本の生徒がアメリカにホームステイしているというもので、アメリカと日本の生活習慣の違いが生徒の興味をひくと思われる。単元目標の②、③を付け加えて、以下の評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
have to will must	①相手の述べる生活習慣などをしっかり聞き取ろうとしている。		②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。	③許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、相手の述べる内容を聞き取れる。
	④自分の身の回りのことなどを積極的に述べようとしている。	⑤自分の身の回りのことなどを英語で述べることができる。		⑥許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、正しく述べられる。
	⑦自分の身の回りのことなどや未来像を積極的に書こうとしている。	⑧自分の身の回りのことなどや未来像を英語で書くことができる。		⑨許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、正しく書くことができる。

(2)「精選化」

目標を実現させるために、用法を正しく理解して英文を作成することが必要になるので

⑨を選んだ。

発表ができるようになるために、①④⑤を選んだ。

相手の生活習慣や未来像を聞き取れるているかを判断するために、②を選んだ。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
have to will must	①相手の述べる生活 習慣などをしっかり 聞き取ろうとしている。		②相手の述べる内容 を聞いて、理解でき る。	
	④自分の身の回りの ことなどや未来像を 積極的に述べようと している。	⑤自分の身の回りの ことなどや未来像を 英語で述べることが できる。		
				⑨許可・禁止の用法、 未来の助動詞の用法 を理解して、正しく 書くことができる。

(3)「構造化」

授業の流れは教科書の本文内容を読み取った上で、以下の形で進める。

<p>単元名</p>	<p>Unit4 Homestay in the United States</p>			
<p>指導目標</p>	<p>have to~,will,must を用いた文の形・意味を理解し、表現できる 身の回りで禁止されている事項、許可されている事項を英語にして発表できる。 自分の生活習慣などを簡単な英文にして表現できる。</p>			
<p>学習内容</p>	<p>コミュニケーションへの 関心・意欲・態度</p>	<p>表現の能力</p>	<p>理解の能力</p>	<p>言語や文化についての 知識・理解</p>
<p>have to will must</p>	<p>①相手の述べる生活習慣や身の回りのことなどをしっかり聞き取ろうとしている。 ④自分の身の回りのことなどを積極的に述べようとしている。</p> <p>②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。</p> <p>③相手の述べる生活習慣や身の回りのことなどを英語で述べることができる。</p> <p>⑥許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、正しく書くことができる。</p>			

6・ループリック

④自分の身の回りのことなどを積極的に述べようとしている。		
A	4	自分の身の回りのことなどをわかりやすく、その理由や利点までも含んで述べるができる。
B	3	自分の身の回りのことなどを理由をつけて、わかりやすく述べるができる。
C	2	自分の身の回りのことなどだけを述べる。
	1	何をしたいのか、どんな生活上のルールがあるのかわからない。

⑨許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、正しく書くことができる。		
A	4	自分の生活上のルールやを、学習した用法を使って書き、その理由や利点を整合性をもって書こうとしている。
B	3	自分の生活上のルールやを、学習した用法を使って書き、わかりやすく理由が説明できる。
C	2	自分の生活上のルールやを、学習した用法を使って書くことができる。
	1	自分の生活上のルールやを書くことができない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

3年

1 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2 単元名

3年 Unit 5 Video Games For or Against ? (東京書籍：New Horison 3)

3 単元目標

現在分詞、過去分詞の形容詞的用法を用いた文の形・意味を理解し、表現できる。間接疑問文の形・意味を理解し、表現できる。提示された話題について、自分なりの考えをもつことができる。各々の意見の内容や論点を正確に読み取り、自分の意見を表現できる。

4 単元の評価目標

3の目標を観点別の評価目標におきかえるとともに評価目標を考えてみた。

(1) 学習した分詞の形容詞的用法や、間接疑問文を使って自分の考えや意見を深めようとする。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

(評価方法：議論に参加しようの発表・私の意見の発表)

(2) 自分の考えや意見を学習した分詞や間接疑問を使いながら、発表できる。

「表現の能力」

(評価方法：議論に参加しようの発表)

(3) 人の考えや意見を聞いたり、読んだりしてその内容を理解する。

「理解の能力」

(評価方法：聞き取りテスト、プラススピーチ、ペーパーテスト)

(4) この単元で学習する文法、語句などの意味と使い方を知る。「知識・理解」

(評価方法：ペーパーテスト)

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標は、分詞の形容詞的用法と間接疑問文である。形容詞的用法に十分に慣れ、理解し、さらに詳しく表現できるようにと考えている。間接疑問文についても語順について注意し、理解させ表現に活かしたい。

題材も、「議論」を扱ったもので、生徒の関心のあるテーマで、各々の意見の内容や論点を正確に読み取ることができるようにして、自分の意見を述べるができるようにしたい。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 5 現在分詞、過去分詞の形容詞的用法、間接疑問文	①相手の述べる意見や考えをしっかりと聞き取ろうとする。		②話題について述べられている英語を聞いてその内容が理解できる。	③分詞や間接疑問を含む文を聞いて理解している。
	④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとする。	⑤提示される話題について自分の意見や考えをまとめて英語で述べるができる。		⑥分詞や間接疑問の用法を理解して、それを使った文ができる。
	⑦話題について書かれている情報を積極的に読み取ろうとする。	⑧教科書の本文を正しいイントネーションで読むことができる。	⑨教科書の本文の内容が正しく読み取れている。	⑩分詞や間接疑問の用法を含む文を読み取ることができる。
	⑪話題について、間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫自分の意見や考えをまとめて英語で書くことができる。		⑬分詞や間接疑問を使って文を書くことができる。

(2)「精選化」

ここで目指しているのは、提示された話題に対して自分の意見の理由を公表できるようになることである。また知識・理解については、分詞と間接疑問の持つ意味、働き、用法などを理解して、正しい文脈でつかえるようになることである。身近な内容の英文で使い方に慣れることが大切だと考え⑬の評価基準を選んでいる。

自分の考えをまとめるには、ある程度の基本となる意見文を実際に参考として読むことが大切であると考え⑨の評価基準を選んでいる。

また「自分の考えをまとめて発表する」ためには、相手のことを理解し、十分に意見を聞き、内容を考えるということが大切であるので、①、④、⑤を選んだ。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 5 現在分詞、過去分詞の形容詞的用法、間接疑問文	①相手の述べる意見や考えをしっかりと聞き取ろうとする。			
	④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べるようにする。	⑤提示される話題について自分の意見や考えをまとめて英語で述べることができる。		
			⑨教科書の本文の内容が正しく読み取れている。	
				⑬分詞や間接疑問を使って文を書くことができる。

(3)「構造化」

自分の意見や感想を表す力が伸びていることがこの単元を終えての目標なので、授業の流れは精選化の段階で考えたことが中心となる。

具体的には、分詞の形容詞的用法と間接疑問の理解、教科書の本文の読み取り、その内容から教科書の文章などを参考に、自分の意見をまとめ、発表する、ということになる。

単元名	Unit 5 Video Games For or Against			
指導目標	分詞の形容詞的用法、間接疑問文を用いた文の形、意味・用法を理解し、表現できる。提示された話題に対して、自分の意見を理由をまとめて発表できる。			
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-end; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-bottom: 10px;"> <p>④自分の意見や考えを、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。</p> <p>⑤自分の意見や考えをまとめて英語で述べるができる。</p> <p>①相手の述べる意見や感想をしっかりと聞き取ろうとしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-bottom: 10px;"> <p>⑨教科書の本文の内容が正しく読み取れている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>⑬分詞や間接疑問の意味や用法を理解して、それらを使って文を書くことができる。</p> </div> </div>				

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

3年

1. 教科目標：外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 単元名：3年 Unit 6 20th Century Greats (20世紀の偉人)
(東京書籍 New Horizon English Course 3)

3. 単元目標：① 接触節、関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
② 20世紀の偉人たちに興味・関心を持つ。

4. 単元(題材)の評価目標

3の目標を観点別目標に置きかえるとともに評価方法を考えてみた。

(1) 学習した接触節、関係代名詞を使って自分の考えや意見を深めようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：「レポートをまとめよう」の完成】

(2) 自分の考えや意見を学習した接触節・関係代名詞を使いながら発表できる。

[表現の能力]

【評価方法：「レポートをまとめよう」の発表】

(3) 人のレポートを聞いたり、読んだりして、その内容を理解する。

[理解の能力]

【評価方法：聞き取りテスト・スピーチ・ペーパーテスト】

(4) 接触節や関係代名詞(who, which, that)の意味と使い方を知る。

[言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5. 目標・内容分析：

【具体化】

この単元の指導目標は、接触節、関係代名詞の用法を理解することである。

- ① 「名詞+接触節」はこれまでにでてきた「名詞+接触語句」の発展したものとする。
- ② 日本語には関係代名詞がないので、関係代名詞のない形容詞、つまり接触節のほうが、関係代名詞を伴う形容詞節よりも導入しやすいと考える。
- ③ 最初は接触節である程度慣れさせ、その後で主語になる関係代名詞の“who”からという順で理解していきたいと考える。

また、20世紀の偉人たちに興味・関心を持ち、それが書かれている英文を読み取る力を育てることをもう一つの目標にする。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 6 接触節・関係代名詞の使い方（主格、目的格の関係代名詞の文）	①人や物について、たとえ良く解らなくても話されていることを積極的に聞き取ろうとする。		②人や物について述べられている英語を聞いてその内容が理解できる。	③接触節のある文を理解している。 ・主格の関係代名詞のある文を理解している。 ・目的格の関係代名詞のある文を理解している。
	④人や物について間違いを恐れずに積極的に伝えようとする。	⑤人や物について英語で話すことができる。 ・人や物について尋ねることができる。		
	⑥人や物について書かれている情報を積極的に読み取ろうとする。	⑦人や物について書かれている英文を正しいイントネーションで読むことができる。（教科書の本文を正しく読むことができる。）	⑧人や物について書かれている英文の内容を読み取ることができる。（教科書本文の内容が読み取れる。）	
	⑨人や物について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑩人についてのレポートが書ける。	⑪レポートの発表を聞いてその内容をまとめて書ける。	

【精選化】

ここで目指しているのは、人や物について自分で考えて、英語で表現できるようになることである。

そのために、接触節のある文や関係代名詞のある文を理解して、正しい文脈で使えるようになることが必要である。そこで、③の評価規準をまず選んでいる。

同時に、20世紀の人物について述べられている文章に触れ、その内容を理解し興味を持つ必要があると考え、②の評価規準を選び出している。

そして、「人や物について間違いを恐れずに積極的に書く」という目標を考えると、評価規準の⑧⑤⑨は、実際には一つの力として判断されるものとする。

なぜなら、人や物事について書かれた英文の内容を読み取り、それについて興味を持ち、自分の考えで、英語で話すことが実践的コミュニケーション能力の基礎を養うために重要だからである。また、自分が興味を持った人物について、自分の考えに基づいて表現できなければ、本当の意味での実践的なコミュニケーションの能力が身についたとは言えないと思うからである。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 6 接触節・関係代名詞の使い方（主格、目的格の関係代名詞の文）	①		②人や物について述べられている英語を聞いてその内容が理解できる。	③接触節のある文を理解している。 ・主格の関係代名詞のある文を理解している。 ・目的格の関係代名詞のある文を理解している。
	④	⑤人や物について英語で話すことができる。 ・人や物について尋ねることができる。		
	⑥	⑦	⑧人や物について書かれている英文の内容を読み取ることができる。（教科書本文の内容が読み取れる。）	
	⑨人や物について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑩	⑪	

【構造化】

接触節や関係代名詞のある文章を通して、人物について述べられている英文を理解し、最終的には人物について英語で話したり、書いたりすることが目標なので、授業の流れは評価規準の精選化の段階で考えたことが実際の流れとなる。

具体的には、20世紀の偉人についての英文を読み、その人物について興味を持つことやその人物について英語で話したり書いたりするということになる。

単元名	Unit 6 (接触節・関係代名詞 (主格、目的格) の文)			
指導目標	接触節・関係代名詞 (主格・目的格) を含む文を理解し、運用できるようにする。			
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
第1時～第4時			<p>②人や物について述べられている英語を聞いてその内容が理解できる。</p>	<p>③接触節のある文を理解している。 ・主格の関係代名詞のある文を理解している。 ・目的格の関係代名詞のある文を理解している。</p>
第5時～第10時			<p>④人や物について書かれている英文の内容を読み取ることができる。 (教科書本文の内容が読み取れる。)</p>	<p>⑤人や物について英語で話すことができる。 ・人や物について尋ねることができる。</p>
	<p>④人や物について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。</p>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

育成学級（数学）

知的障害者を教育する養護学校の各教科 中学部「数学科」

1 教科目標

日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な事柄についての理解を深めそれらを扱う能力と態度を育てる。

育成学級では、普通学級の学年の目標をふまえつつも、近い将来にはこんなことができるようになってほしいという保護者の願い、生徒自身の願い、社会（担任を含めた、生徒に関わるすべての集団や地域）の願いをもとに、生徒個人の学力や特質、得意なこと等を総合的に考えて、個別に目標を立てて指導している。

① 基礎的な四則計算がより速く、正確にできるようにし、日常生活の中でも適切に活用できる力を伸ばす。

（2年）加減の意味と表し方についての理解を深め、それらの計算がより確実にできる。

除法について理解し、それらの計算がより確実にできる。

（3年）量の概念や測定（長さや時間、金銭など）について、より確かな理解と日常生活の中での活用を図る。

② 基本的な平面図形の理解を深め、定規・コンパス等を使って作図ができる。

2 単元名

2位数×2位数の計算

2位数×2位数の計算を使った文章題

金銭の基本の理解

（育成学級3年 R T）

3 単元目標

2位数×2位数の計算や2位数×2位数の計算を使った文章題を最後まで自分の力で答えを求めることができる。

金銭の基本を理解し、こづかい帳をつけるなど金銭の管理ができる

4 単元（題材）の評価目標

（1）「数と計算」初歩的な数量の処理や計算をし、日常生活の中で使う。

（2）「実務」 金銭の基本の理解と管理

の2つの観点についての評価規準の作成を行った。

5 「具体化」「精選化」「構造化」

（1）具体化

育成学級の生徒は、教科学習において、得意な分野と不得意な分野を持っている。国語

においては、漢字の読み書きはよくできるが、文章の読解に課題のある生徒が多い。同じことが数学でもあてはまり、計算はできるが文章問題は苦手という生徒が多い。

数学では、小学生の時につまずいたことで、苦手意識が強くなってしまふことがある。この単元（題材）に取り組んでいる生徒は、中学校入学時には数学に強い苦手意識を持っていた。1位数+1位数の計算でも繰り上がりがあるとなかなかできないという壁があった。また、計算力が日常生活で生かせず、1000円札を出しておつりをもらうという方法でしか買い物ができなかった。

個別目標を立て、スモールステップを踏んで学習を進めていったことで、苦手意識がだんだんなくなり、積極的に問題に取り組むようになりつつある。

「数と計算」については、

- (1) 2位数×2位数の計算では、まず反復練習をすることで正確に計算できる力をつけ、意欲や自信を育てること
- (2) 2位数×2位数の計算を使った文章題では、計算の意味について理解を図る。

「実務」については、

- (1) 買い物に行ったときに、お金を適切に出せる力をつける
- (2) こづかい帳のつけ方について理解を図る。

を考えた。

育成学級の生徒の場合は、長いスパンで、一つひとつの課題についてどこにつまずいているのか、どのような工夫や支援をすれば達成できるのかを、常に生徒に寄り添いながら取り組んでいかなければならないと考えている。

学習内容	「数と計算」	「実務」
2位数×2位数の計算	① 2位数×2位数の計算を積極的に頑張ろうとする。	
	② 繰り上がりなしの2位数×2位数の計算を反復練習して正確に計算できる。	
	③ 1位数が繰り上がりありの2位数×2位数の計算を反復練習して正確に計算できる。	
	④ 1位数・2位数とも繰り上がりありの2位数×2位数の計算を反復練習して正確に計算できる。	
	⑤ 自分の力で計算をやりとげ達成感	

	や成就感が持てる。	
2位数×2位数の計算を使った文章題	⑥〇〇円の品物を〇〇こ買ったらいくらになるかを計算できる。	⑦貨幣の種類を知り、お金を正しく数えることができる。 ----- ⑧1000円紙幣が500円硬貨2枚に相当することがわかる。 ----- ⑨267円の買い物であれば、300円を支払えばおつりがもらえるなど、購入金額以上の金額を支払う概算ができる。 ----- ⑩計算機を使うなどして、おつりを計算できる。
こづかい帳をつける		⑪買い物のレシートを見て、こづかい帳がつけられる。 ----- ⑫実際に買い物学習に行くときに、前もって、1000円なら何と何と何を買い物ができるとかを計画することができる。

(2) 精選化

観点「実務」では、将来の自立に向けて、自分で自分のお金を管理運営できることがRTの目標になると考える。

実際に将来の生活を考えるときに、自分の収入と支出のバランスをとることが大切なので、何を買うのかを計画して支出することができる力が、最も大切であると考え。また、1000円札を出しておつりをもらうという方法でしか買い物ができないようでは、困ることもあり得る。

そこで、観点「実務」における⑨の「評価規準」である「267円の買い物であれば、300円を支払えばおつりがもらえるなど、購入金額以上の金額を支払う概算ができる」と、⑫の「実際に買い物学習に行くときに、前もって、1000円なら何と何と何を買い物ができるとかを計画することができる」に視点を置いて授業を進める必要があると考える。

また、観点「数と計算」では、④の「1位数・2位数とも繰り上がりありの2位数×2位数の計算を反復練習して正確に計算できる」ことが⑤の「自分の力で計算をやりとげ達成感や成就感が持てる」や⑥の「〇〇円の品物を〇〇こ買ったらいくらになるかを計算する」につながっていく。RTに限らず、育成学級の生徒は、どれだけ達成感や成就感

が持てるかで、大きく学力の伸びが違ってくる。指導者としては、⑤の「自分の力で計算をやりとげ達成感や成就感が持てる」を、最も大切にしたいと考えている。

学習内容	「数と計算」	「実務」
2 位数 × 2 位数の計算	① ----- ② ----- ③ ----- ④ 1 位数・2 位数とも繰り上がりありの 2 位数 × 2 位数の計算を反復練習して正確に計算できる。 ----- ⑤ 自分の力で計算をやりとげ達成感や成就感が持てる。	
2 位数 × 2 位数の計算を使った文章題	⑥ ○○ 円の品物を ○○ こ買ったらいくらになるかを計算できる。	⑦ ----- ⑧ ----- ⑨ 267 円の買い物であれば、300 円を支払えばおつりがもらえるなど、購入金額以上の金額を支払う概算ができる。 ----- ⑩
こづかい帳をつける		⑪ 買い物のレシートを見て、こづかい帳がつけられる。 ----- ⑫ 実際に買い物学習に行くときに、前もって、1000 円なら何と何と何を買い物ができるかを計画することができる。

(3) 構造化

この単元では、2 位数 × 2 位数の計算が正確にできるようになると共に、それを実生活の中で生かすことができるようになることが目標である。RT については、数学への苦手

意識を克服しつつあるので、計算においても、スモールステップを踏んで、少しずつ難度を上げていくことができると思われる。時間はかかっても、自分の力で計算問題を克服していくことで、達成感や成就感が持てると考えている。その達成感や成就感が基礎となり、実生活の中で生かそうという意欲につながっていく。

将来の自立に向けて、自分のお金は自分で管理できる力をつけるための基礎としての取り組みとしたい。

単 元 名	2 位数 × 2 位数の計算 2 位数 × 2 位数の計算を使った文章題	
指 導 目 標	自分の力で計算問題を克服していくことで、達成感や成就感が持てる。 自分のお金は自分で管理できる基礎的な力をつける。	
観 点	「数と計算」	「実務」
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-bottom: 10px;"> <p>④ 1 位数・2 位数とも繰り上がり ありの 2 位数 × 2 位数の計算を反 復練習して正確に計算できる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-bottom: 10px;"> <p>⑤ 自分の力で計算をやりとげ達成 や成就感が持てる。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 80%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>⑥ 〇〇円の品物を〇〇こ買ったら いくらになるかを計算できる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>⑨ 267 円の買い物であれば、300 円 を支払えばおつりがもらえるなど、購入 金額以上の金額を支払う概算ができる。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin-bottom: 10px;"> <p>⑩ 買い物のレシートを見て、こづかい帳 がつけられる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>⑫ 実際に買い物学習に行くときに、前 もって、1000 円なら何と何と何を 買うことができるかを計画することが できる。</p> </div> </div>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

育成学級（技術・家庭）

知的障害者を教育する養護学校の各教科 中学部「職業・家庭」

1 教科目標

明るく豊かな職業生活や家庭生活が大切なことに気付くようにするとともに、職業生活及び家庭生活に必要な知識と技能の習得を図り、実践的な態度を育てる。

2 単元名

被服の制作 「甚平・浴衣作り」

3 単元目標

制作をとおして達成感や成就感を持つことができる。

自分や他人の安全に気を付けて実習ができる。

友達との作業のつながりを知り、協調して作業ができる。

季節に応じた衣服を選んだり洗濯、アイロン等の衣服の手入れができる。

4 単元(題材)の評価目標

「職業・家庭科」の内容構成の考え方としては、「働くことの意義」「職業に関する基礎的な知識」「道具や機械」「役割」「産業現場等における実習」「家庭の役割」「家庭に関する基礎的な事項」「情報」「余暇」の九つの観点から示されている。

この単元では、

- (1)「働くことの意義」働くことに関心を持ち、働く喜びを味わい、作業や実習に参加すること。
- (2)「道具や機械」道具や機械の使い方などが分かり、安全に作業や実習をする。こと。
- (3)「役割」自分の役割を理解し、他の者と協力して作業や実習をする。こと。
- (4)「家庭に関する基礎的な事項」家庭生活に必要な被服、食物、住居などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。こと。

の四つの観点について評価規準の作成を行った。

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

「働くことの意義」については、

- (1) 甚平・浴衣作りという活動にに興味を持ち、作る活動が働くことにつながることに気付くこと。
- (2) 作る活動を自分の力で成し遂げ、その成果に対し、達成感や成就感を持つこと。
- (3) 実習の時に、作業の準備、作業活動、作業の片付け、という一連の活動を確実にを行い、成し遂げること。
- (4) 制作の技能については評価しないこと。

「道具や機械」については

- (1) 作業に必要な道具や機械の名称や操作の仕方を理解すること。
- (2) 道具や機械の簡単な手入れや後片づけをすること。
- (3) 安全に関するいろいろな用語や表示に関心を持ったり、危険な場所や物に注意を払ったり、自分や他人の安全に気を付けたりして仕事をする事。

「役割」については

- (1) 制作の全体の内容と自分の作業の内容や手順がわかること。
- (2) 自分の作業の内容について分からないときは、指導者に聞くこと。
- (3) 同じ作業をする人と一緒に協調して活動したり、人の作業とのつながりを理解して、自分の作業をしたりすること。
- (4) 作業のきまりや指示などをよく守ったり、必要のない時以外は、人の仕事に手出しや口出しをしないこと。

「家庭に関する基礎的な事項」については

- (1) 季節に応じた衣服を着ること。
- (2) 清潔な衣服を着ること。
- (3) 自分で身なりを整え簡単な日常着などの手入れをすること。
- (4) 洗濯用の器具の扱い方、洗剤の使い方などが分かり、簡単な日常着を洗濯する、干す、アイロンをかける、たたむ、という一連の作業ができること。

を考えた。

ただ、すべての内容でそれぞれの能力を伸ばすためには、一人ひとりの生徒の実態を把握し、その生徒にとって今付けさせたい力は何か、どのように工夫や補助をすればいいか、を考え、長い将来を見すえた上で、長いスパンで取り組んでいかなければならないと考える。

学習内容	役割	道具や機械	働くことの意義	家庭に関する基礎的な事項
甚平・浴衣の制作（えりを身ごろに付ける）	②自分の作業の続きが分かり、本時に行う作業内容を見つけようとする。	③作業に必要な道具や機械がわかり準備ができる。	①浴衣、甚平作りに興味を持ち積極的に頑張ろうとする。	
	⑤自分の作業の内容が分からないときは、指導者に聞	④危険な場所や物に注意を払ったり、自分や他人の		

	こうとする。	安全に気を付けて作業ができる。		
	⑥同じ作業をする人と一緒に協調して活動したり、人の作業とのつながりを理解して、自分の作業をしようとする。		⑦自分の力で制作し、達成感や成就感がもてる。	
衣服の着用と手入れ	⑧作業のきまりや指示を守り、必要のない時以外は、人の仕事に手出しや口出しをしない。	⑨作業後に道具や機械の簡単な手入れや後片づけができる。	⑩作業の準備、活動、片付けという一連の活動を確実にやる。	⑪学習を通して季節に応じた衣服を着ることが分かり、積極的に衣服の手入れをしようとする。

(2) 精選化

観点「家庭に関する基礎的な事項」については、将来にわたって全員に付けさせたい力なので、自分で自分の衣服を考えて着用したり自分で衣服の手入れをするということが、生徒一人ひとりの目標になると考える。

実際に将来の進路を考えるとときに、就労を目標と考えると、仲間との協調や人との作業のつながりを理解して自分の作業を行えること。作業時の安全に気を付けることが就労の基本となる部分である。

そこで、観点「役割」における⑤の「評価規準」である「同じ作業をする人と一緒に協調して活動したり、人の作業とのつながりを理解して、自分の作業をしようとする。」と、観点「道具や機械」における④の「評価規準」である「危険な場所や物に注意を払ったり、自分や他人の安全に気を付けて作業ができる。」に視点を置いて授業をする必要があると考える。

また、第3学年のこの段階で自分の進路を考える機会が増えると考えられるので、作業学習に対する意欲を高められる大切な機会ととらえることができる。それとともに、自分の力で1つの作品を制作し完成させることは自分の自信及び、達成感や成就感を持つことになり、次の作品への意欲につながると考えるので観点「働くことの意義」における⑦の「評価規準」である「自分の力で制作し、達成感や成就感がもてる。」を選んでいる。

学習内容	役割	道具や機械	働くことの意義	家庭に関する 基礎的な事項
甚平、浴衣の制作	②	③	①	
	⑤	④危険な場所や物に注意を払ったり、自分や他人の安全に気を付けて作業ができる。		
	⑥同じ作業をする人と一緒に協調して活動したり、人の作業とのつながりを理解して、自分の作業をしようとする。		⑦自分の力で制作し、達成感や成就感がもてる。	
	⑧	⑨	⑩	⑪学習を通して季節に応じた衣服を着ることが分かり積極的に衣服の手入れをしようとする。

(3) 構造化

この单元では、制作を通して友達との協調、つまり道具をゆずり合ったり使ったり、友達の前で作業を見て、自分は次に何をすればよいのか。を考えなければならない。また、道具や機械の数が限られているので、ミシンを使えないときにはどんな作業ならできるのかも考えなければならない。その中で、危険な場所や物（ミシン、アイロン、針、はさみなど）に注意を払ったり、管理をきちんとすることや自分だけでなく他人の安全にも気を付けて作業を行う必要がある。そして、時間はかかっても自分の力で制作を行うことにより、達成感や成就感がもてると考えている。ただ、自分一人の力だけではなかなか難しい場面や、一人ひとりの実態に合わせた指導を行う必要があるため、指導者が声かけをしたり、道具を工夫したり、作業場所や作業環境を整えたり、指導者と共に活動を行う配慮も必要であると考えている。最終的な目標としては、制作を通して衣服に関心を持ち、季節に応じた衣服を着ることの大切さが分かり、自分から積極的に簡単な日常着の洗濯、干す、

アイロンをかける、たたむ、という一連の作業ができるように。という将来の自立に向けての大きな取り組みとなっている。

単元名	被服の製作 「甚平・浴衣作り」			
指導目標	友達と一緒に協調したり作業のつながりを考えて自分の作業を安全に行えるようにする。自分の力で制作することにより、達成感や成就感をもてるようにする。季節に応じた衣服や手入れの方法が理解できるようにする。			
観点	役割	道具や機械	働くことの意義	家庭に関する基礎的な事項
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>④危険な場所や物に注意を払ったり、自分や他人の安全に気を付けて作業ができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>⑥同じ作業をする人と一緒に協調して活動したり、人の作業とのつながりを理解して、自分の作業をしようとする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>⑦自分の力で制作し、達成感や成就感がもてる。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; margin-top: 20px; margin-left: 30%;"> <p>⑩学習を通して季節に応じた衣服を着ることがわかり積極的に衣服の手入れをしようとする。</p> </div>			

おわりに

今、この冊子を見て、平成15年度の春、本市教育委員会から本校へ赴任してきたときの様子が思い浮かんできます。

教育改革の真っ直中、まず最初に新しい教育課程の編成を行うコア（中核）として掲げなければならないことは、「総合的な学習の時間」はもちろんのこと、「目標に準拠した評価」に規定された観点別学習状況の評価と評定における本校の現状、そして、実施上の課題等の改善方策を吟味・検討し、教育実践を行うことだと考えました。特に、指導のプロとしての教師集団が身に付けなければならない「目標に準拠した評価」についての意義と理解、その方法論、そして評価活動の実践等における学校体制の整備や確立が喫緊の急務でありました。その方略として、年度の最初の校内研修で評価活動の取組方法の具体的、実践的な方法について研修を行いました。その内容は、「目標に準拠した評価」に必要な評価規準の設定における手順の一手法としての「目標・内容分析」でした。以後、教師の実践から得た課題を観取りながら「目標・内容分析」の手法に独自の修正を加え、校内研修をはじめとし、教師への個別的な助言、支援を根気よく継続してきました。

当初、教師集団の雰囲気はというと、「なぜ、具体化、精選化、構造化をしなければならないのか」「具体的にどのように目標・内容分析を行うのか」「具体化、精選化、構造化のどこから手を付ければよいのか」といった否定的な声が随分聞こえてきました。しかし、ある時、一人の教師が実際に自分の授業を思い浮かべながら、目標・内容分析を行ってみたら、「あ！目標・内容分析とは、こういう意味なのか」といった言葉が発せられてきました。その驚嘆の声は、澄んだ空気の中で山々に響き渡るこだまのように感じました。その教師は、目標・内容分析を行うことにより、単元（題材）で生徒に身に付けるべき学力として、自信もてる確かな評価規準を洗い出したのです。この体験により、指導のプロとして目前に漂っている霧の中から、一筋の光を感じたことだと思います。それに続き、数人の教師が実際に「目標・内容分析」を行うという光景が見られるようになりました。

今年度、数人の教師の実践事例をサンプルにしたがらの校内研修、評価活動のリーダーとなっている教師の実践事例及び教師の協同的な助言、支援とともに、本校のすべての教師は、自分の教科における一つの単元（題材）等の目標・内容分析を行ってきました。

その結果、今年度に赴任してきた教師をはじめ、「目標・内容分析」の経験のない教師にとっては、「目標に準拠した評価」における認識や理解の不十分さのため、多くの戸惑いを隠しきれませんでした。しかし、それぞれの立場の人間が納得する評価規準は、一朝一夕に完成するものではありません。ただ、確かに言えることは、教師が実践力を身に付けるためには、まさしく「なすことによって学ぶ」ということです。本校の教師は、個々の教師の評価活動の取組の経験に比例して、一步一步ではありますが確実に力を身に付けていると思います。

一方、多くの学校では、評価活動の研究・研修の熱は去り、評価活動への関心が低くなっているようです。しかし、国では、次期学習指導要領の改訂で到達目標を設定されるように聞き及んでいます。こうなれば、ますます「目標に準拠した評価」における評価活動の工夫や充実が必要になると考えています。これからも、新たな学校づくりの礎として、地道な実践研究に励みたいと思います。

平成17年11月4日

京都市立衣笠中学校
校長 北原 琢也